

日野市食育推進に関する アンケート調査

調 査 書

令和 3 年 3 月

日 野 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	3
5 集計・分析にあたって	3
II 調査結果の分析	5
1 あなたご自身について	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	8
(3) 世帯状況	9
(4) 職業	10
(5) 居住地区	11
2 食育について	12
(1) 「食育」の認知度	12
(1-1) 「食育」に関する活動や行動の有無	14
(1-2) 「食育」に関する活動や行動の内容	16
(2) 食生活についての意識	18
(3) 朝食の摂取状況	29
(3-1) 朝食に食べるもの	31
(3-2) 朝食を食べない理由	34
(4) 「食事バランスガイド」の認知度	36
(5) 1日の野菜を食べる頻度	38
(5-1) 野菜を毎食食べない理由	40
(6) 1日に野菜を食べる量	42
(7) 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度	44
3 地産地消について	46
(1) 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験	46
(1-1) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由	48
(1-2) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由	50
4 農業体験について	52
(1) 農業体験の経験	52
(1-1) 行った農業体験の取り組み内容	54
(1-2) 農業体験を行っての変化	56
(1-3) 農業体験を行ったことのない理由	58
(2) 最も参加したい農業体験	60

目 次

5 環境への配慮について	62
(1) 環境に配慮して実践していること	62
6 新型コロナウイルス感染症流行による食生活への影響について	65
(1) 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化	65
(2) 食生活における今後の取り組み意向	80
(3) 食育についてほしい情報	89
Ⅲ 使用した調査票	93

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第3期日野市食育推進計画の最終評価を行うため、評価に必要な意識調査（アンケート）及び結果分析を行い、第4期食育推進計画の策定につなげることを目的とした。

2 調査の内容

- (1) あなたご自身について
- (2) 食育について
- (3) 地産地消について
- (4) 農業体験について
- (5) 環境への配慮について
- (6) 新型コロナウイルス感染症流行による食生活への影響について

3 調査の設計

- | | |
|------------|------------------|
| (1) 調査地域 | 日野市全域 |
| (2) 調査対象 | 日野市在住の20歳～79歳の個人 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 対象者の抽出 | 住民基本台帳による無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布、郵送回収 |
| (6) 調査期間 | 令和2年11月13日～12月8日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社 総合企画 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|--------|
| (1) 配布数 | 2,000通 |
| (2) 回収数 | 1,072通 |
| (3) 有効回収数 | 1,071通 |
| (4) 有効回収率 | 53.6% |

5 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」（number of caseの略）は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 全体の回答数は、性別、年齢、職業等の回答が「無回答」の場合も含めている。そのため、属性別のクロス集計については、属性（性別、年齢、職業）ごとの回答数を合計しても、全体の回答数と一致しない場合がある。

- (5) 設問によって、回答の小計を算出している。小計は個々の選択肢の回答者数の合計を全体の回答者数（基数）で除算した百分率である。このため、個々の比率（既に小数点第2位を四捨五入された数値）同士の合計の数値と一致しないことがある。

【具体例】 n=1,071人の場合		
	回答者数	比率
そう思う	351人	→ 32.8%
ややそう思う	381人	→ 35.6%
『そう思う（計）』	732人	→ 68.3%

個々の比率同士の合計=68.4%
 報告書に掲載の数値

- (6) クロス集計時に、基数（n）が小さい数字になる場合は誤差が大きいのので注意が必要であり、コメントを省略していることがある。

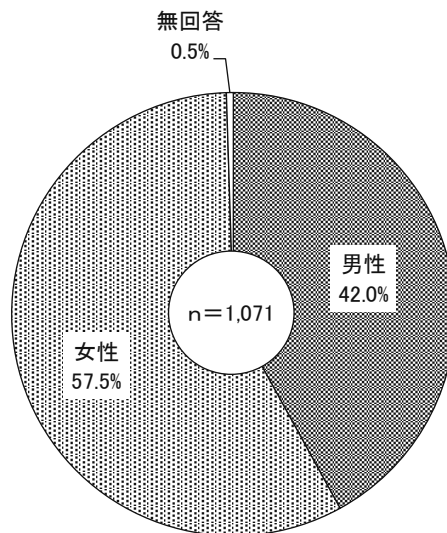
Ⅱ 調査結果の分析

1 あなたご自身について

(1) 性別

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

図 1－1－1 性別



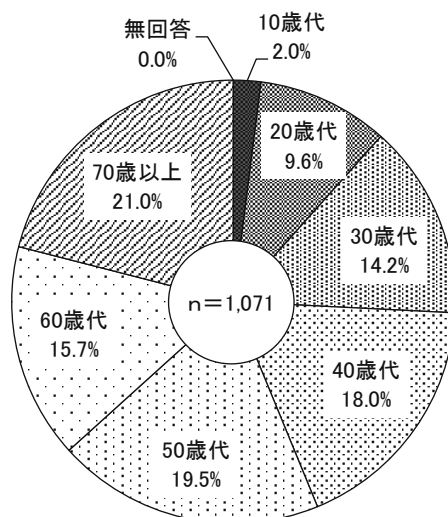
性別をたずねたところ、「男性」が42.0%、「女性」が57.5%となっている。

(図 1－1－1)

（２）年齢

F 2 あなたの令和2年10月1日時点の年齢を教えてください。（○は1つ）

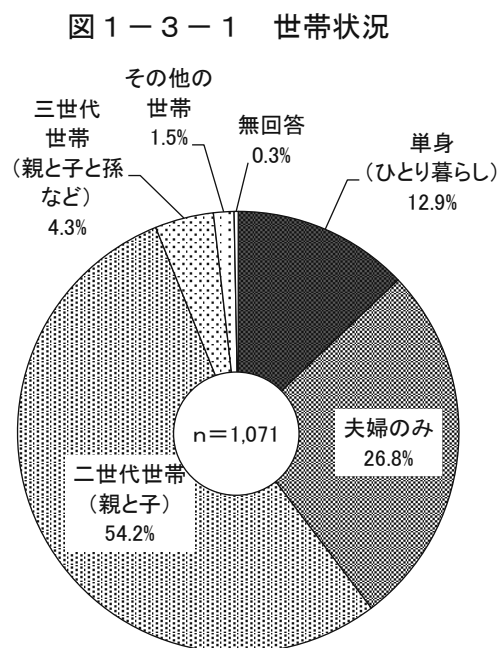
図 1－2－1 年齢



年齢（令和2年10月1日時点）をたずねたところ、「10歳代」（2.0%）、「20歳代」（9.6%）、「30歳代」（14.2%）、「40歳代」（18.0%）、「50歳代」（19.5%）、「60歳代」（15.7%）、「70歳以上」（21.0%）となっている。（図1－2－1）

(3) 世帯状況

F 3 あなたの世帯状況は以下のどれにあたりますか。(○は1つ)

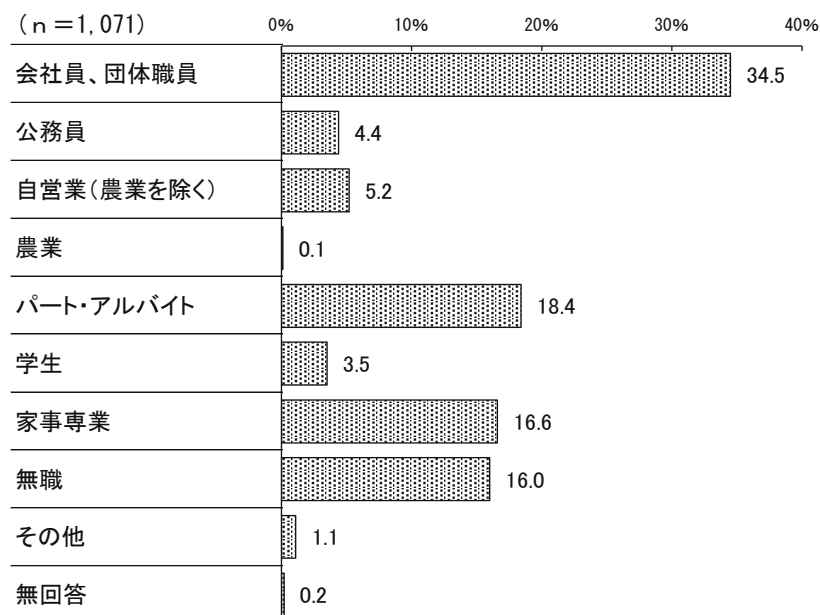


世帯状況をたずねたところ、「単身（ひとり暮らし）」（12.9％）、「夫婦のみ」（26.8％）、「二世世代世帯（親と子）」（54.2％）、「三世世代世帯（親と子と孫など）」（4.3％）となっている。（図 1－3－1）

(4) 職業

F 4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

図1-4-1 職業



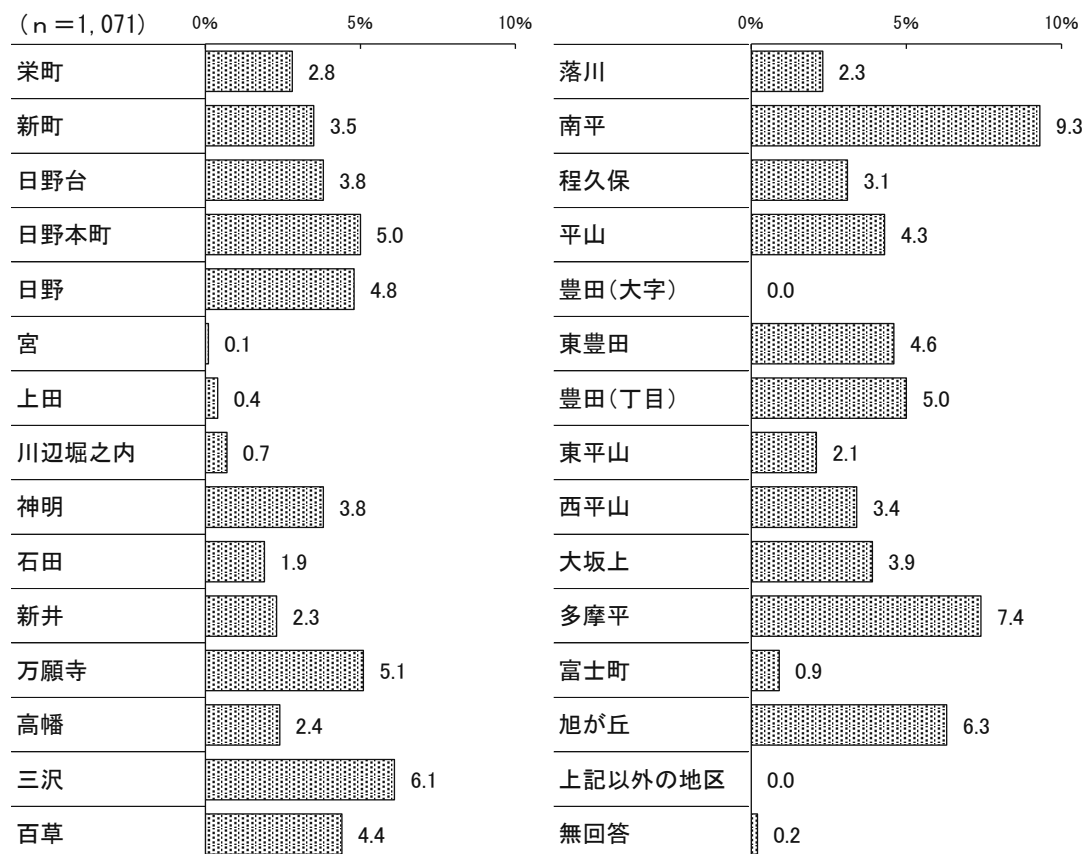
職業をたずねたところ、「会社員、団体職員」(34.5%)が3割台半ばと最も多く、次いで「パート・アルバイト」(18.4%)、「家事専業」(16.6%)などの順となっている。

(図1-4-1)

（５）居住地区

F 5 あなたが現在お住まいの地区は次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

図 1－5－1 居住地区



現在お住まいの地区をたずねたところ、「南平」（9.3%）、「多摩平」（7.4%）、「旭が丘」（6.3%）、「三沢」（6.1%）などとなっている。（図 1－5－1）

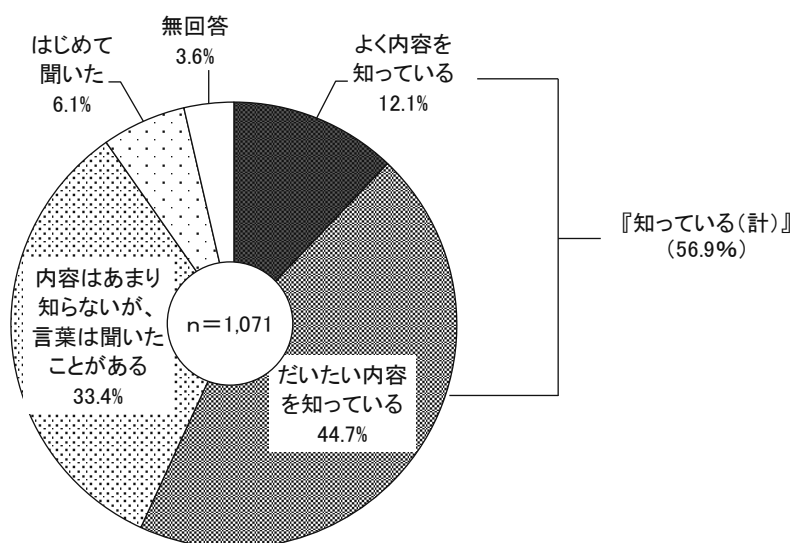
2 食育について

(1) 「食育」の認知度

問1 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

※「食育」とは、心身の健康の基本となる、食生活に関するさまざまな教育を行うことです。栄養のバランス、調理法、食べ物の安全性に関する知識などを身につけることや、豊かな食生活を楽しむ力を育むことなどを目指します。

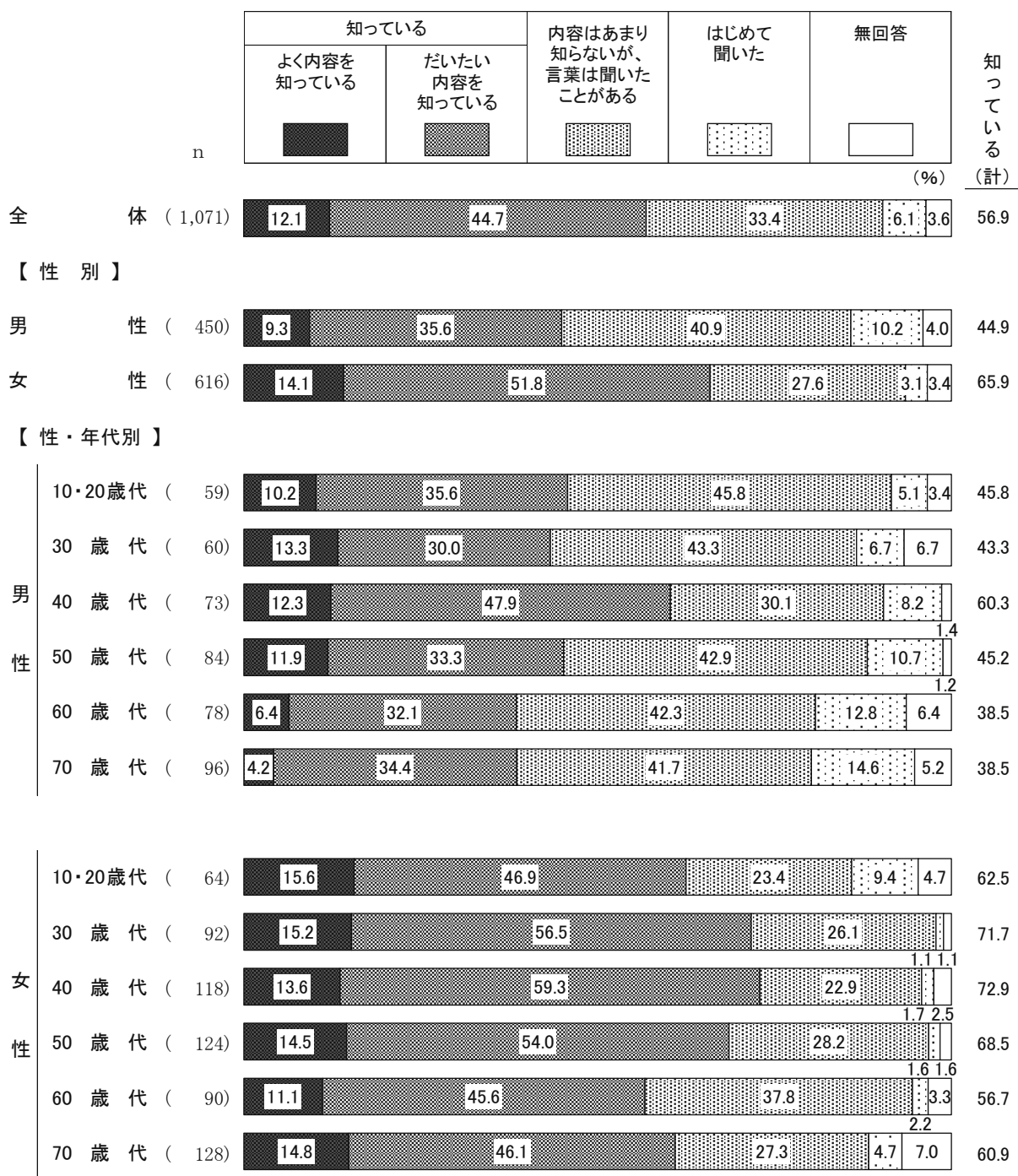
図2-1-1 「食育」の認知度



「食育」という言葉を知っているかたずねたところ、「よく内容を知っている」(12.1%)と「だいたい内容を知っている」(44.7%)を合わせた『知っている(計)』(56.9%)が5割台半ばとなっている。また、「内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」(33.4%)が3割台前半となっている。一方、「はじめて聞いた」(6.1%)は1割未満となっている。

(図2-1-1)

2-1-2 「食育」の認知度－性別／性・年代別



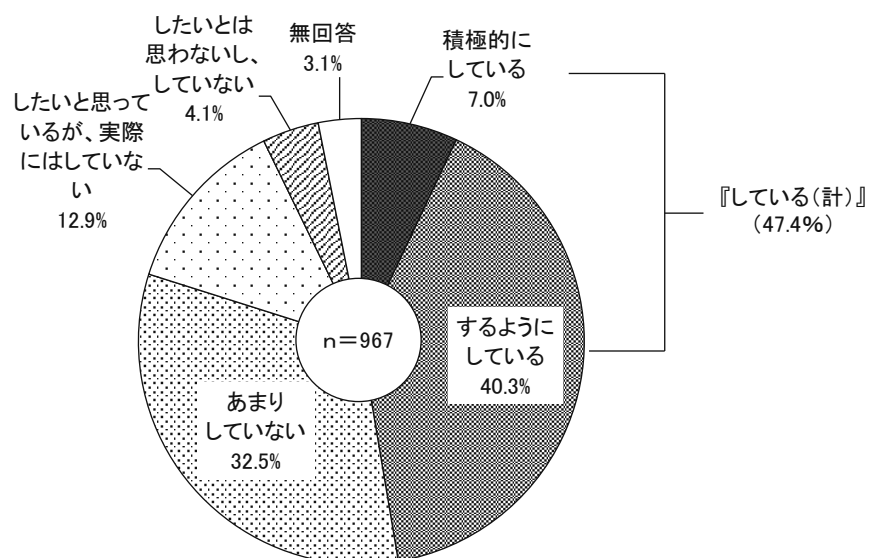
性別にみると、『知っている（計）』は女性のほうが21.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性40歳代、30歳代で7割を超えて多くなっている。一方、男性60歳代、70歳代は4割未満と少なくなっている。（図2-1-2）

(1-1) 「食育」に関する活動や行動の有無

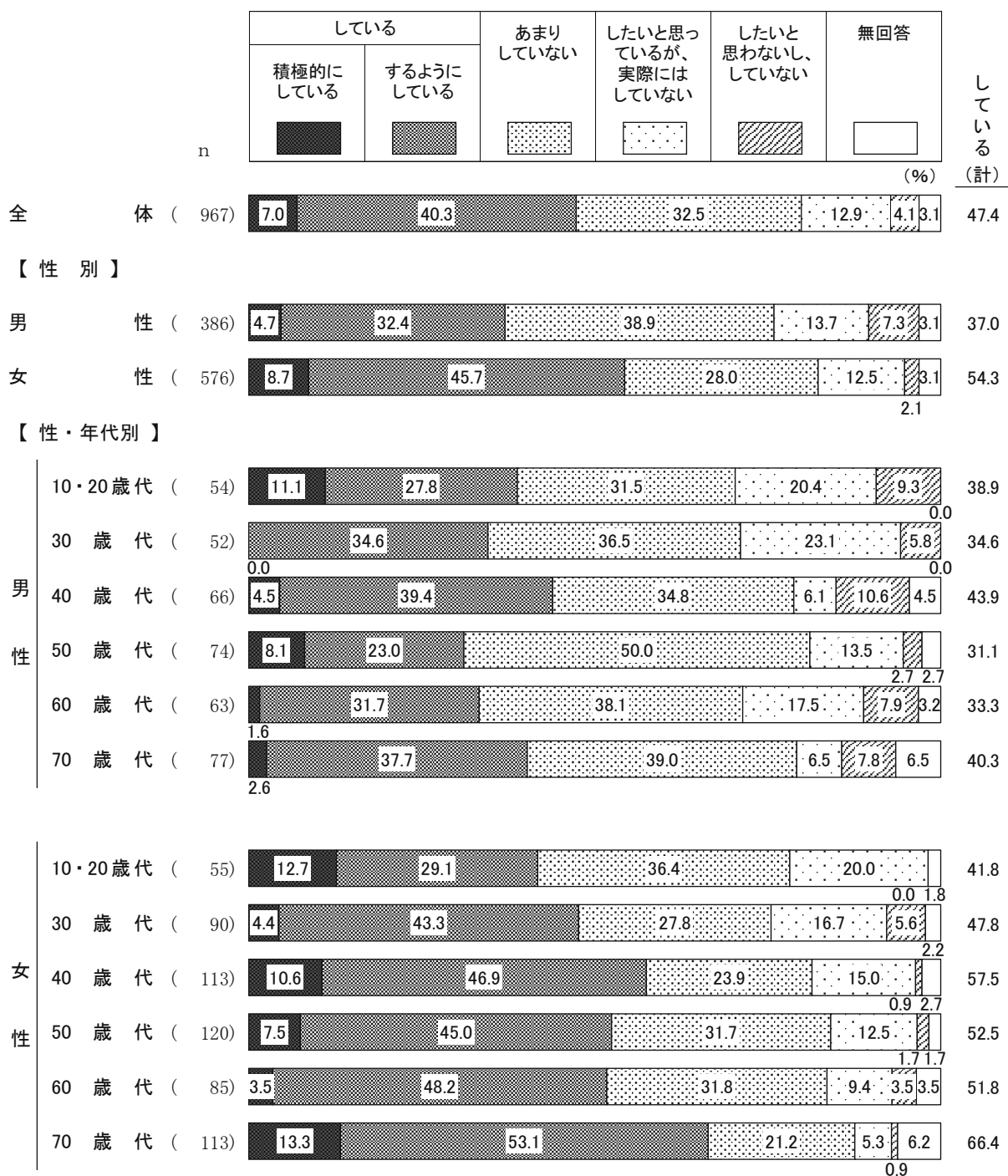
【問1で「1 よく内容を知っている」～「3 内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答した方に】
問1-2 あなたは日頃から「食育」に関する活動や行動をしていますか。(○は1つ)

図2-1-3 「食育」に関する活動や行動の有無



食育についてよく内容を知っている～内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがあると答えた方(967人)に「食育」に関する活動や行動の有無をたずねたところ、「積極的に行っている」(7.0%)、「するようにしている」(40.3%)を合わせた『している(計)』(47.4%)が5割近くとなっている。一方、「あまりしていない」(32.5%)は3割台前半、「したいと思っているが、実際にはしていない」(12.9%)は1割台前半、「したいと思っていないし、していない」(4.1%)は1割未満となっている。(図2-1-3)

図 2-1-4 「食育」に関する活動や行動の有無－性別／性・年代別



性別にみると、『している（計）』は女性のほうが17.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『している（計）』は女性70歳代で6割台半ば、女性40歳代で6割近くと多くなっている。一方、男性50歳代、60歳代、30歳代は3割台前半と少なくなっている。

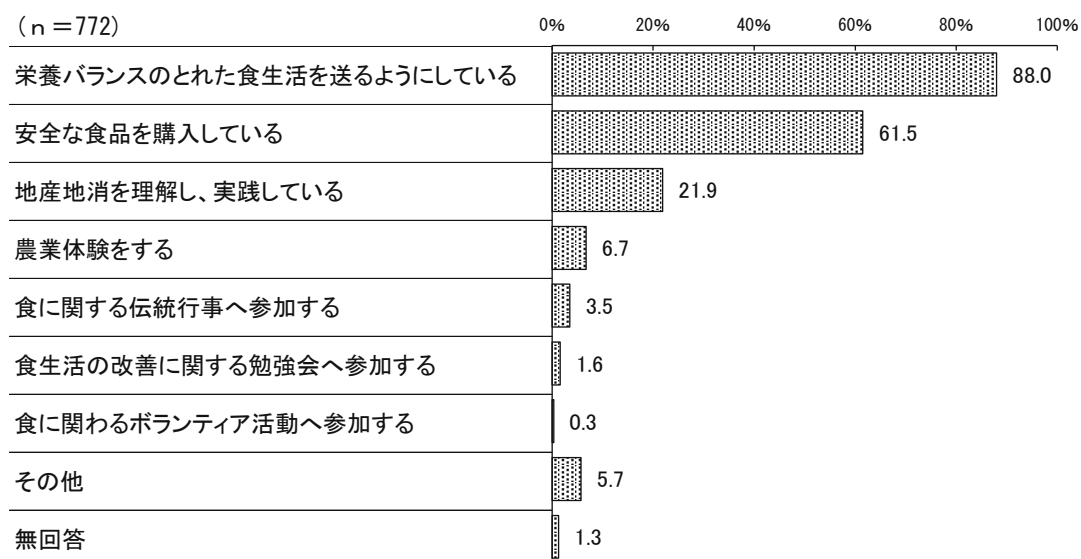
(図 2-1-4)

（１－２）「食育」に関する活動や行動の内容

【問１-２で「１ 積極的にしている」～「３ あまりしていない」と回答された方に】

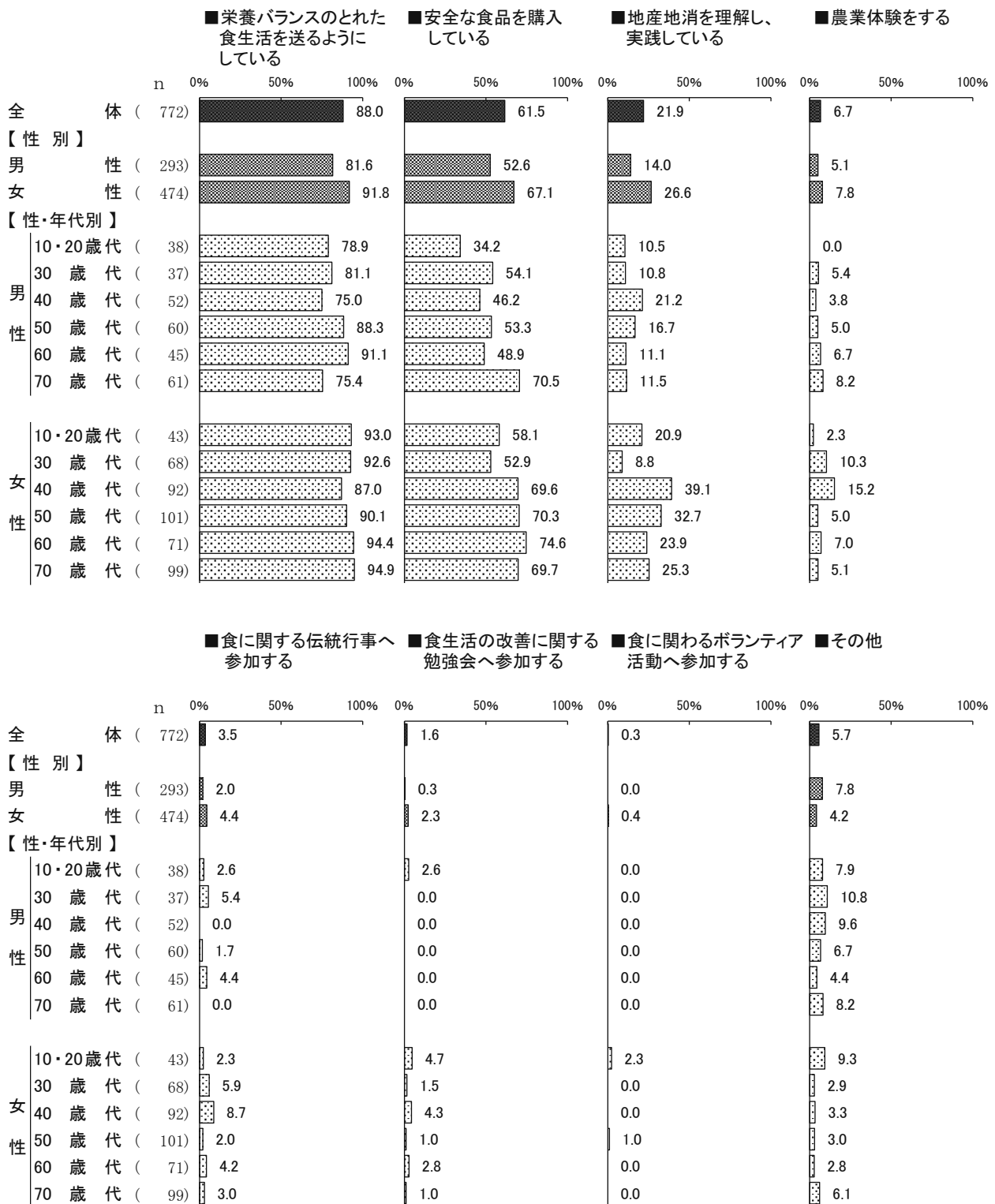
問１－３ あなたがしている「食育」に関する活動や行動の内容は何ですか。
（○はいくつでも）

図２－１－５ 「食育」に関する活動や行動の内容



食育に関する活動や行動を積極的にしている～あまりしていないと答えた方（772人）に食育に関する活動や行動の内容をたずねたところ、「栄養バランスのとれた食生活を送るようにしている」（88.0%）が9割近くと最も多く、次いで「安全な食品を購入している」（61.5%）、「地産地消を理解し、実践している」（21.9%）などの順となっている。（図２－１－５）

図 2-1-6 「食育」に関する活動や行動の内容－性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「安全な食品を購入している」で14.5ポイント、「地産地消を理解し、実践している」で12.6ポイント、「栄養バランスのとれた食生活を送るようにしている」で10.2ポイント高くなっている。

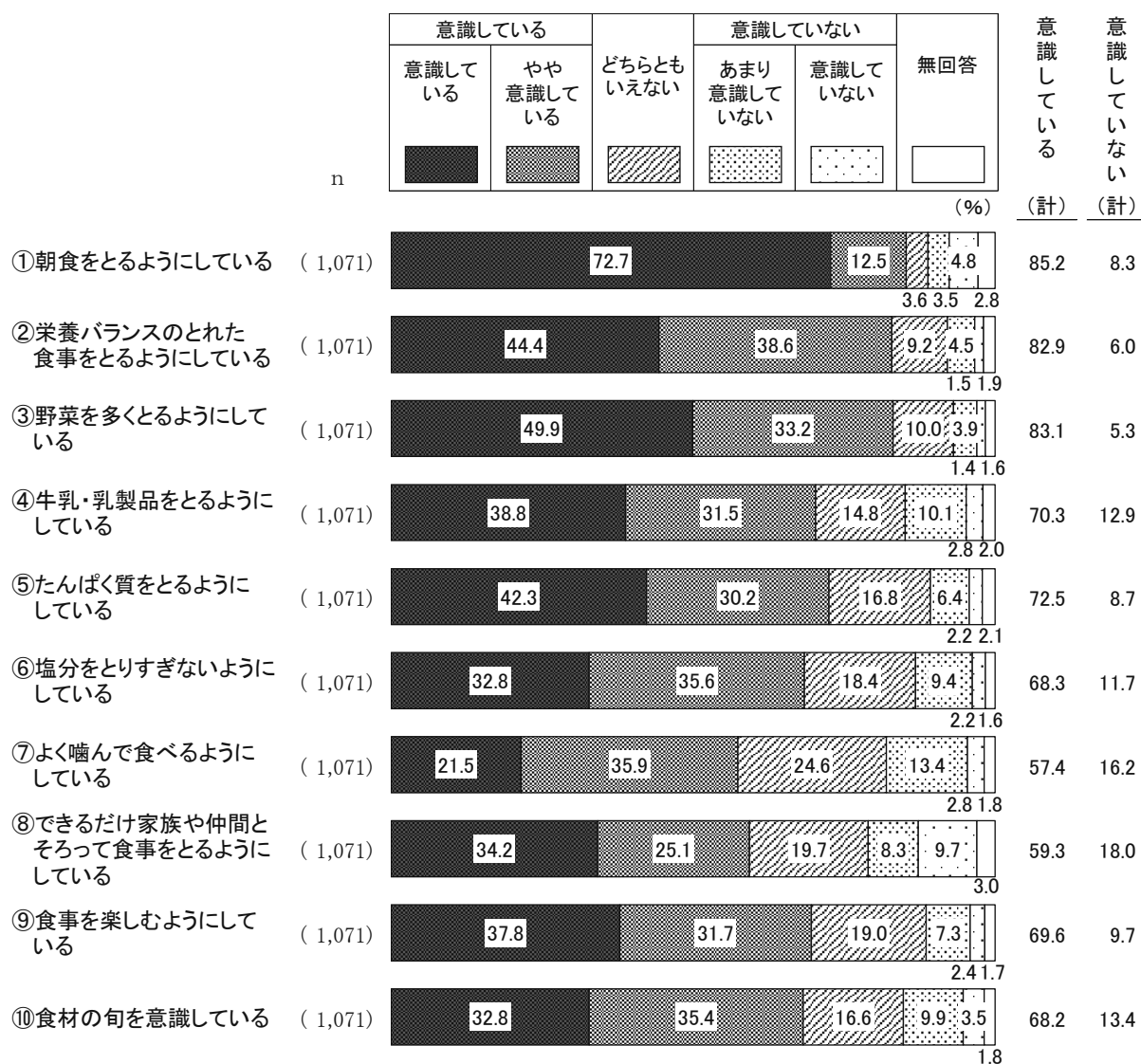
性・年代別にみると、「栄養バランスのとれた食生活を送るようにしている」は女性70歳代、60歳代で9割台半ば、「安全な食品を購入している」は女性60歳代で7割台半ば、「地産地消を理解し、実践している」は女性40歳代で約4割と多くなっている。(図2-1-6)

(2) 食生活についての意識

問2 食生活において次のことをどの程度意識していますか。

それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。(○は1つずつ)

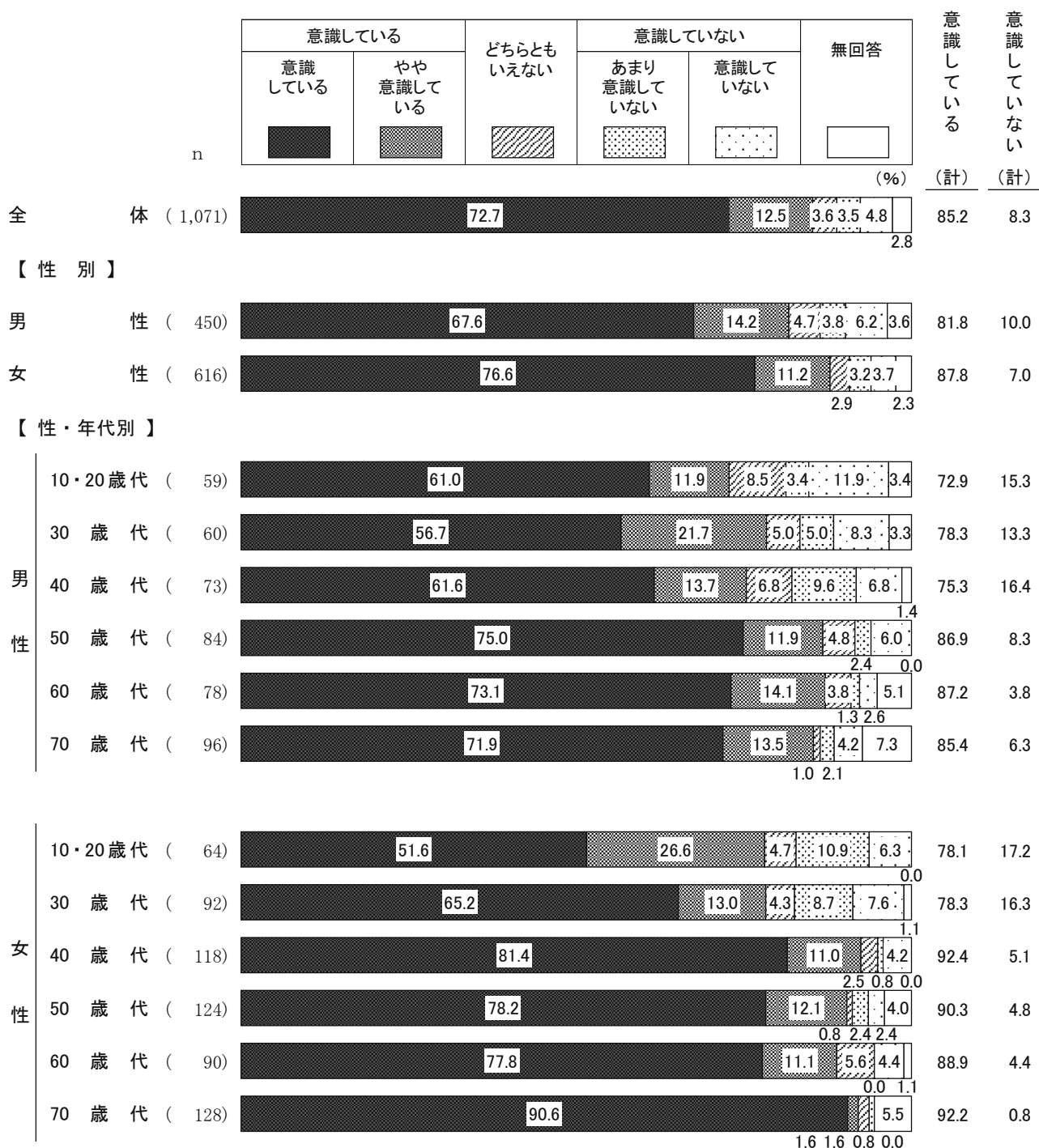
図2-2-1 食生活についての意識



食生活についての意識をたずねたところ、①朝食を取るようになっているは「意識している」(72.7%)、「やや意識している」(12.5%)を合わせた『意識している(計)』(85.2%)が8割台半ばと多くなっている。また、『意識している(計)』は③野菜を多くとるようにしている(83.1%)、②栄養バランスのとれた食事をとるようにしている(82.9%)がともに8割を超えて多くなっている。(図2-2-1)

図 2-2-2 食生活についての意識－性別／性・年代別

①朝食をとるようにしている

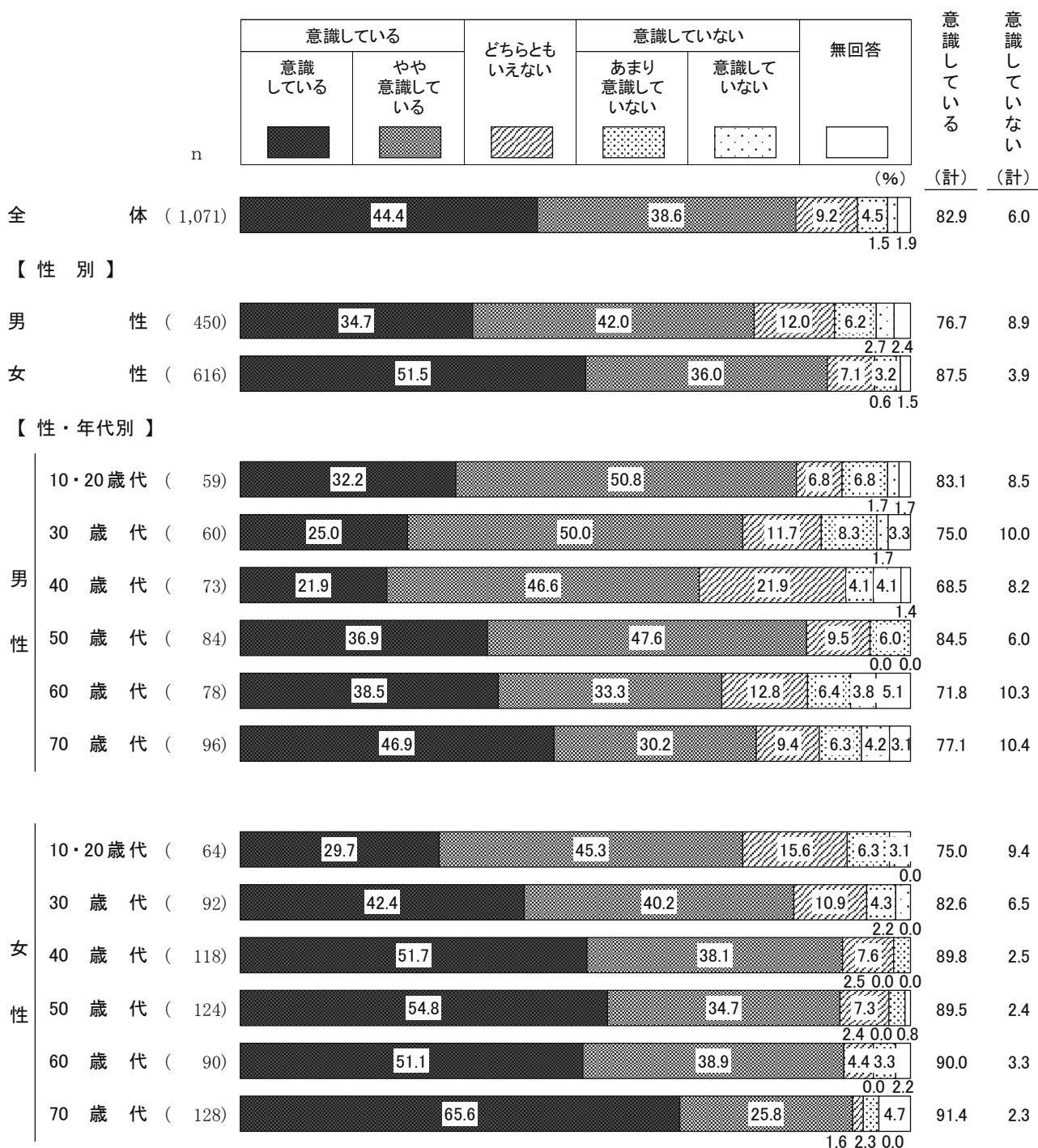


①朝食をとるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが6.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性40歳代、70歳代、50歳代で9割を超えて多くなっている。一方、男性10・20歳代で7割台前半となっている。（図 2-2-2）

図 2-2-3 食生活についての意識－性別／性・年代別

②栄養バランスのとれた食事をするようにしている

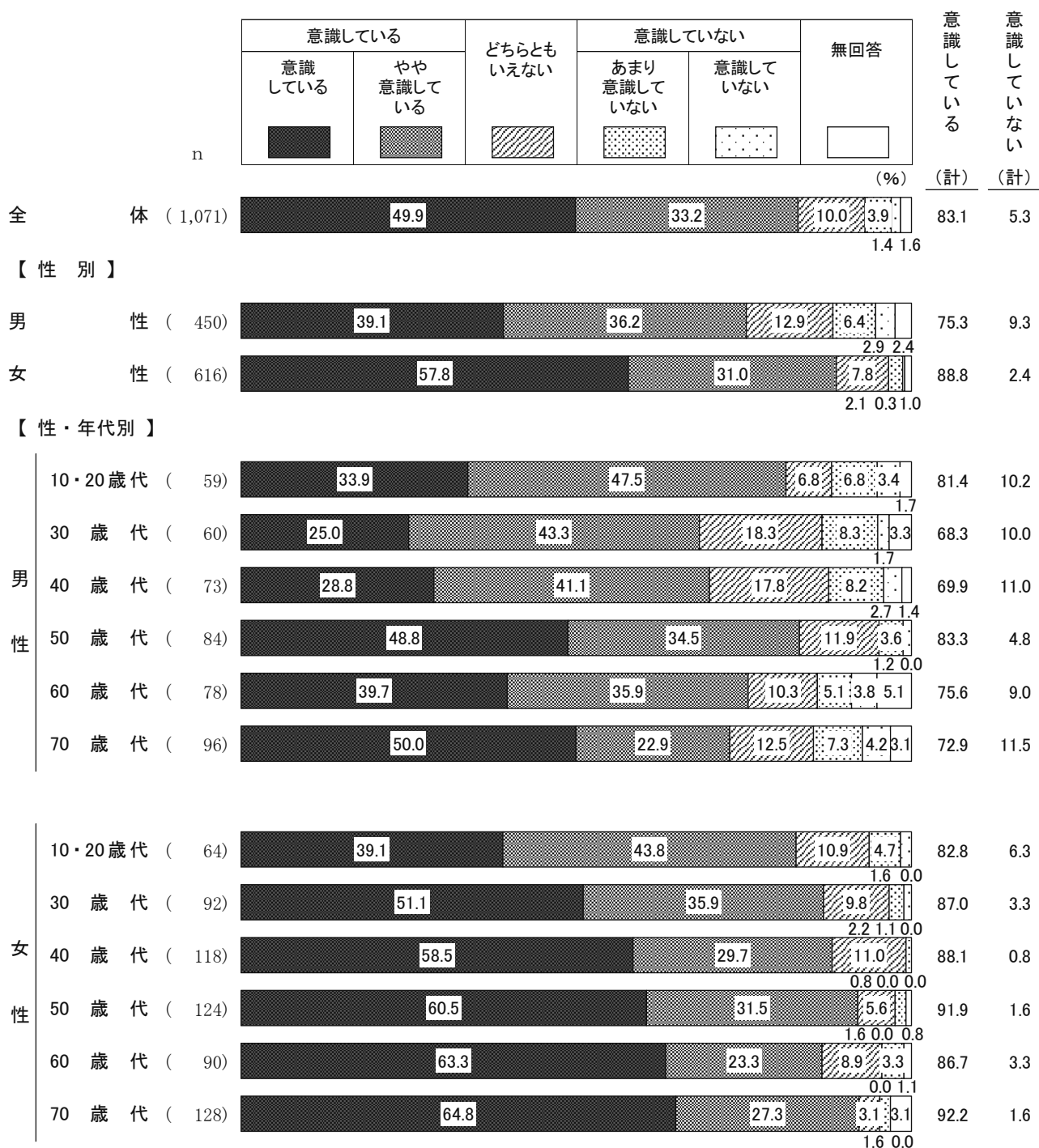


②栄養バランスのとれた食事をするようにしているについて性別にみると、『意識している(計)』は女性のほうが10.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している(計)』は女性70歳代、60歳代で9割を超えて多くなっている。一方、男性40歳代で7割を下回っている。(図2-2-3)

図 2-2-4 食生活についての意識－性別／性・年代別

③野菜を多くとるようにしている

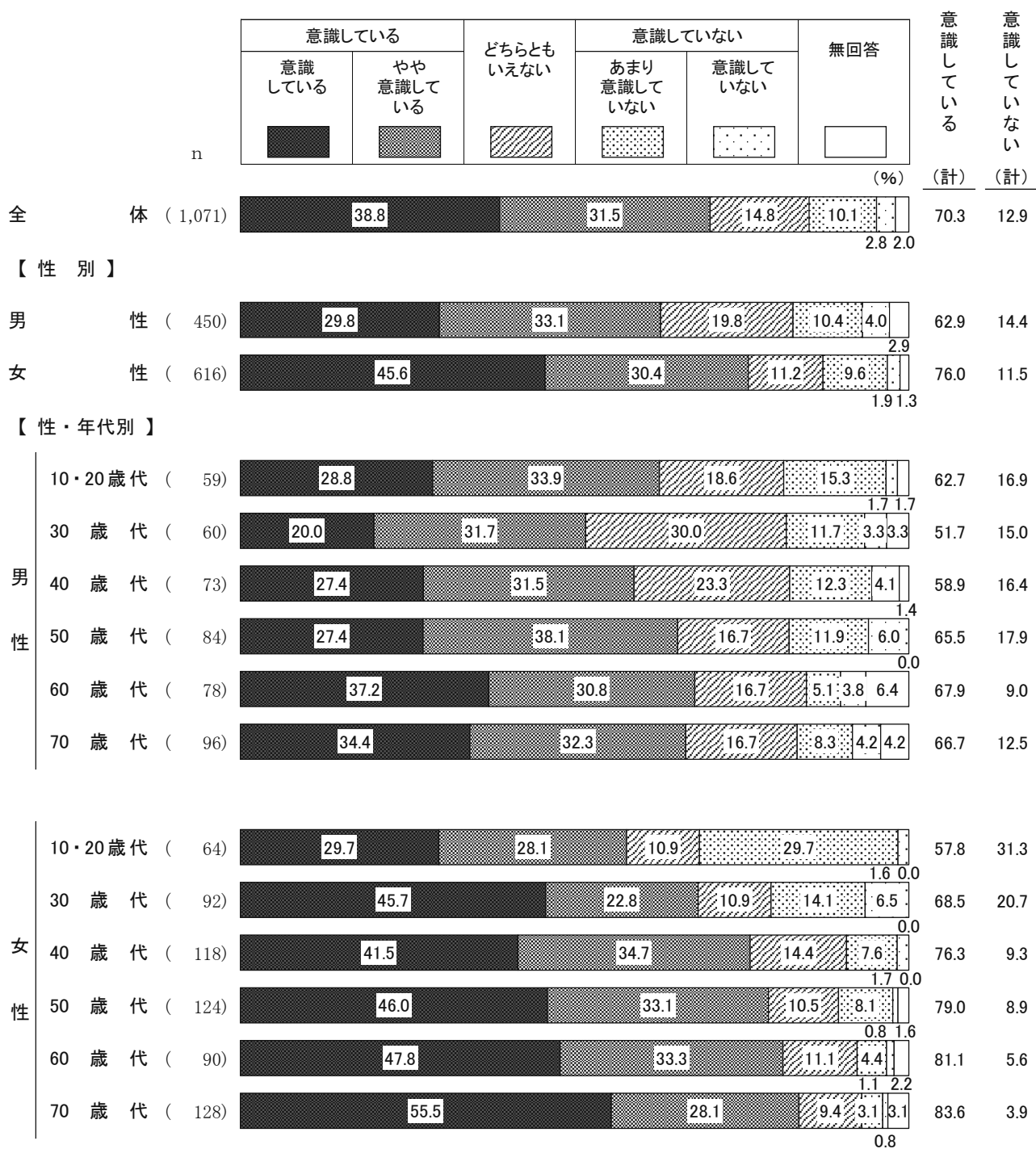


③野菜を多くとるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが13.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性70歳代、50歳代で9割を超えて多くなっている。一方、男性30歳代、40歳代で7割を下回っている。（図2-2-4）

図 2-2-5 食生活についての意識－性別／性・年代別

④牛乳・乳製品をとるようにしている

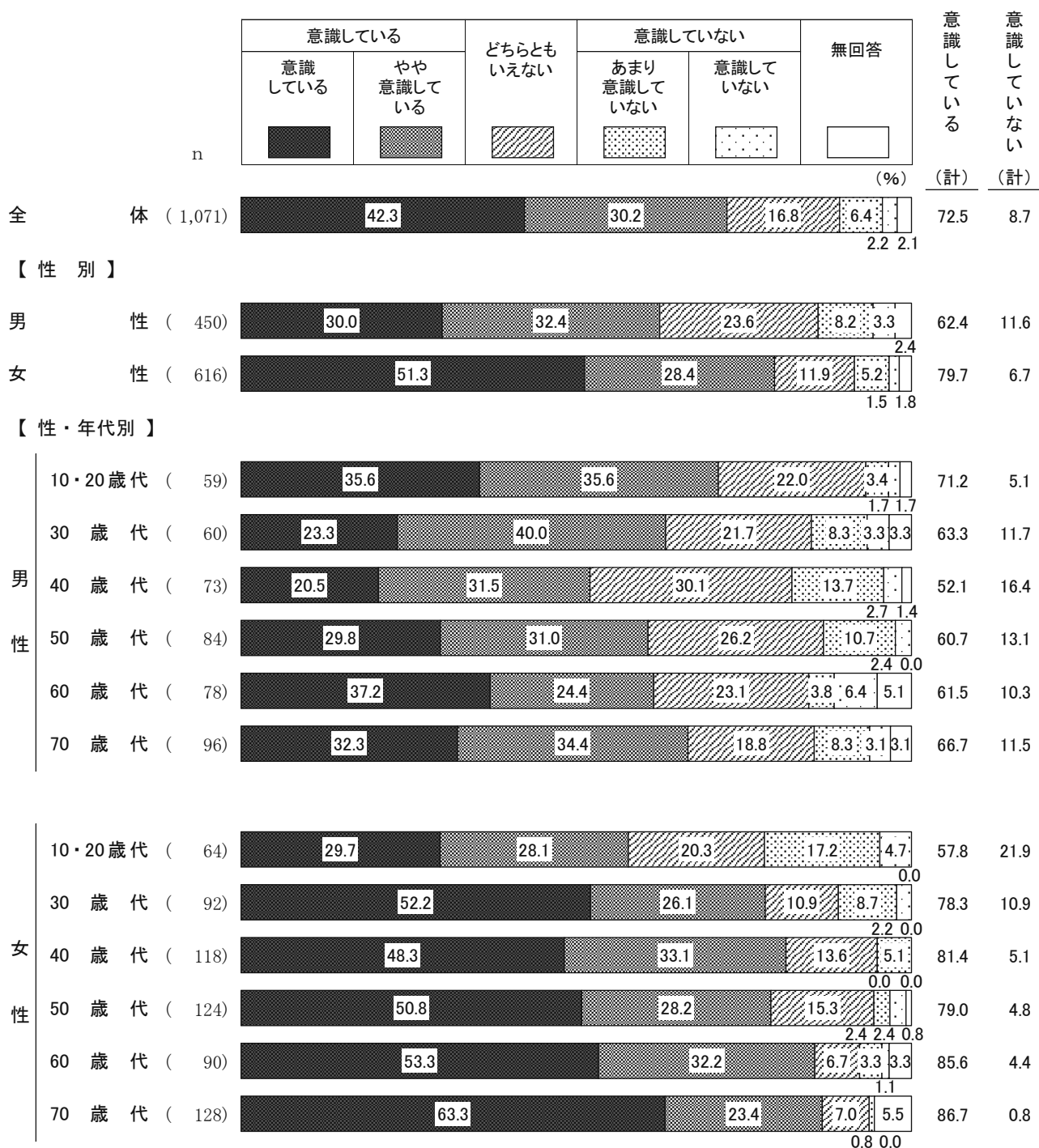


④牛乳・乳製品をとるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが13.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性70歳代、60歳代で8割を超えて多くなっている。一方、男性30歳代で5割台前半となっている。（図 2-2-5）

図 2-2-6 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑤たんぱく質をとるようにしている

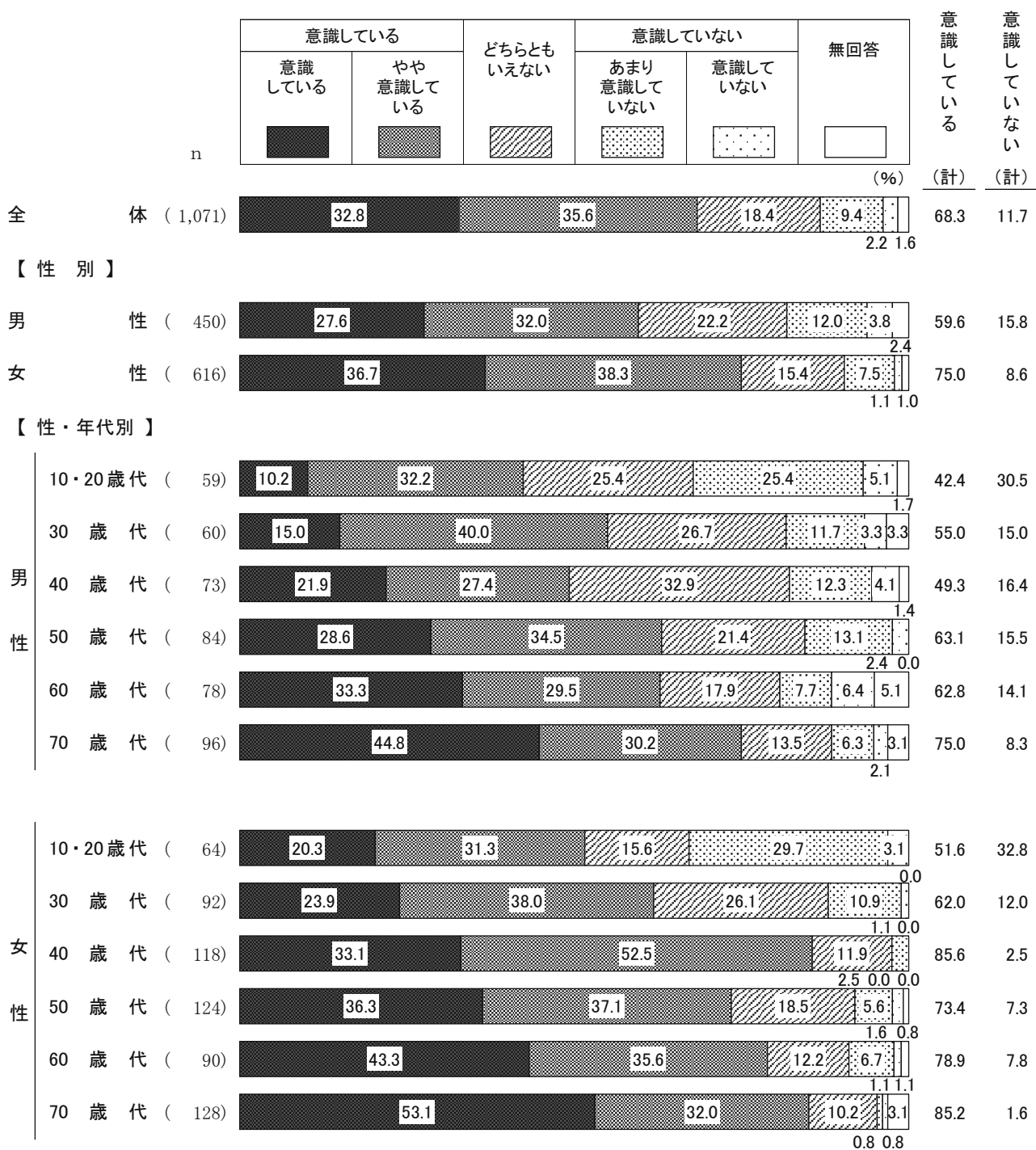


⑤たんぱく質をとるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが17.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性70歳代、60歳代で8割台半ばと多くなっている。一方、男性40歳代で5割台前半となっている。（図 2-2-6）

図 2-2-7 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑥塩分をとりすぎないようにしている

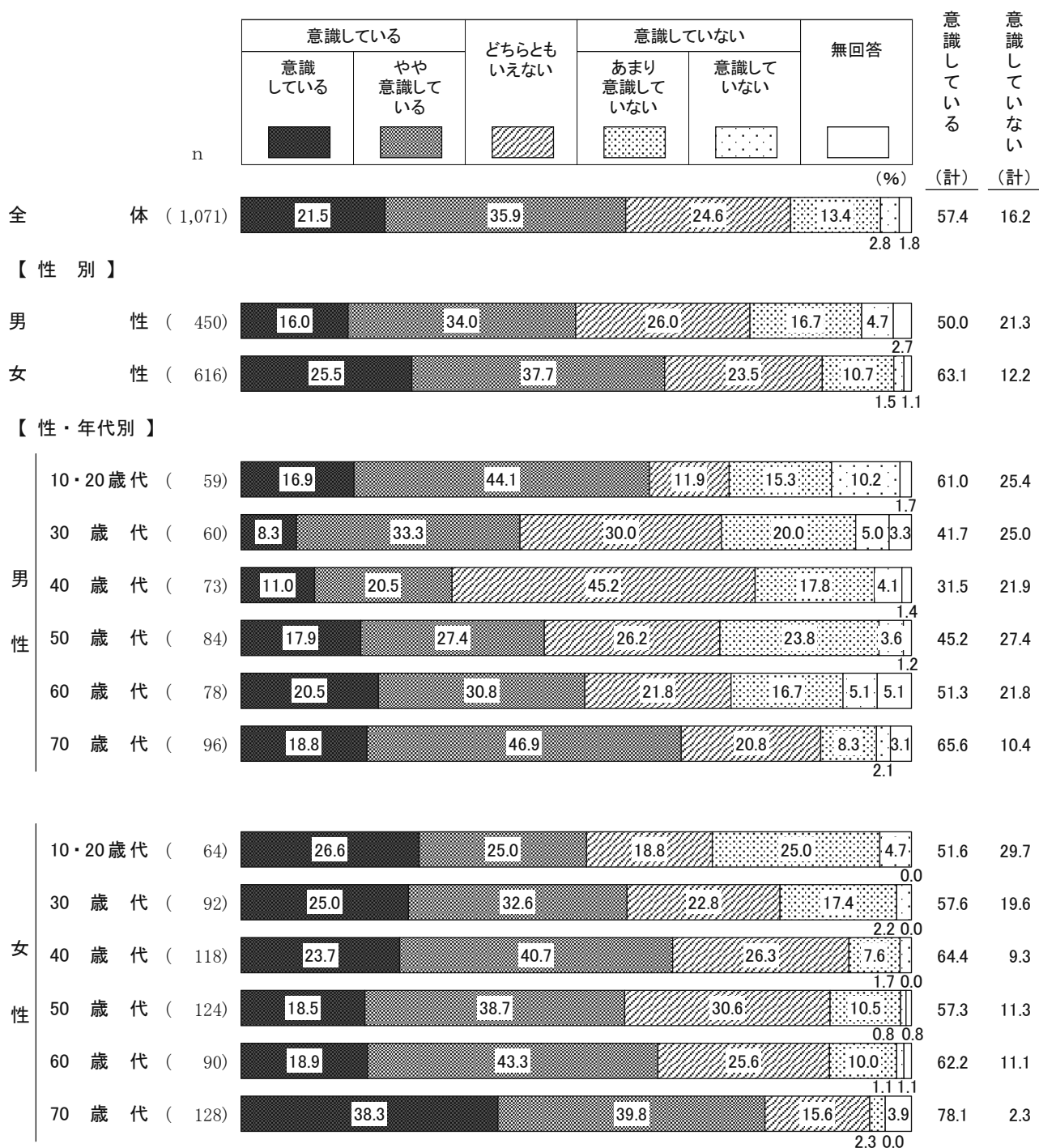


⑥塩分をとりすぎないようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが15.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性40歳代、70歳代で8割台半ばと多くなっている。一方、男性10・20歳代で4割台前半となっている。（図2-2-7）

図 2-2-8 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑦よく噛んで食べるようにしている

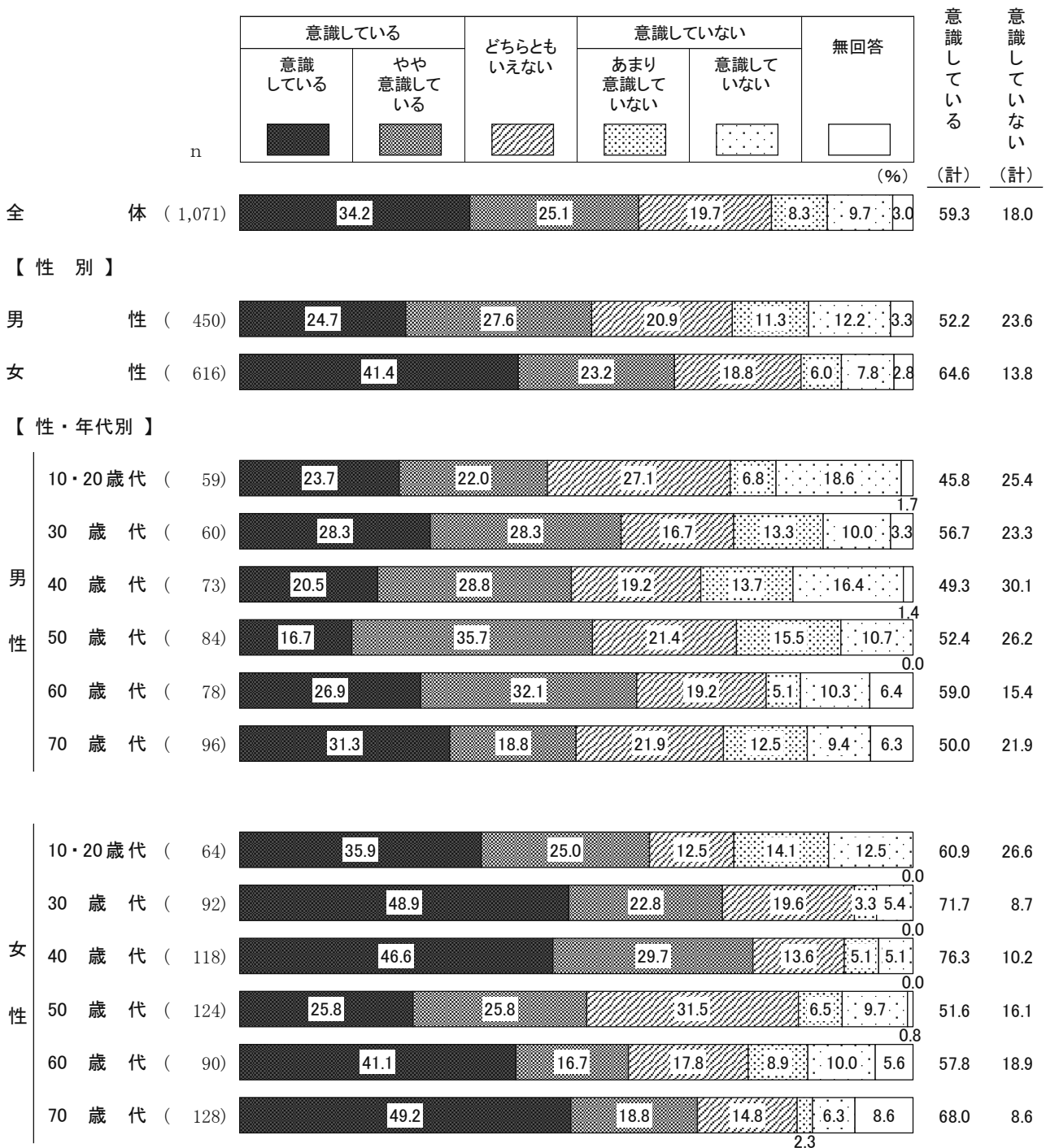


⑦よく噛んで食べるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが13.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性70歳代で8割近くと多くなっている。一方、男性40歳代で3割台前半となっている。（図2-2-8）

図 2-2-9 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑧できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている



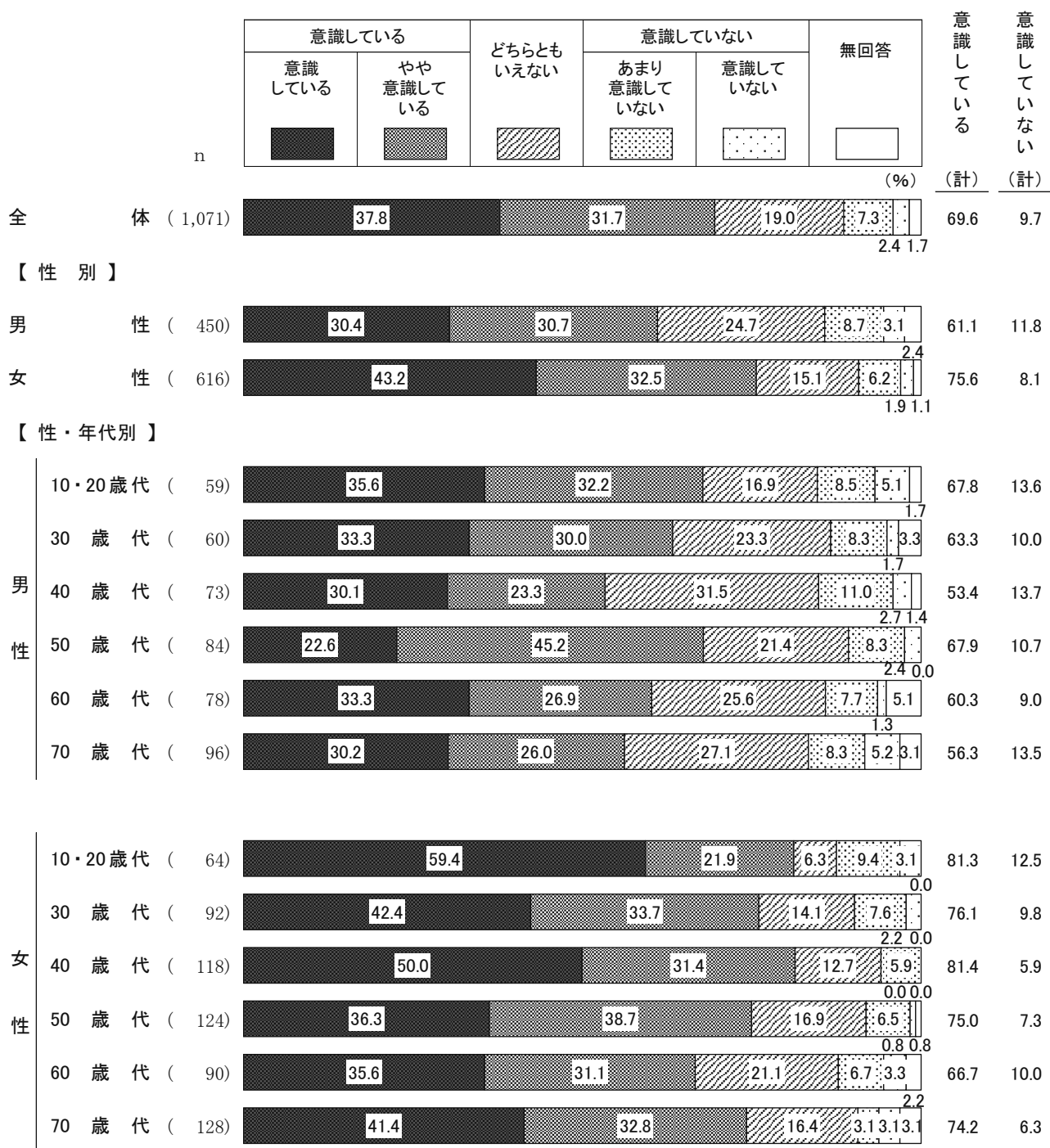
⑧できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが12.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性40歳代で7割台半ば、女性30歳代で7割台前半と多くなっている。一方、男性10・20歳代、40歳代で5割を下回っている。

(図 2-2-9)

図 2-2-10 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑨食事を楽しむようにしている

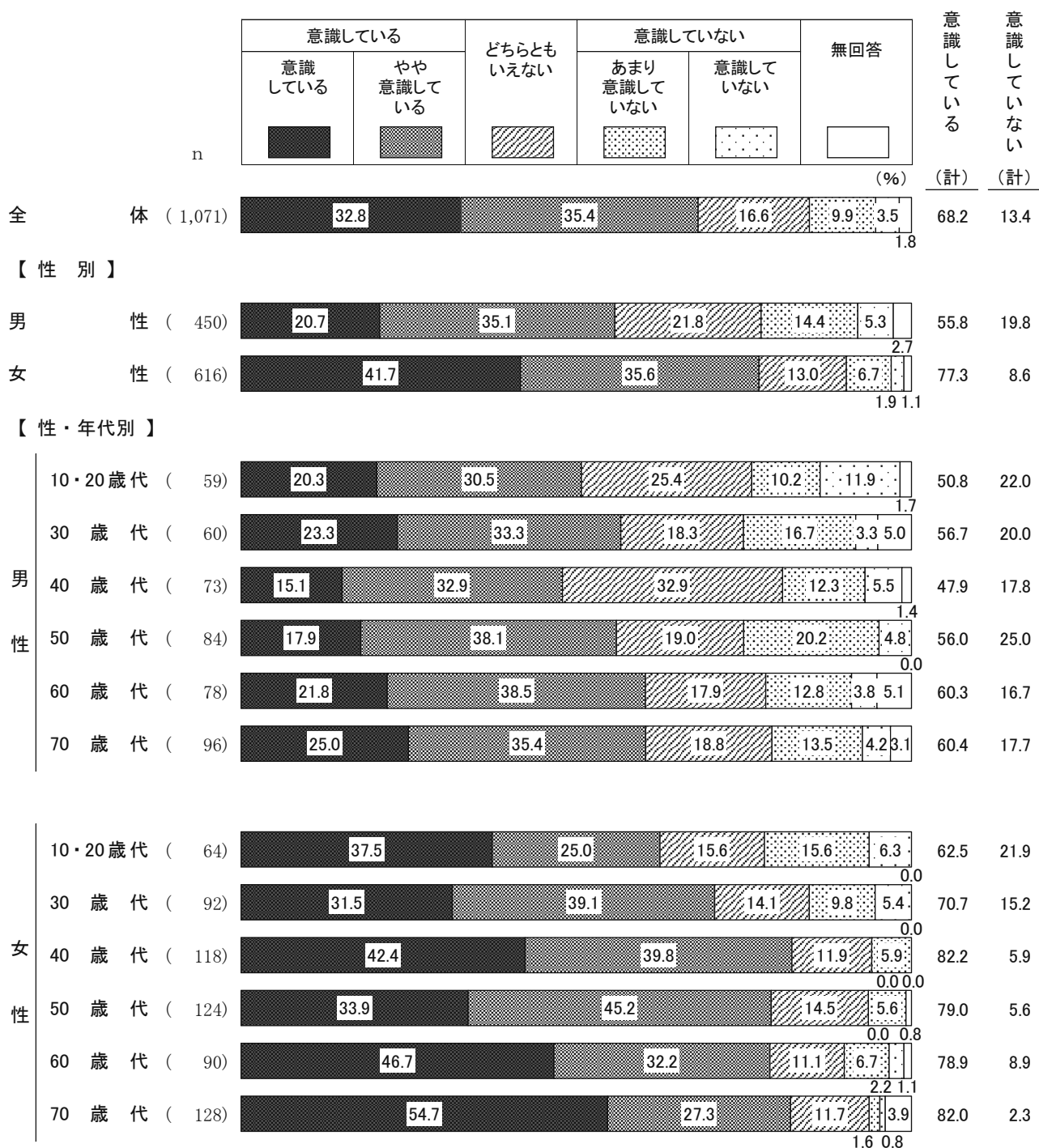


⑨食事を楽しむようにしているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが14.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性40歳代、10・20歳代で8割を超えて多くなっている。一方、男性40歳代で5割前半となっている。（図2-2-10）

図 2-2-11 食生活についての意識－性別／性・年代別

⑩食材の旬を意識している



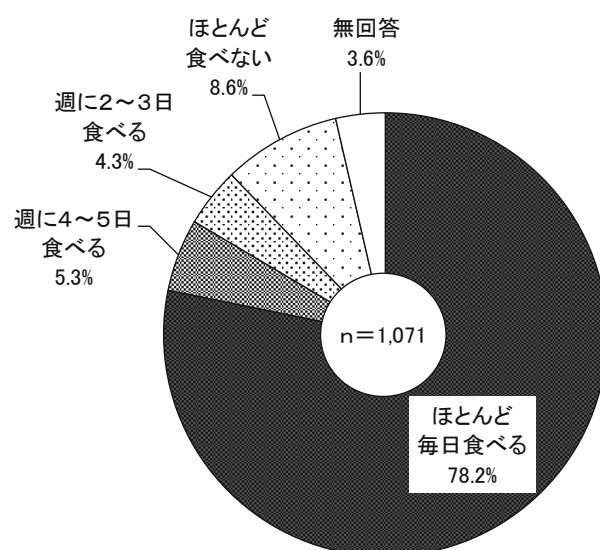
⑩食材の旬を意識しているについて性別にみると、『意識している（計）』は女性のほうが21.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性40歳代、70歳代で8割を超えて多くなっている。一方、男性40歳代で5割を下回っている。（図2-2-11）

（３）朝食の摂取状況

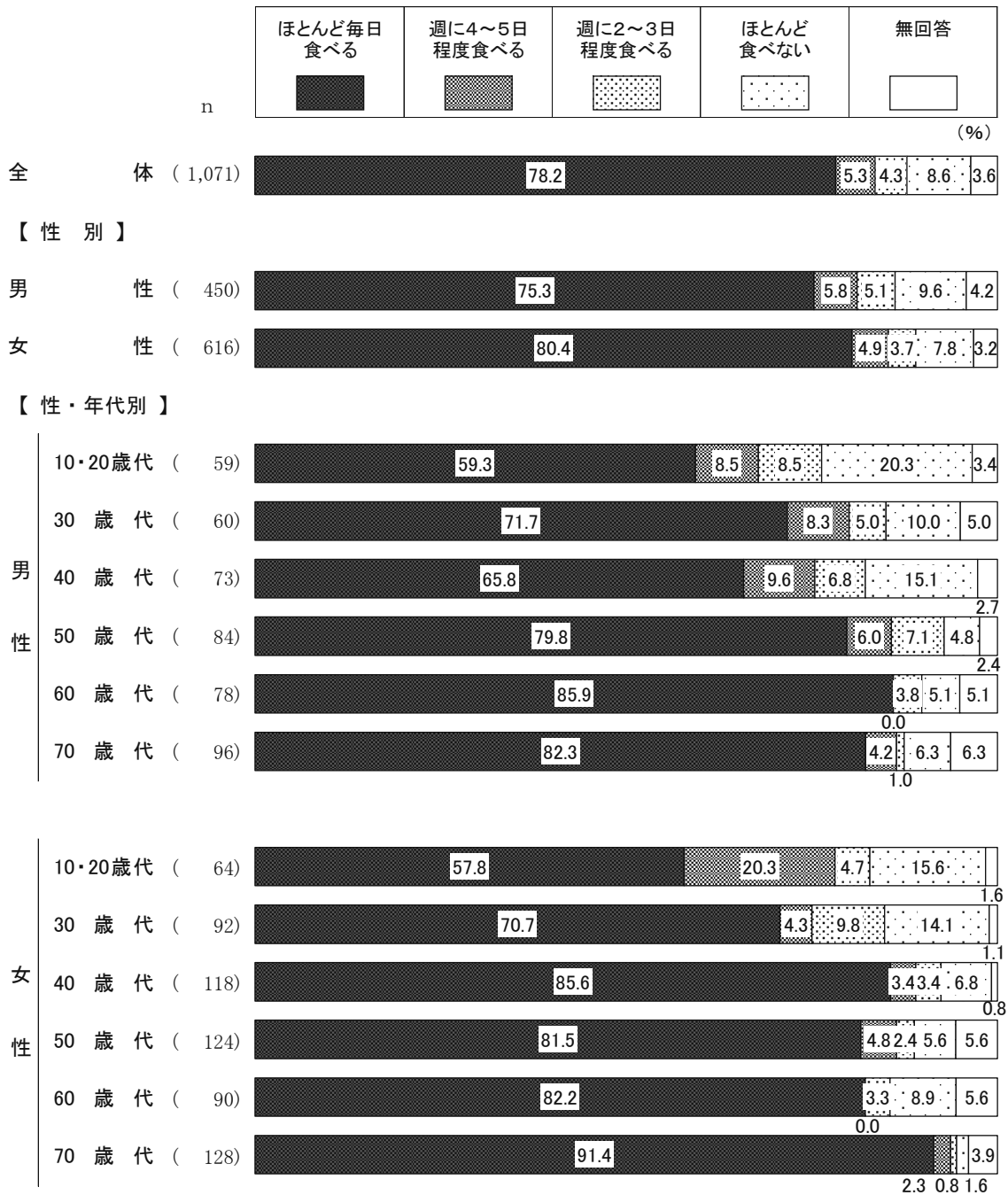
問３ あなたは朝食を食べていますか。（○は１つ）

図２－３－１ 朝食の摂取状況



朝食を食べているかをたずねたところ、「ほとんど毎日食べる」（78.2%）が8割近くを占めており、「週に4～5日食べる」（5.3%）、「週に2～3日食べる」（4.3%）、「ほとんど食べない」（8.6%）はそれぞれ1割未満となっている。（図２－３－１）

図 2-3-2 朝食の摂取状況－性別／性・年代別



性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は女性のほうが5.1ポイント高くなっている。

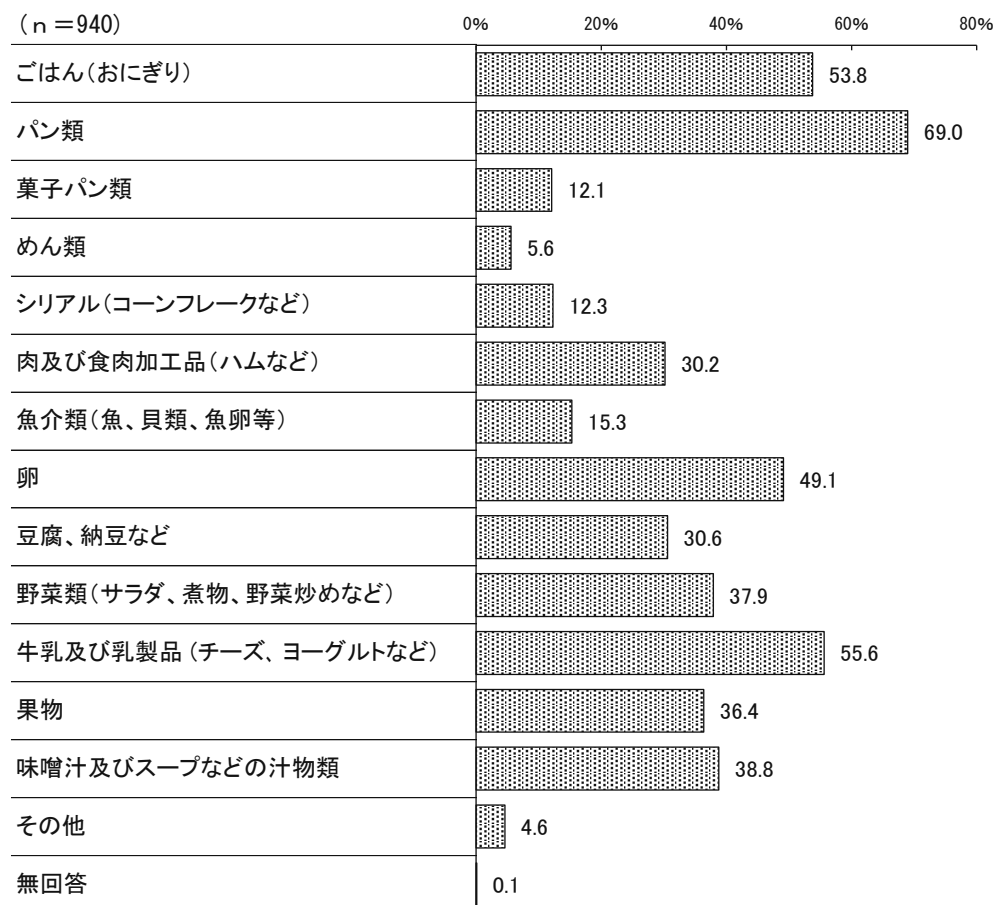
性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は女性70歳代で9割を超え、男性60歳代、女性40歳代で8割台半ばと多くなっている。一方、女性10・20歳代で6割近く、男性10・20歳代で約6割となっている。(図2-3-2)

（３－１）朝食に食べるもの

【問3で「１ ほとんど毎日食べる」～「３ 週に２～３日程度食べる」と回答された方に】

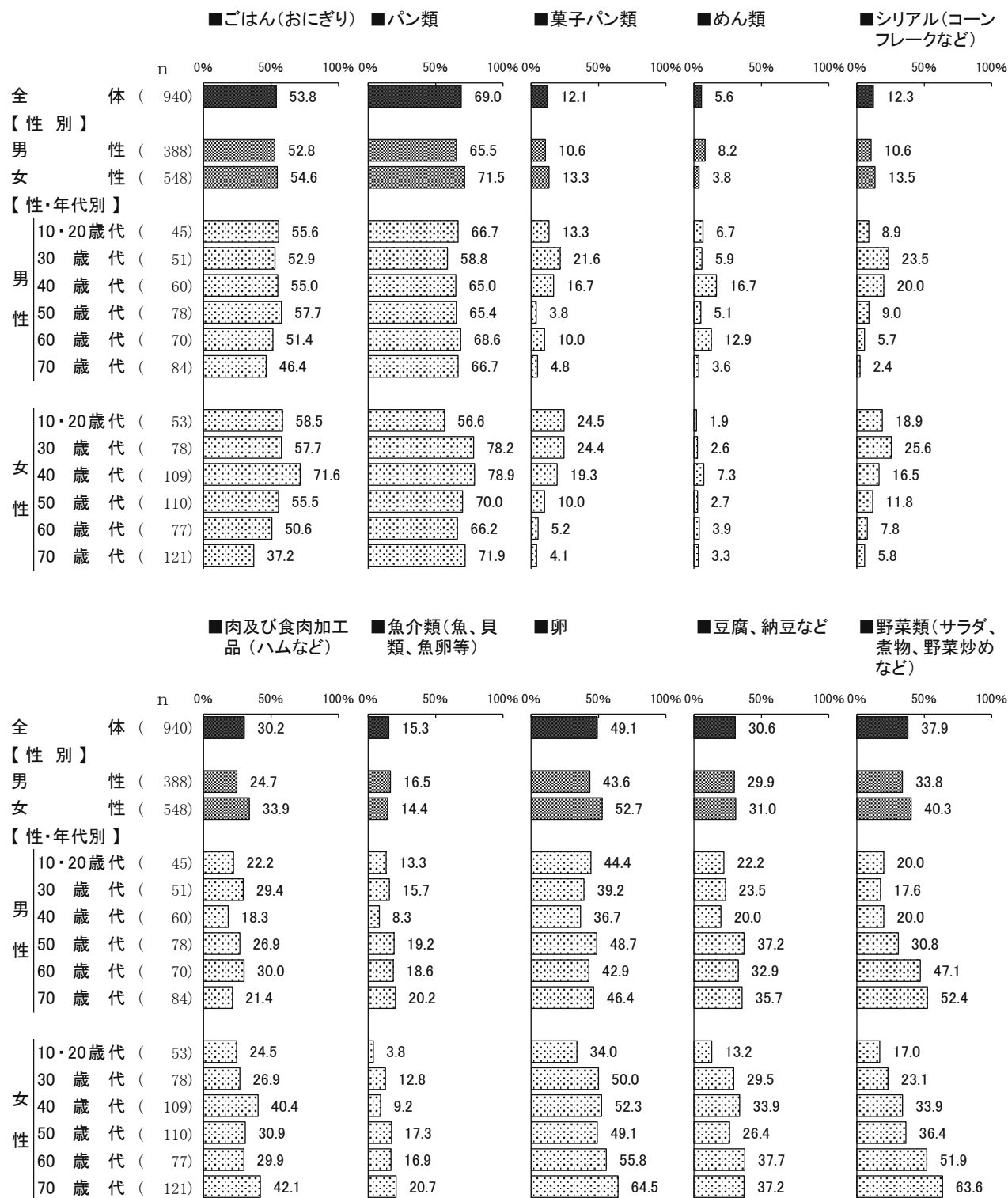
問３－１ あなたは朝食に何を食べていますか。（○はいくつでも）

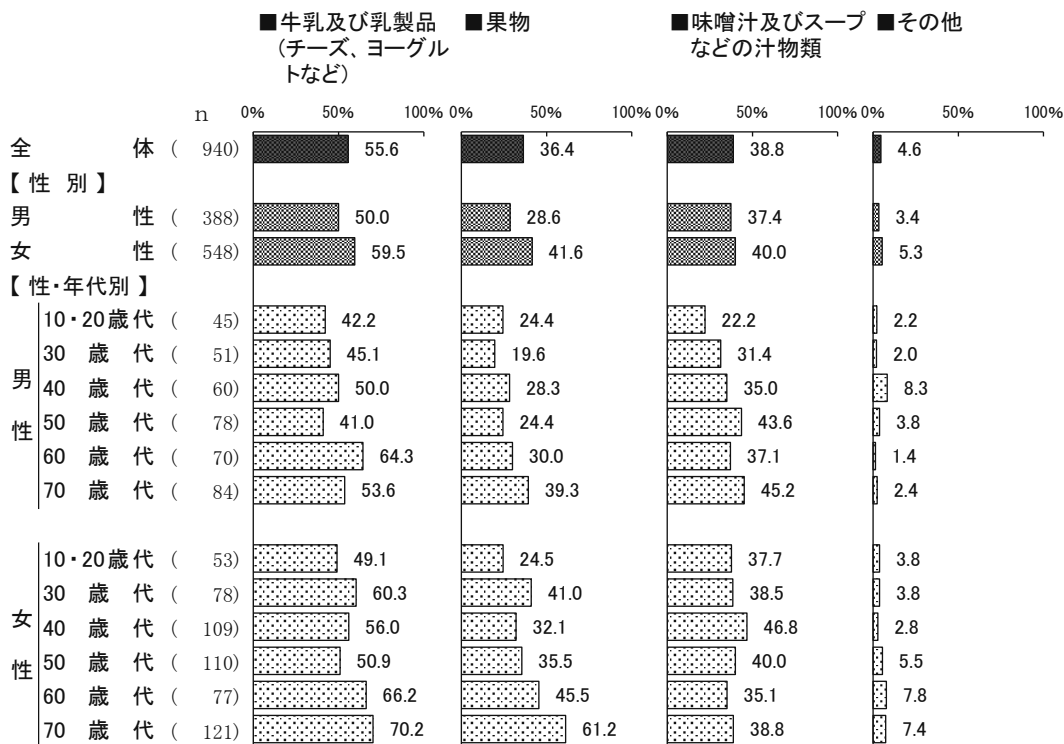
図２－３－３ 朝食に食べるもの



朝食をほとんど毎日食べる～週に２～３日程度食べると答えた方（940人）に、朝食に食べているものをたずねたところ、主食は「パン類」（69.0%）が約７割と最も多く、次いで「ごはん（おにぎり）」（53.8%）となっている。主食以外では「牛乳及び乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」（55.6%）、「卵」（49.1%）、「味噌汁及びスープなどの汁物類」（38.8%）、「野菜類（サラダ、煮物、野菜炒めなど）」（37.9%）などの順となっている。（図２－３－３）

図 2-3-4 朝食に食べるもの一性別／性・年代別





性別にみると、女性のほうが「果物」で13.0ポイント、「牛乳及び乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」で9.5ポイント、「肉及び食肉加工品（ハムなど）」で9.2ポイント、「卵」で9.1ポイント、「野菜類（サラダ、煮物、野菜炒めなど）」で6.5ポイント、「パン類」で6.0ポイント高くなっている。一方、男性のほうが「めん類」で4.4ポイント高くなっている。

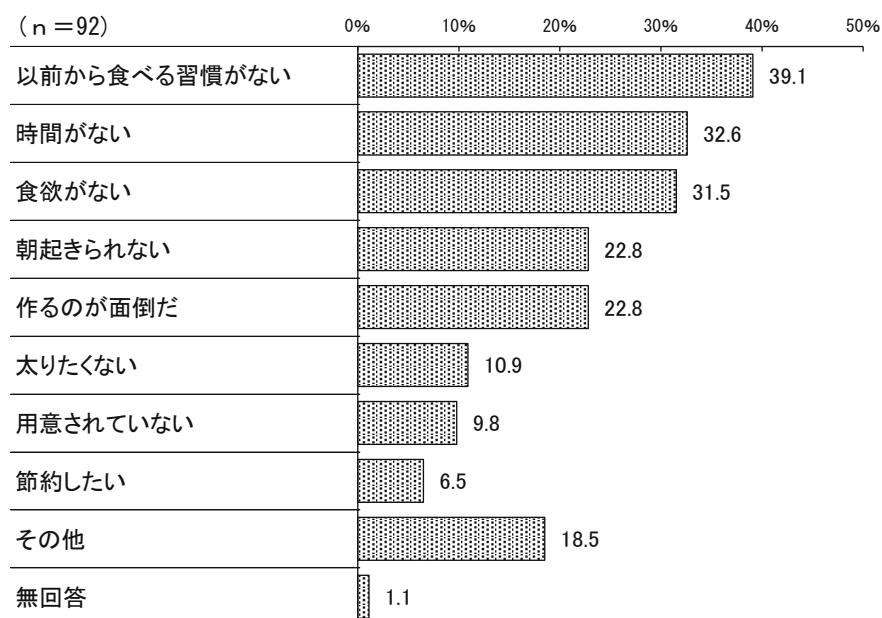
性・年代別にみると、「ごはん（おにぎり）」は女性40歳代で7割を超え、「パン類」は女性30歳代、40歳代で8割近くと多くなっている。「菓子パン類」は女性10・20歳代、30歳代、男性30歳代で2割を超えている。「シリアル（コーンフレークなど）」は女性30歳代、男性30歳代、40歳代で2割を超えている。「野菜類（サラダ、煮物、野菜炒めなど）」は男女ともにおおむね年齢が高いほど多く、女性70歳代で6割を超えて多くなっている。「牛乳及び乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」は女性70歳代で約7割、「果物」は女性70歳代で6割を超えて多くなっている。（図2-3-4）

（３－２）朝食を食べない理由

【問3で「4ほとんど食べない」と回答された方に】

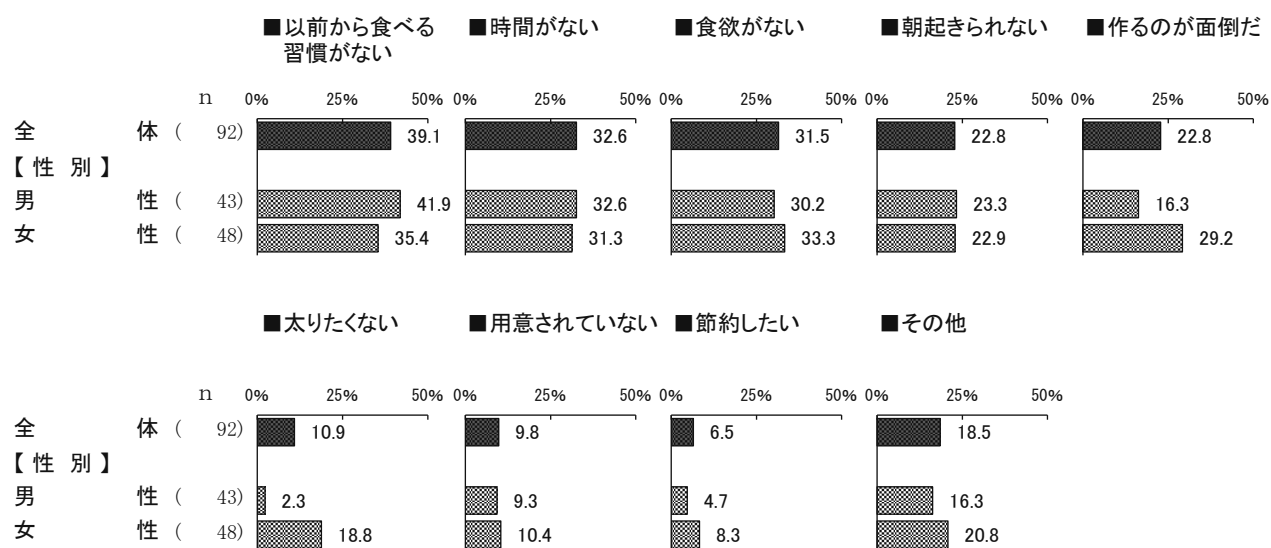
問３－２ あなたはなぜ朝食を食べないのですか。（○はいくつでも）

図２－３－５ 朝食を食べない理由



朝食をほとんど食べないと答えた方（92人）に、朝食を食べない理由をたずねたところ、「以前から食べる習慣がない」（39.1%）が約4割と最も多く、次いで「時間がない」（32.6%）、「食欲がない」（31.5%）、「朝起きられない」、「作るのが面倒だ」（ともに22.8%）などの順となっている。（図２－３－５）

図 2-3-6 朝食を食べない理由－性別



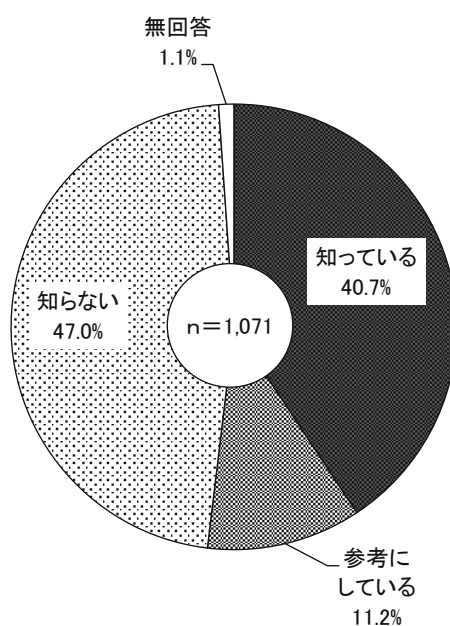
性別にみると、女性のほうが「太りたくない」で16.5ポイント、「作るのが面倒だ」で12.9ポイント高くなっている。一方、男性のほうは「以前から食べる習慣がない」で6.5ポイント高くなっている。（図 2-3-6）

(4) 「食事バランスガイド」の認知度

問4 あなたは「食事バランスガイド」を知っていますか。(○は1つ)

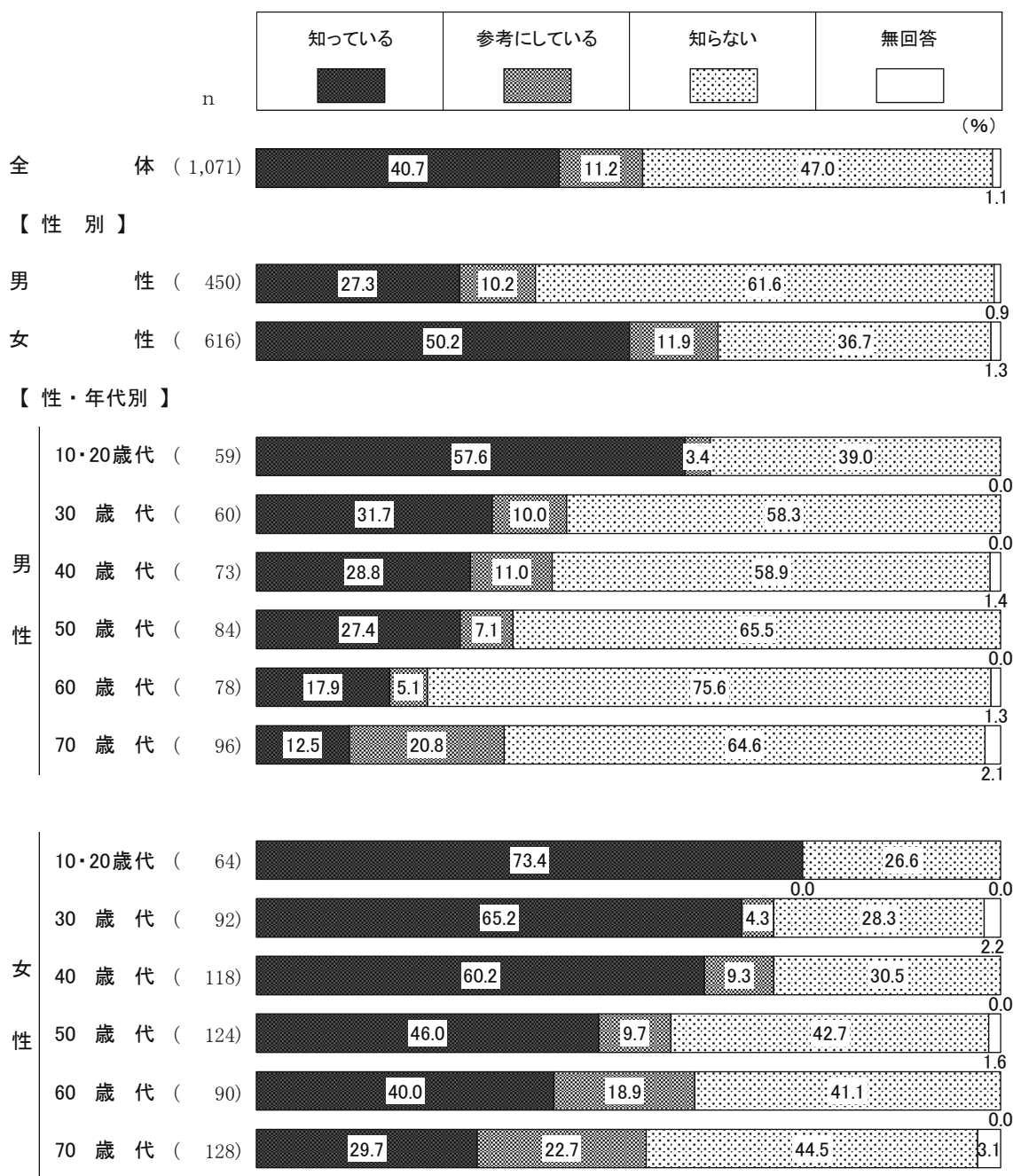
※平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が決定した「食事バランスガイド」は、食事の基本を身につけるための望ましい食事のとり方や、おおよその量を分かりやすく示しています。

図2-4-1 「食事バランスガイド」の認知度



「食事バランスガイド」を知っているかたずねたところ、「知っている」(40.7%)が約4割、「参考になっている」(11.2%)が1割台前半となっている。一方、「知らない」(47.0%)は5割近くとなっている。(図2-4-1)

図 2-4-2 「食事バランスガイド」の認知度－性別／性・年代別



性別にみると、「知っている」は女性のほうが22.9ポイント高くなっている。

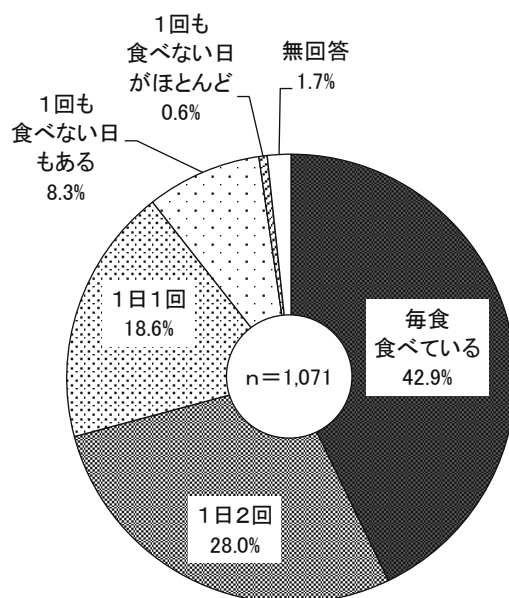
性・年代別にみると、「知っている」は男女ともに年代が低いほど多く、女性10・20歳で7割を超えて多くなっている。また、「参考になっている」は女性70歳代、男性70歳代で2割を超えている。(図2-4-2)

（５）１日の野菜を食べる頻度

【全員の方にお聞きます】

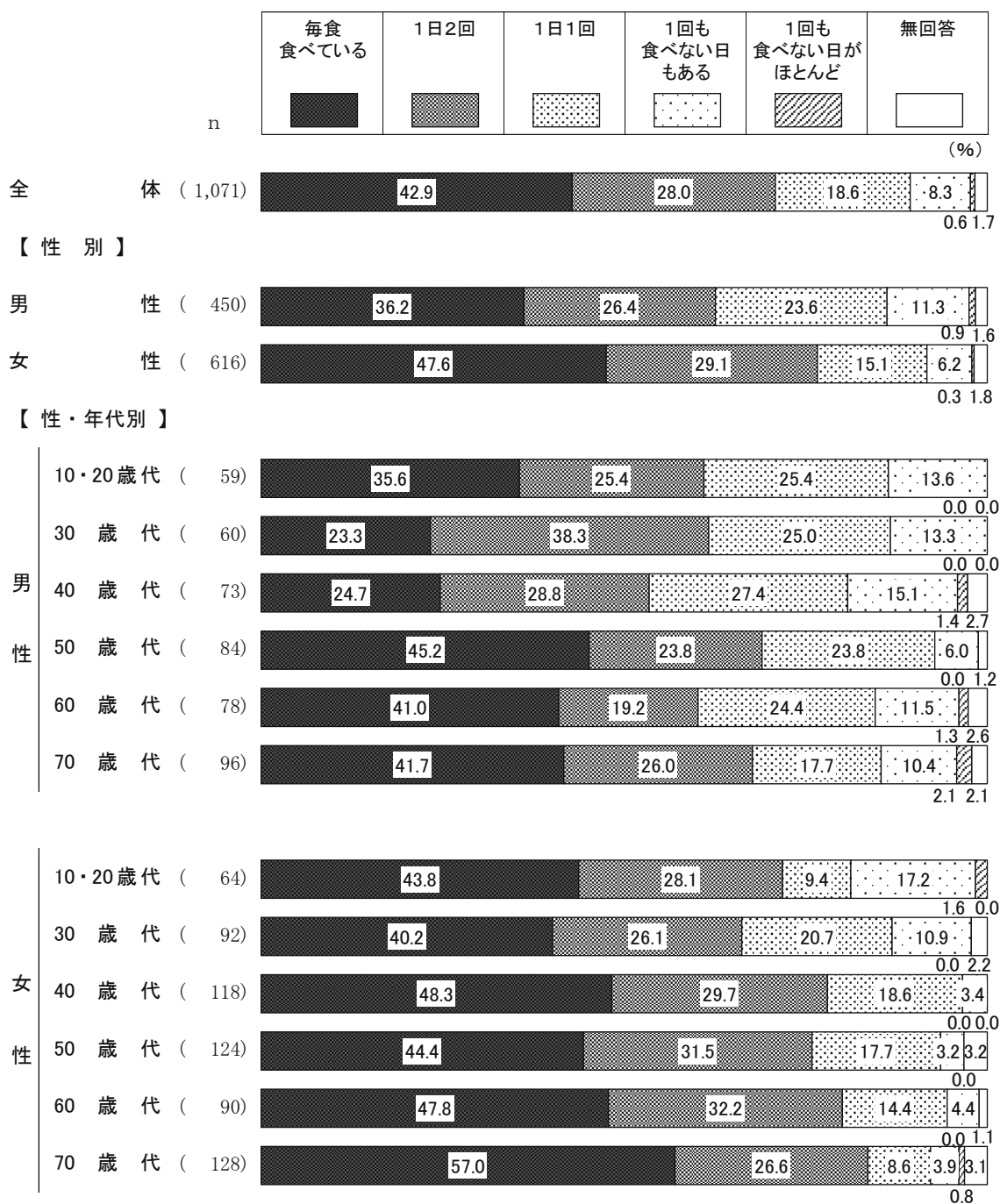
問６ １日にどれくらいの頻度で野菜を食べていますか。（○は１つ）

図２－５－１ １日の野菜を食べる頻度



野菜を食べる頻度をたずねたところ、「毎食食べている」（42.9％）が4割を超えて最も多く、次いで「1日2回」（28.0％）が3割近く、「1日1回」（18.6％）2割近くの順となっている。一方、「1回も食べない日もある」（8.3％）、「1回も食べない日がほとんど」（0.6％）はあわせて1割未満となっている。（図２－５－１）

図 2-5-2 1日の野菜を食べる頻度－性別／性・年代別



性別にみると、「毎食食べている」は女性のほうが11.4ポイント高くなっている。

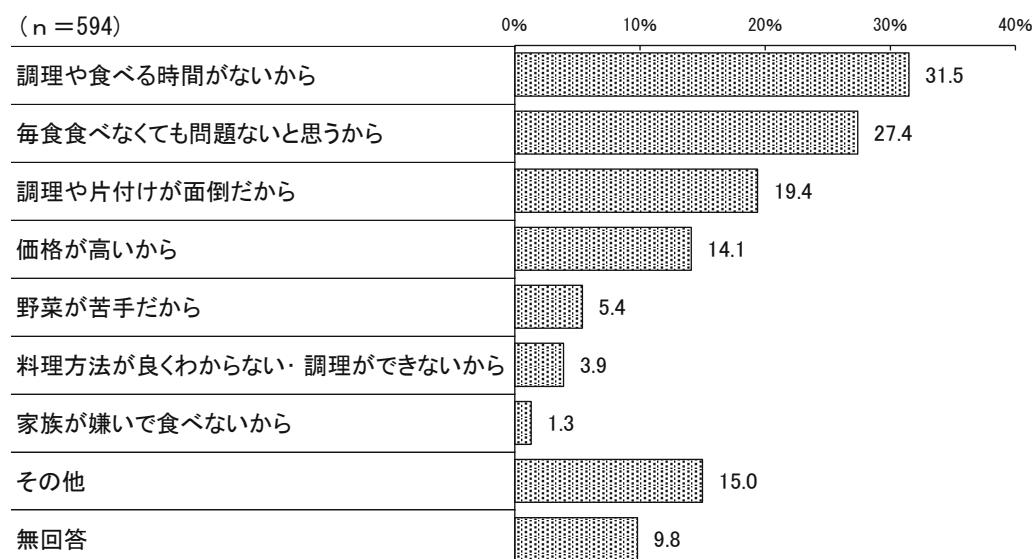
性・年代別にみると、「毎食食べている」は女性70歳代で6割近くと多くなっている。一方、男性30歳代、40歳代で2割台前半となっている。（図2-5-2）

（５－１）野菜を毎食食べない理由

【問5で「2 1日2回」～「5 1回も食べない日がほとんど」と回答した方に】

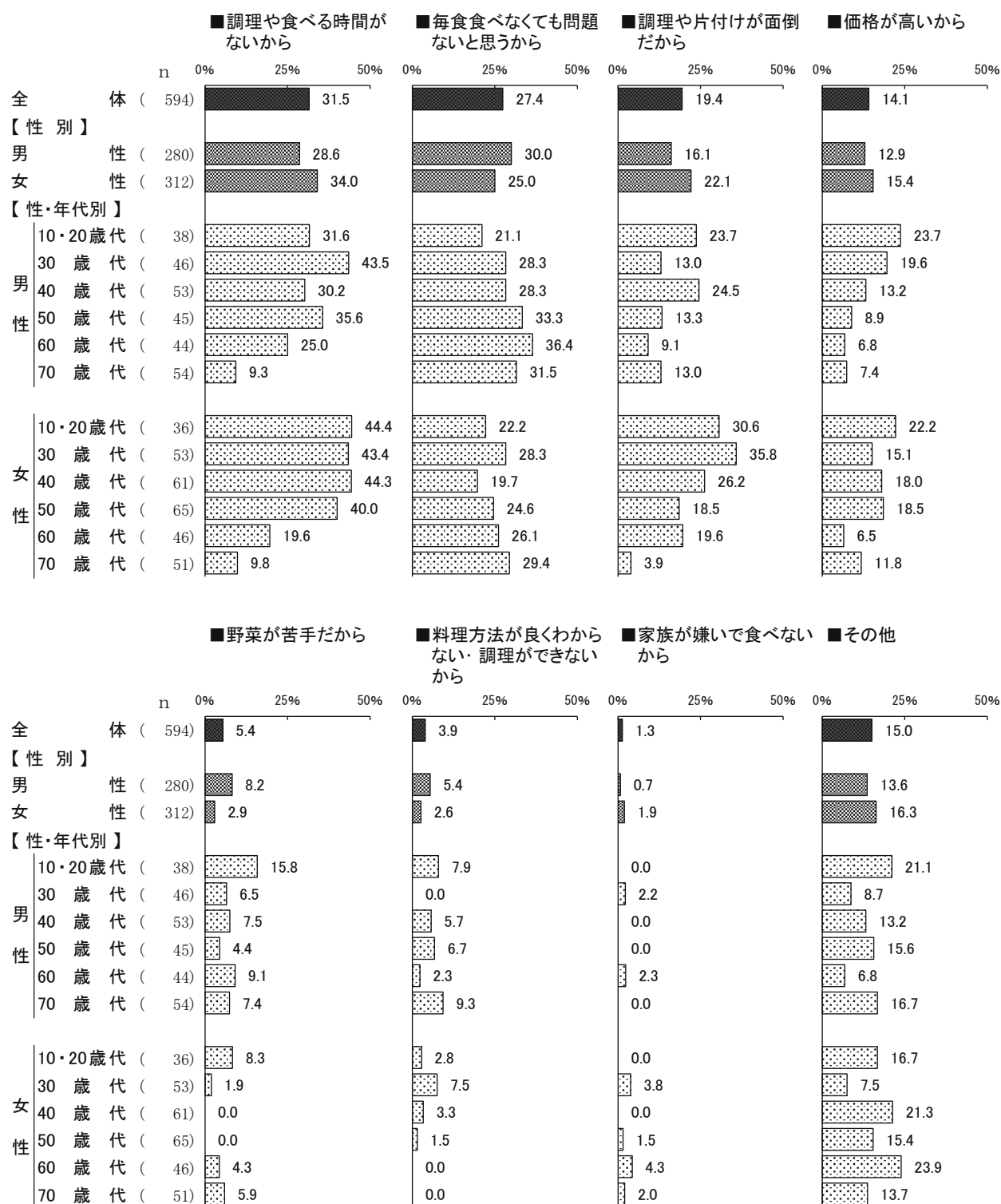
問５－１ あなたが野菜を毎食食べない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

図２－５－３ 野菜を毎食食べない理由



野菜を1日2回～1回も食べない日がほとんどと答えた方（594人）に、野菜を毎食食べない理由をたずねたところ、「調理や食べる時間がないから」（31.5%）が3割を超えて最も多く、次いで「毎食食べなくても問題ないと思うから」（27.4%）、「調理や片付けが面倒だから」（19.4%）、「価格が高いから」（14.1%）の順となっている。（図２－５－３）

図 2-5-4 野菜を毎食食べない理由—性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「調理や片付けが面倒だから」で6.0ポイント、「調理や食べる時間がないから」で5.4ポイント高くなっている。一方、男性のほうが「野菜が苦手だから」で5.3ポイント、「毎食食べなくても問題ないと思うから」で5.0ポイント高くなっている。

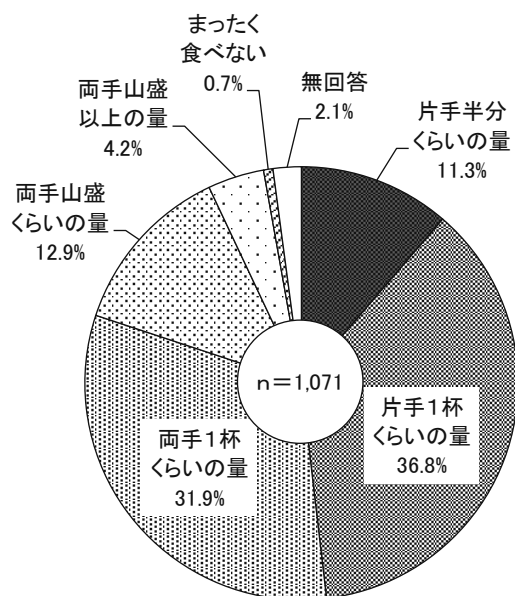
性・年代別にみると、「調理や食べる時間がないから」は女性10・20歳代から50歳代、男性30歳代で4割を超えている。「毎食食べなくても問題ないと思うから」は男性60歳代で3割台半ば、「調理や片付けが面倒だから」は女性30歳代で3割台半ば、「価格が高いから」は男性10・20歳代、女性10・20歳代で2割を超えて多くなっている。（図2-5-4）

(6) 1日に野菜を食べる量

【全員の方にお聞きます】

問6 1日にどれくらいの量の野菜を食べていますか。(○は1つ)

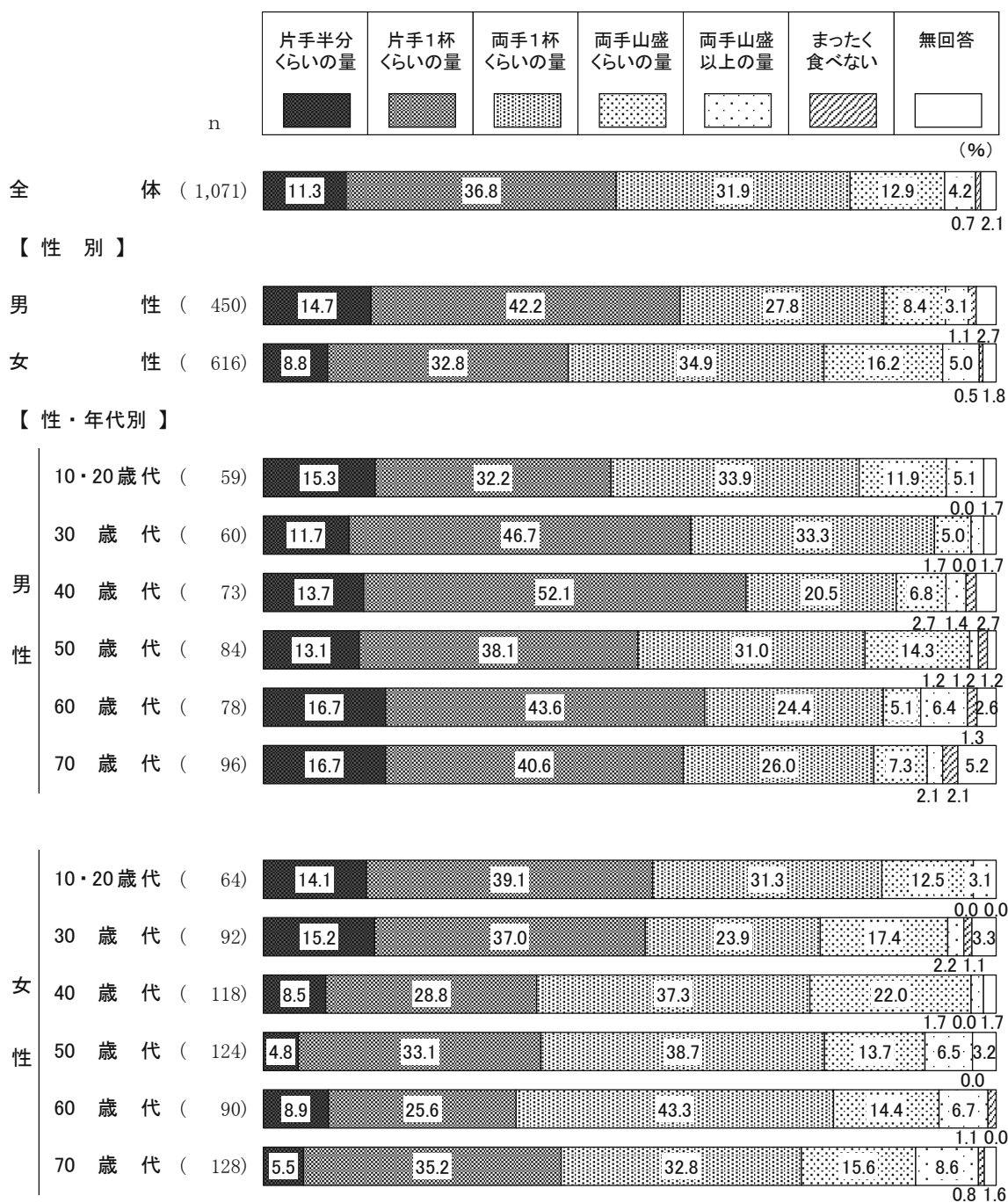
図2-6-1 1日に野菜を食べる量



1日に野菜を食べる量をたずねたところ、「片手1杯くらいの量」(36.8%)が3割台半ばと最も多く、次いで「両手1杯くらいの量」(31.9%)が3割台前半、「両手山盛くらいの量」(12.9%)、「片手半分くらいの量」(11.3%)がともに1割台前半となっている。

(図2-6-1)

図 2-6-2 1日に野菜を食べる量－性別／性・年代別



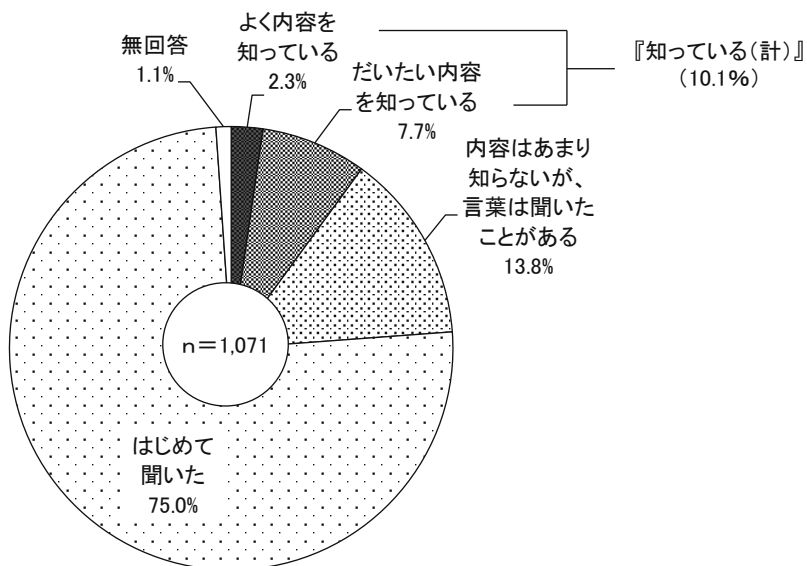
性別にみると、男性のほうが「片手1杯くらいの量」で9.4ポイント、「片手半分くらいの量」で5.9ポイント高くなっている。一方、女性のほうが「両手山盛くらいの量」で7.8ポイント、「両手1杯くらいの量」で7.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性30歳代から70歳代、女性10・20歳代、30歳代、70歳代で「片手1杯くらいの量」が最も多くなっている。男性10・20歳代、女性40歳代から60歳代で「両手1杯くらいの量」が最も多くなっている。（図2-6-2）

(7) 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度

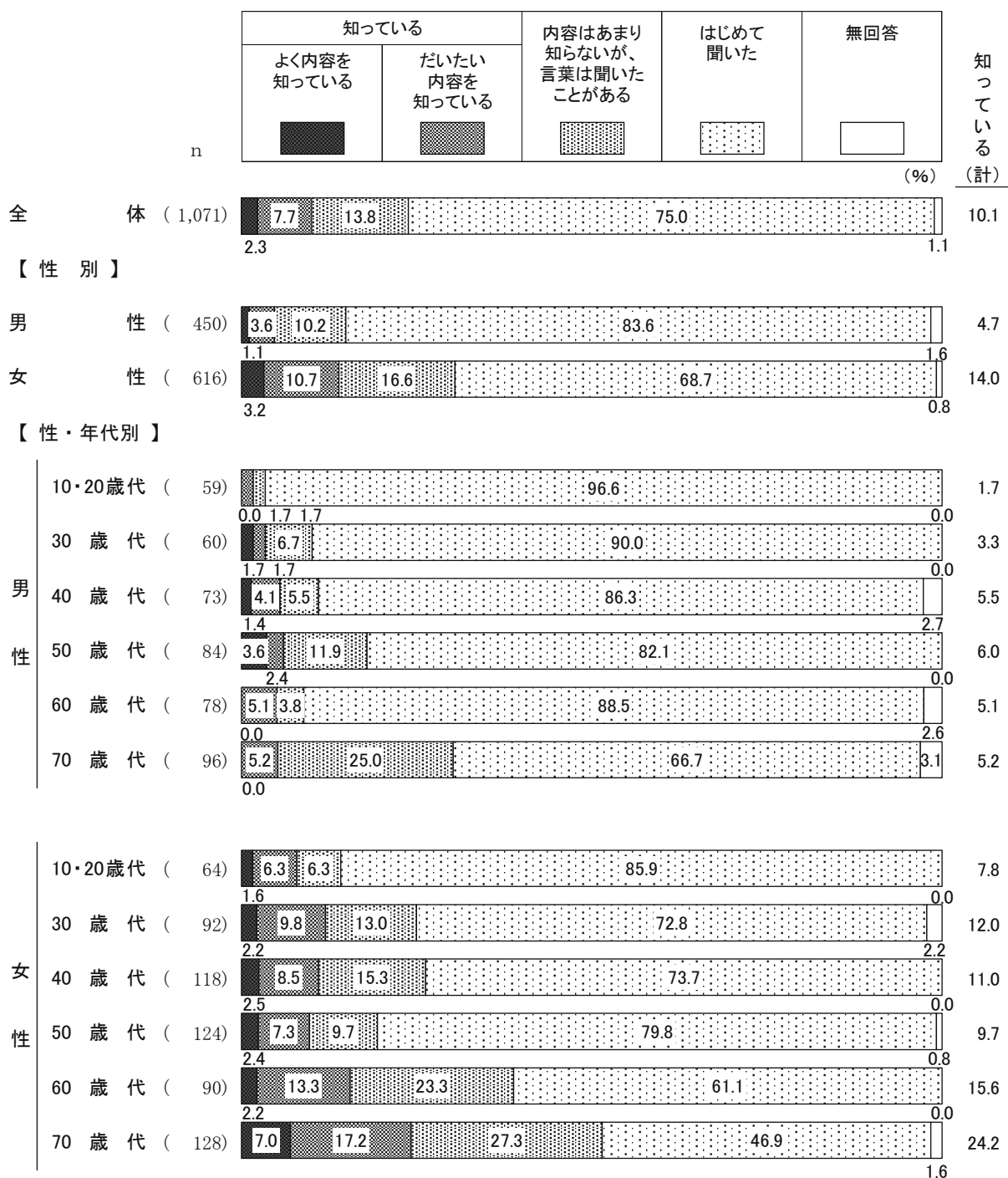
問7 あなたは、日野市が「ベジ活350～両手山盛りいっぱいを習慣に～」をキャッチフレーズに、1日350gの野菜を食べるための取り組みを進めていることを知っていますか。(〇は1つ)

図2-7-1 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度



日野市の「ベジ活350」の取り組みについて知っているかたずねたところ、「よく内容を知っている」(2.3%)、「だいたい内容を知っている」(7.7%)を合わせた『知っている(計)』(10.1%)が約1割となっている。また、「内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」(13.8%)が1割台前半となっている。一方、「はじめて聞いた」(75.0%)は7割台半ばとなっている。(図2-7-1)

図 2-7-2 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度－性別／性・年代別



性別にみると、『知っている（計）』は女性のほうが9.3ポイント高くなっている。

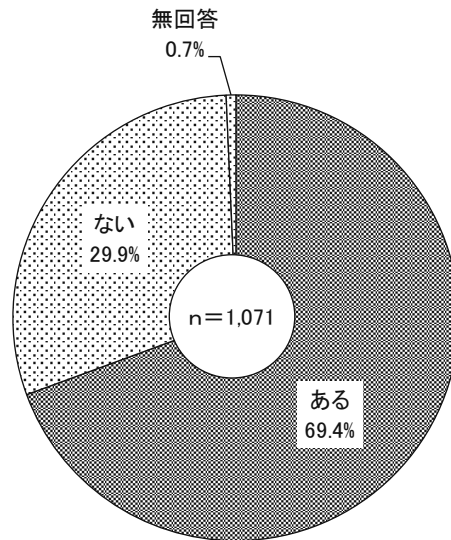
性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性70歳代で2割台半ばと多くなっている。
(図 2-7-2)

3 地産地消について

(1) 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験

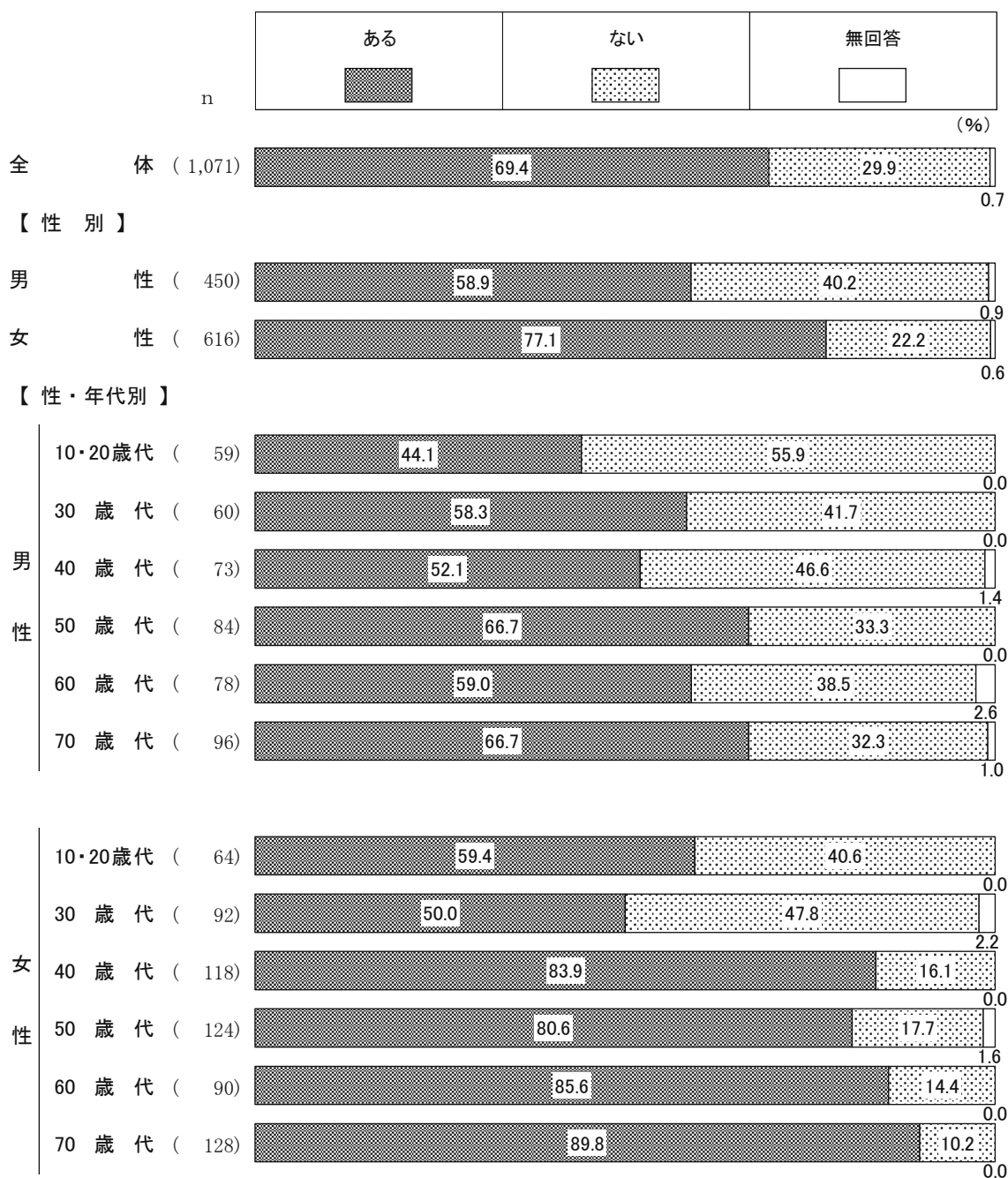
問8 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがありますか。（○は1つ）

図3－1－1 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験



日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがあるかたずねたところ、「ある」（69.4%）が約7割、「ない」（29.9%）が約3割となっている。（図3－1－1）

図3-1-2 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験—性別／性・年代別



性別にみると、「ある」は女性のほうが18.2ポイント高くなっている。

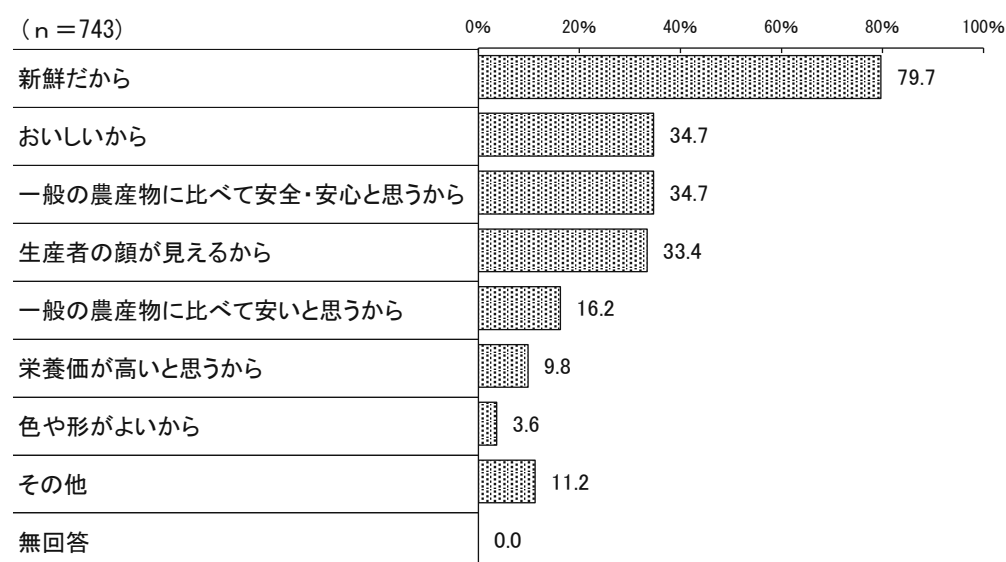
性・年代別にみると、「ある」は女性70歳代で9割近く、女性60歳代で8割台半ばと多くなっている。一方、男性10・20歳代で4割台半ばとなっている。（図3-1-2）

(1-1) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由

【問8で「1 ある」と回答した方に】

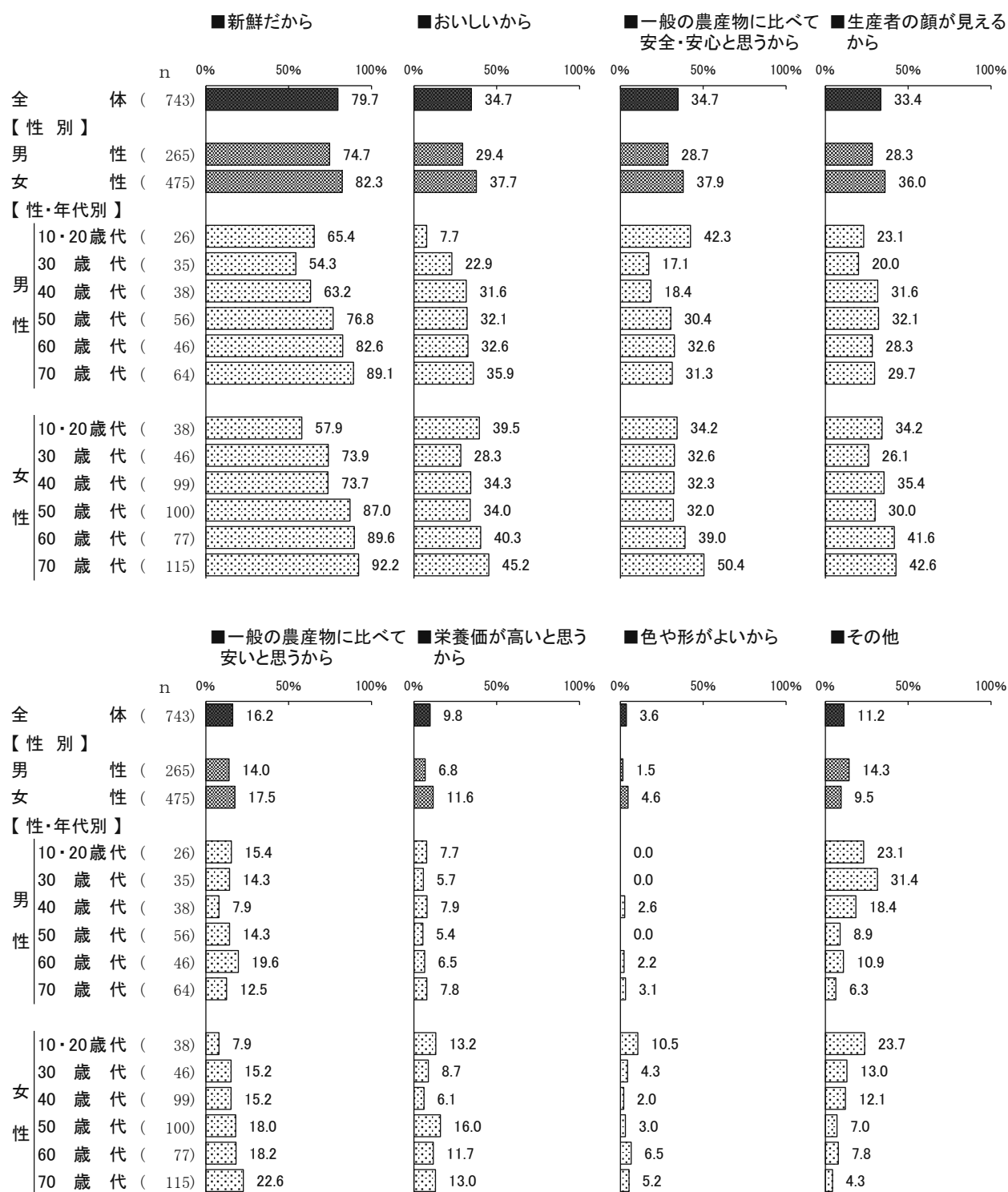
問8-1 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由は何ですか。（○はいくつでも）

図3-1-3 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由



日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがあると答えた方（743人）に購入した理由をたずねたところ、「新鮮だから」（79.7%）が約8割と最も多く、次いで「おいしいから」、「一般の農産物に比べて安全・安心と思うから」（ともに34.7%）、「生産者の顔が見えるから」（33.4%）などの順となっている。（図3-1-3）

図3-1-4 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由－性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「一般の農産物に比べて安全・安心と思うから」で9.2ポイント、「おいしいから」で8.3ポイント、「生産者の顔が見えるから」で7.7ポイント、「新鮮だから」で7.6ポイント高くなっている。

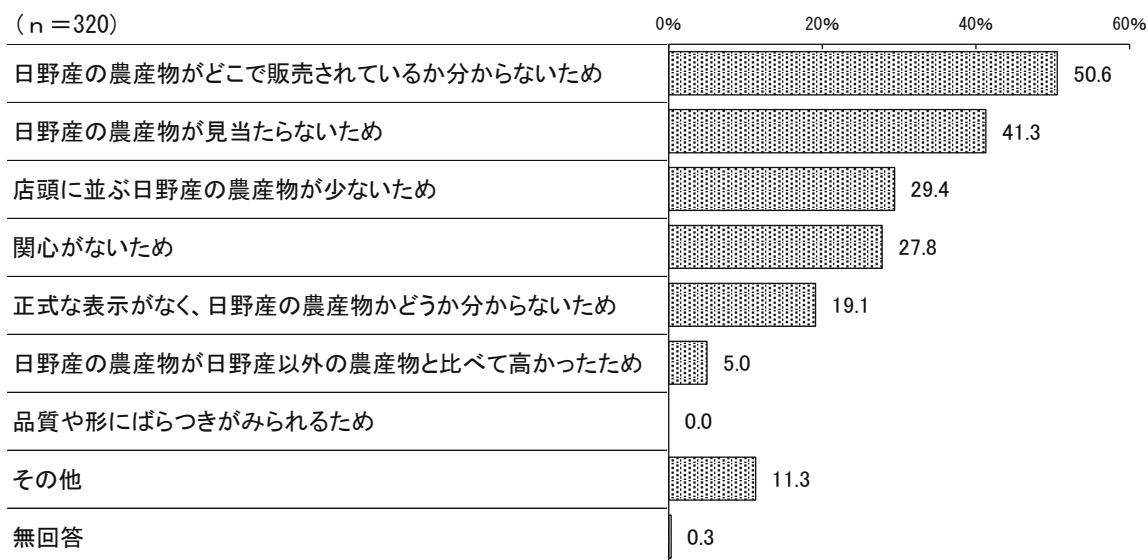
性・年代別にみると、「新鮮だから」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、女性70歳代で9割を超えて多くなっている。（図3-1-4）

(1-2) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由

【問8で「2 ない」と回答した方に】

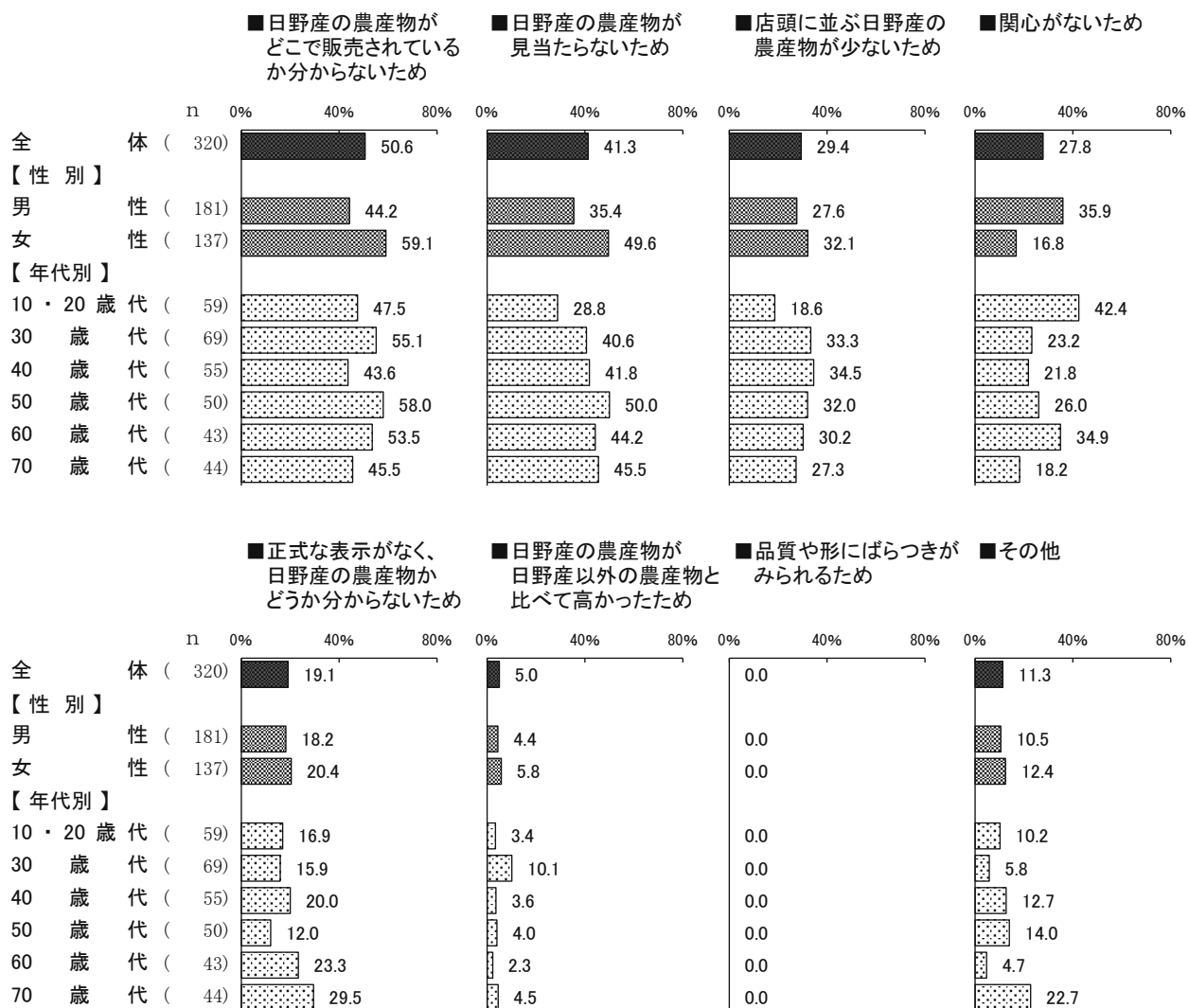
問8-2 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由は何ですか。
(○はいくつでも)

図3-1-5 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由



日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがないと答えた方（320人）に購入したことがない理由をたずねたところ、「日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため」（50.6%）が約5割と最も多く、次いで「日野産の農産物が見当たらないため」（41.3%）、「店頭に並ぶ日野産の農産物が少ないため」（29.4%）、「関心がないため」（27.8%）などの順となっている。（図3-1-5）

図 3-1-6 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由－性別／年代別



性別にみると、「関心がないため」は男性のほうが19.1ポイント高くなっている。一方、女性のほうが「日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため」で14.9ポイント、「日野産の農産物が見当たらないため」で14.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、「日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため」は50歳代で6割近く、「日野産の農産物が見当たらないため」は50歳代で5割と多くなっている。一方、「関心がないため」は10・20歳代で4割を超えて多くなっている。（図3-1-6）

4 農業体験について

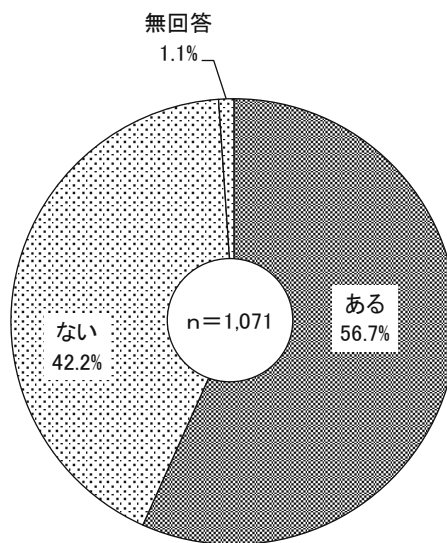
(1) 農業体験の経験

問9 あなたは、農業体験を行ったことがありますか。(○は1つ)

※農業体験とは、田植えや稲刈り、野菜の植付け・収穫、果樹の栽培（摘果や剪定）や収穫、乳搾りや家畜の餌やりなどの酪農体験、花やハーブの栽培等々、文字通り農家の方の生業（なりわい）を体験するものです。

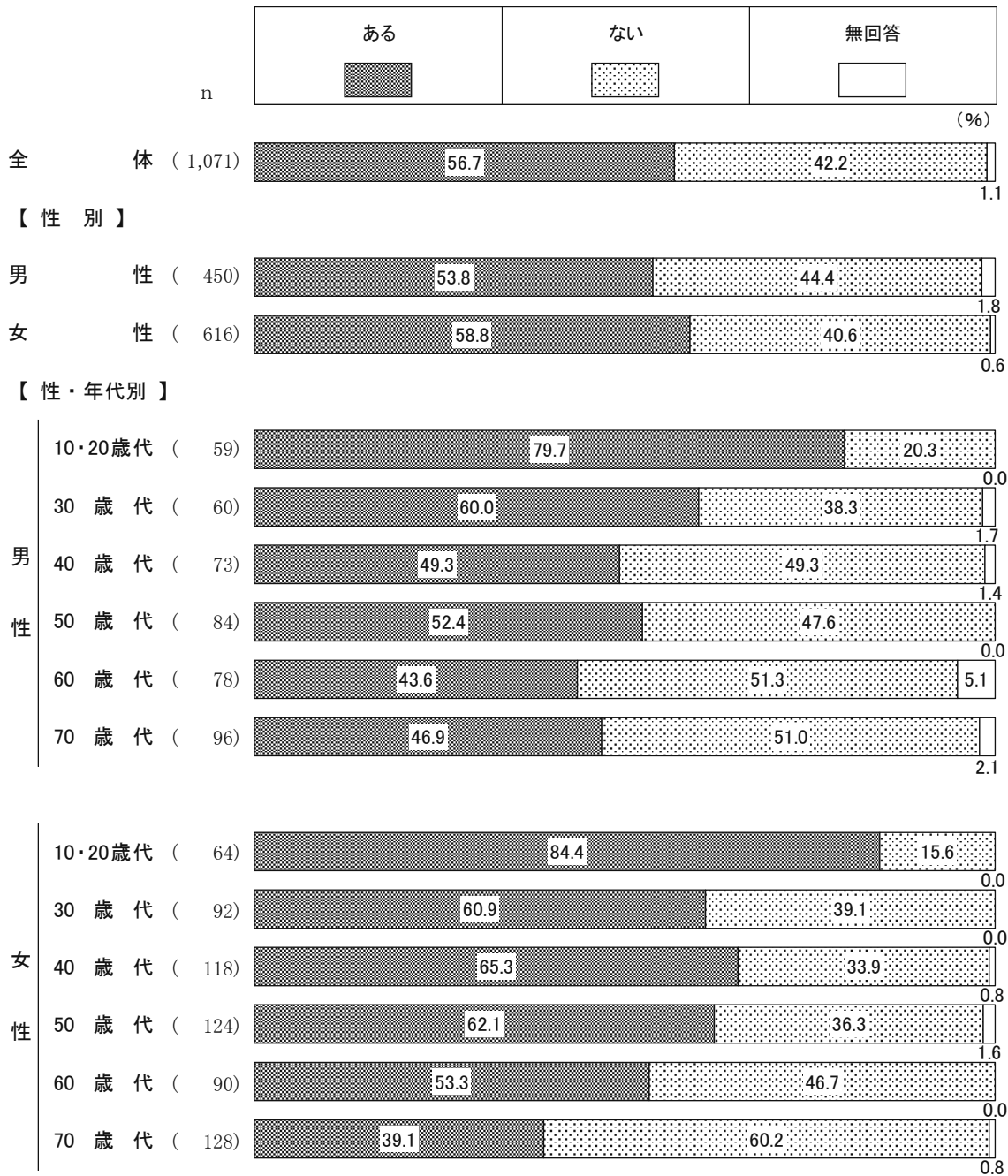
※家庭菜園（プランターを含む）等の身近な栽培のほか、フルーツ狩り等も含まれます。

図4-1-1 農業体験の経験



農業体験を行ったことがあるかたずねたところ、「ある」（56.7%）が5割台半ば、「ない」（42.2%）が4割台前半となっている。（図4-1-1）

図 4－1－2 農業体験の経験－性別／性・年代別



性別にみると、「ある」は女性のほうが5.0ポイント高くなっている。

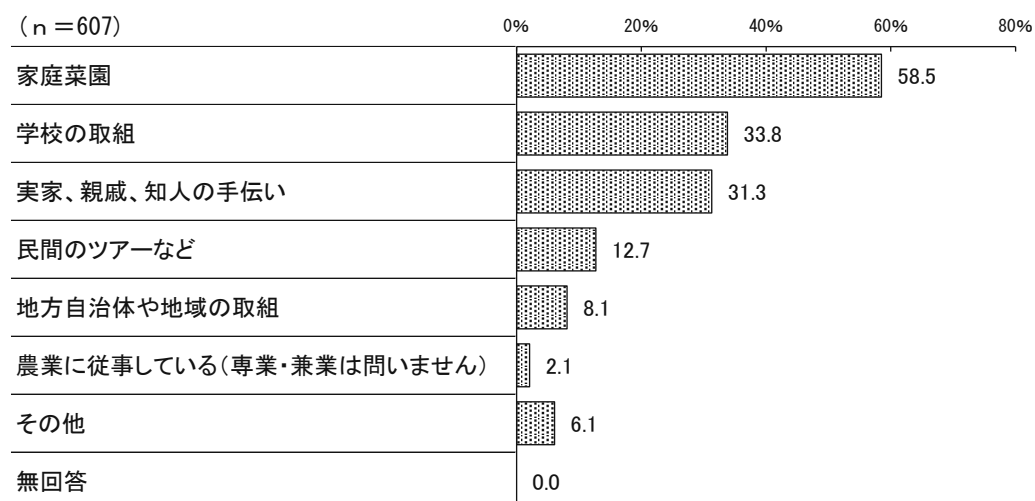
性・年代別にみると、「ある」は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、女性10・20歳代で8割台半ば、男性10・20歳代で約8割となっている。一方、「ない」は女性70歳代で約6割、男性60歳代、70歳代で5割を超えている。（図4－1－2）

（１－１）行った農業体験の取り組み内容

【問9で「１ ある」と回答した方に】

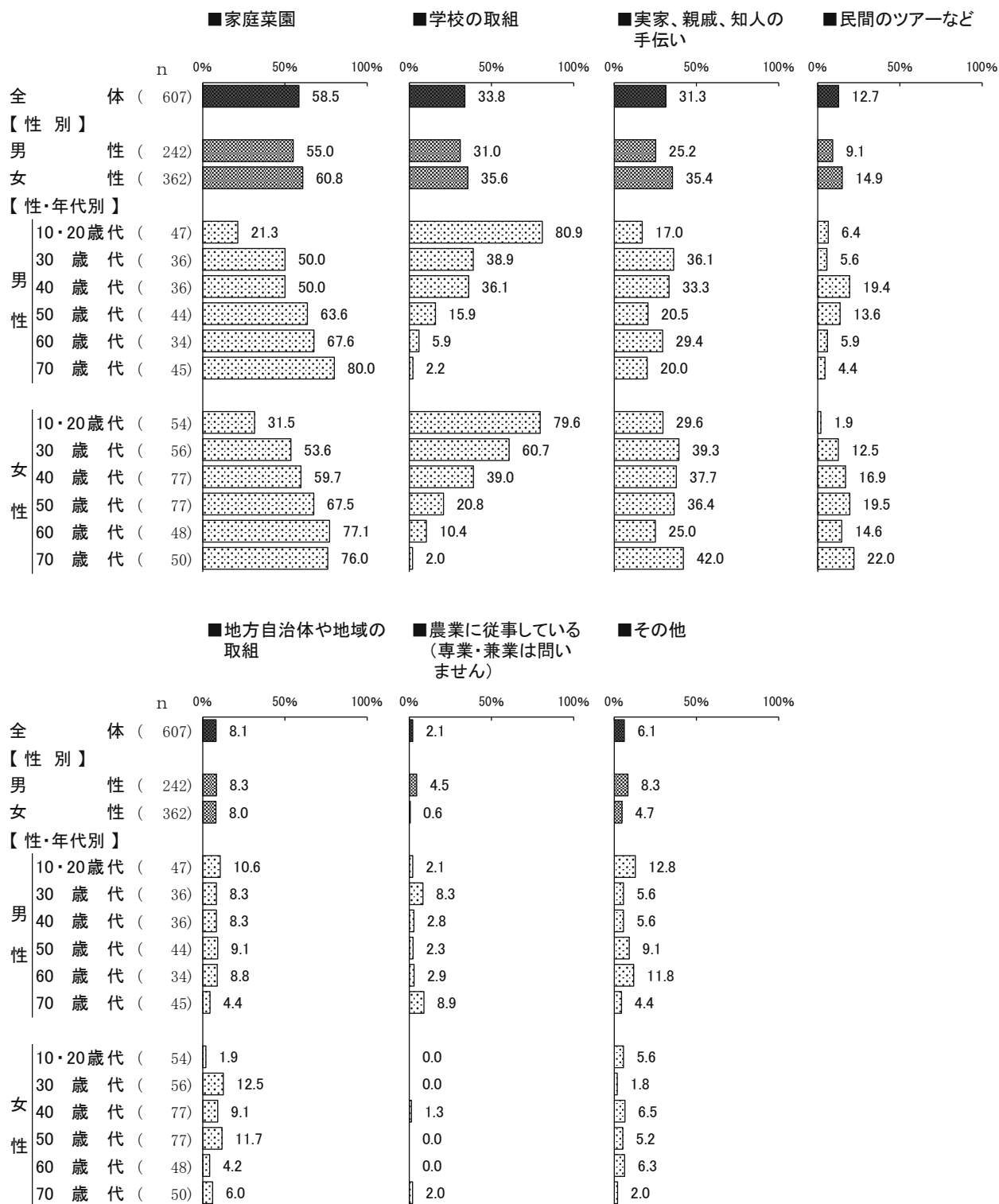
問9－１ あなたが行った農業体験は、どのような取り組みでしたか。（〇はいくつでも）

図４－１－３ 行った農業体験の取り組み内容



農業体験を行ったことがあると答えた方（607人）に行った農業体験の取り組み内容をたずねたところ、「家庭菜園」（58.5%）が6割近くと最も多く、次いで「学校の取組」（33.8%）、「実家、親戚、知人の手伝い」（31.3%）、「民間のツアー」（12.7%）などの順となっている。（図４－１－３）

図4-1-4 行った農業体験の取り組み内容－性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「実家、親戚、知人の手伝い」で10.2ポイント、「家庭菜園」、「民間のツアー」で5.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「家庭菜園」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男性70歳代で8割、女性60歳代で8割近く、70歳代で7割台半ばとなっている。「学校の取組」は男女ともに年代が低いほど多く、男性10・20歳代、女性10・20歳代で約8割となっている。

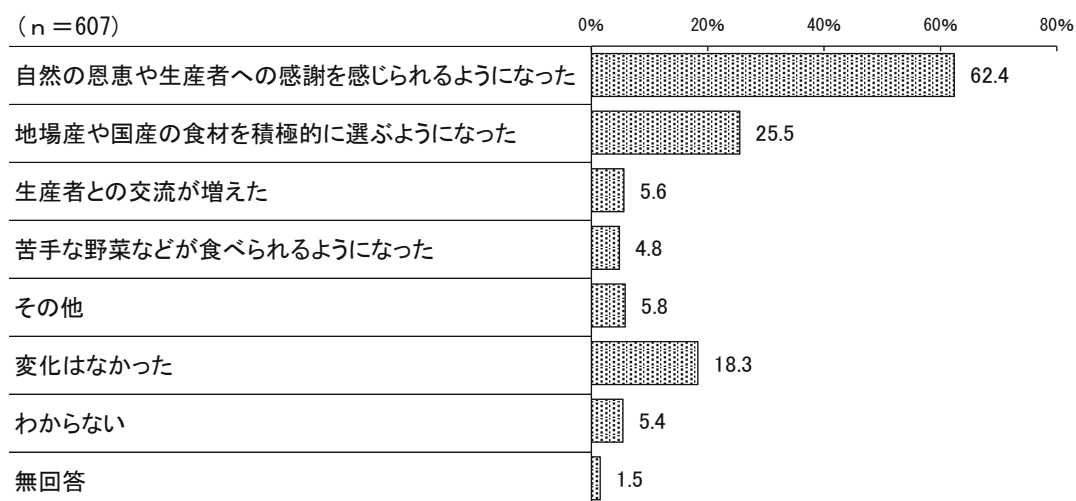
(図4-1-4)

（１－２）農業体験を行っての変化

【問9で「１ ある」と回答した方に】

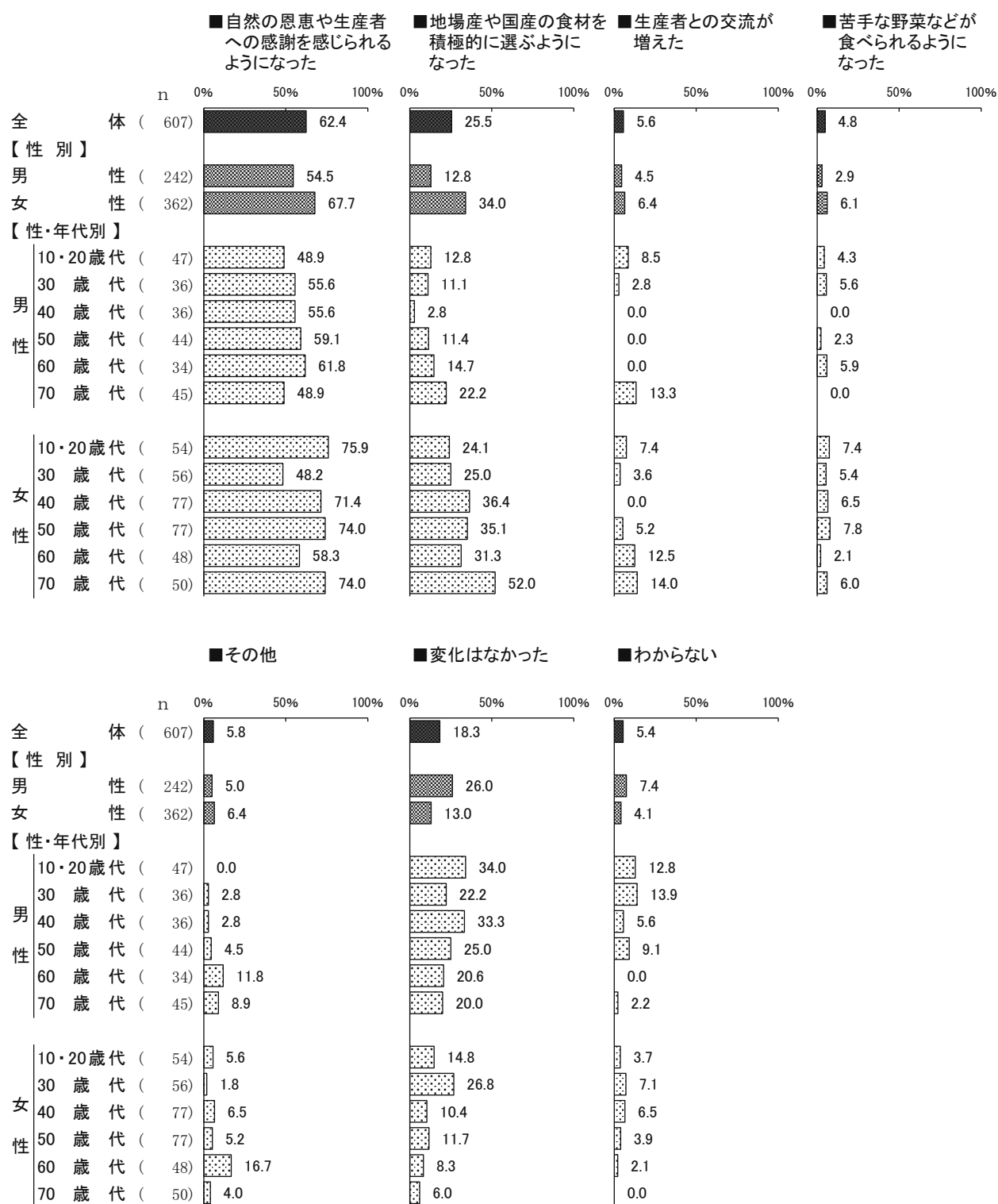
問9－２ 農業体験を行って、何か変化したことはありますか。（○はいくつでも）

図４－１－５ 農業体験を行っての変化



農業体験を行ったことがあると答えた方（607人）に農業体験を行っての変化をたずねたところ、「自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった」（62.4%）が6割を超えて最も多く、次いで「地場産や国産の食材を積極的に選ぶようになった」（25.5%）などの順となっている。一方、「変化はなかった」（18.3%）は2割近くとなっている。（図４－１－５）

図 4-1-6 農業体験を行っての変化－性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「地場産や国産の食材を積極的に選ぶようになった」で21.2ポイント、「自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった」で13.2ポイント高くなっている。一方、「変化はなかった」は男性のほうが13.0ポイント高くなっている。

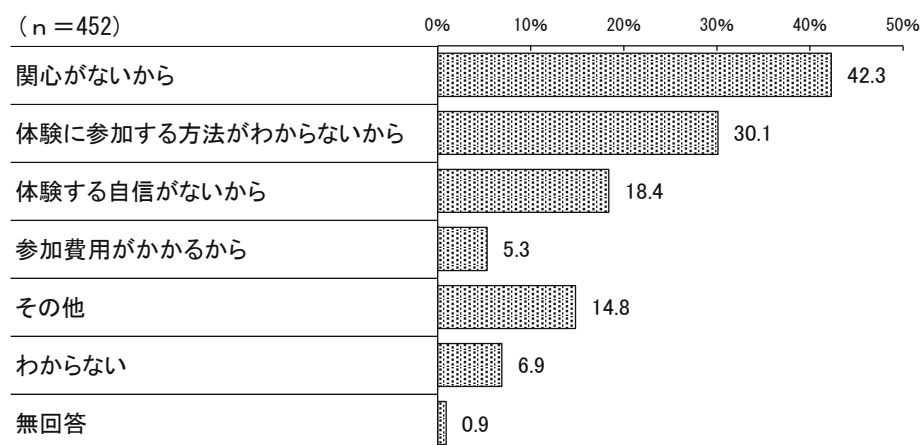
性・年代別にみると、「自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった」は女性10・20歳代、50歳代、70歳代で7割台半ば、「地場産や国産の食材を積極的に選ぶようになった」は女性70歳代で5割を超えて多くなっている。一方、「変化はなかった」は男性10・20歳代で3割台半ばとなっている。（図4-1-6）

（１－３）農業体験を行ったことの無い理由

【問9で「2 ない」と回答した方に】

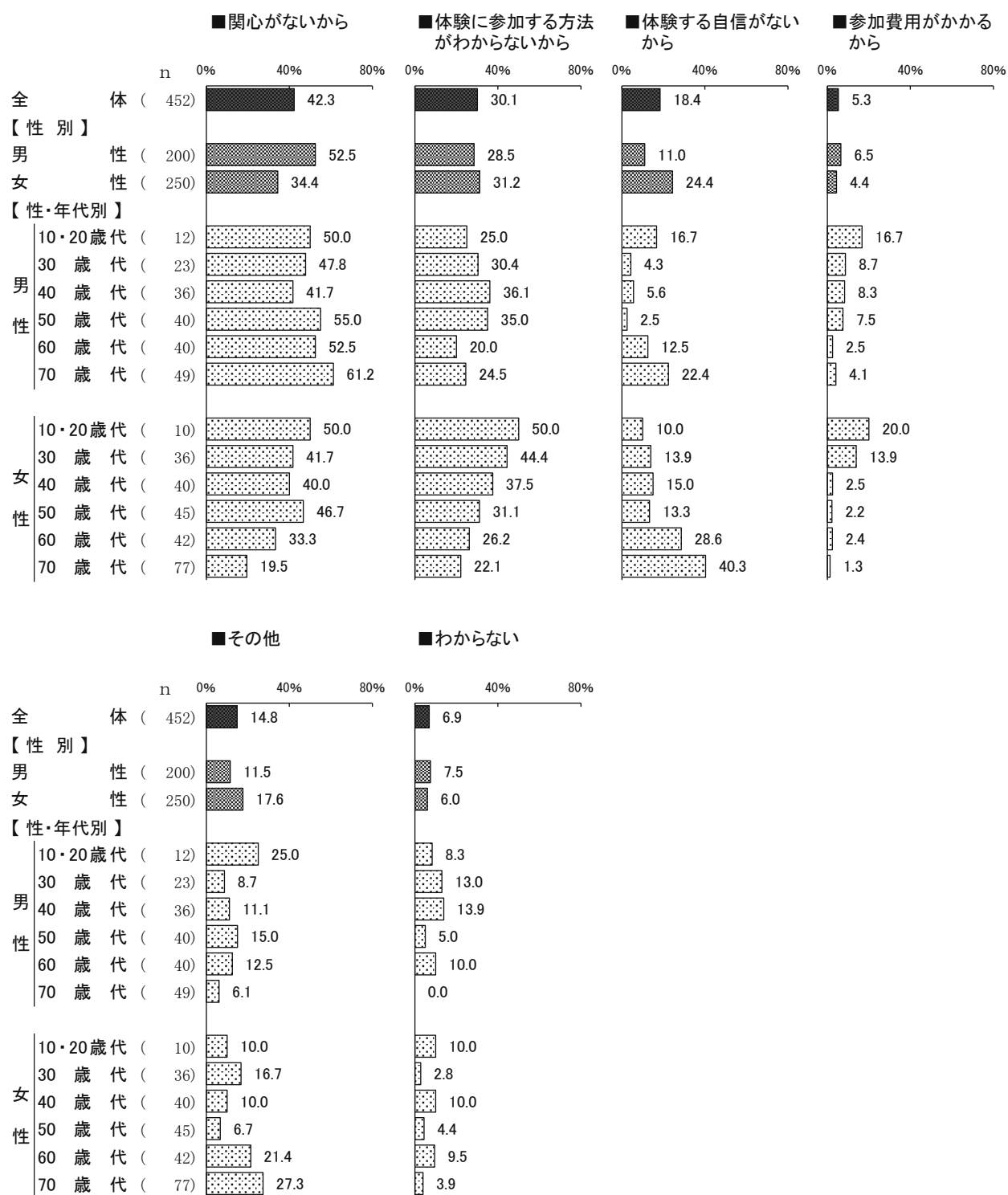
問9－3 農業体験を行ったことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図４－１－７ 農業体験を行ったことの無い理由



農業体験を行ったことがないと答えた方（452人）に農業体験を行ったことの無い理由をたずねたところ、「関心がないから」（42.3%）が4割を超えて最も多く、次いで「体験に参加する方法がわからないから」（30.1%）、「体験する自信がないから」（18.4%）などの順となっている。（図４－１－７）

図 4-1-8 農業体験を行ったことのない理由－性別／性・年代別



性別にみると、「関心がないから」は男性のほうが18.1ポイント高くなっている。「体験する自信がないから」は女性のほうが13.4ポイント高くなっている。

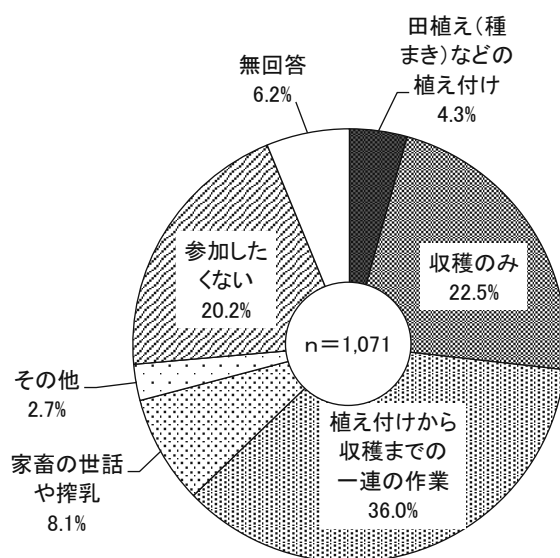
性・年代別にみると、「関心がないから」は男性70歳代で6割を超え、「体験に参加する方法がわからないから」は女性10・20歳代で5割、「体験する自信がないから」は女性70歳代で約4割と多くなっている。(図4-1-8)

（２）最も参加したい農業体験

【全員の方にお聞きます】

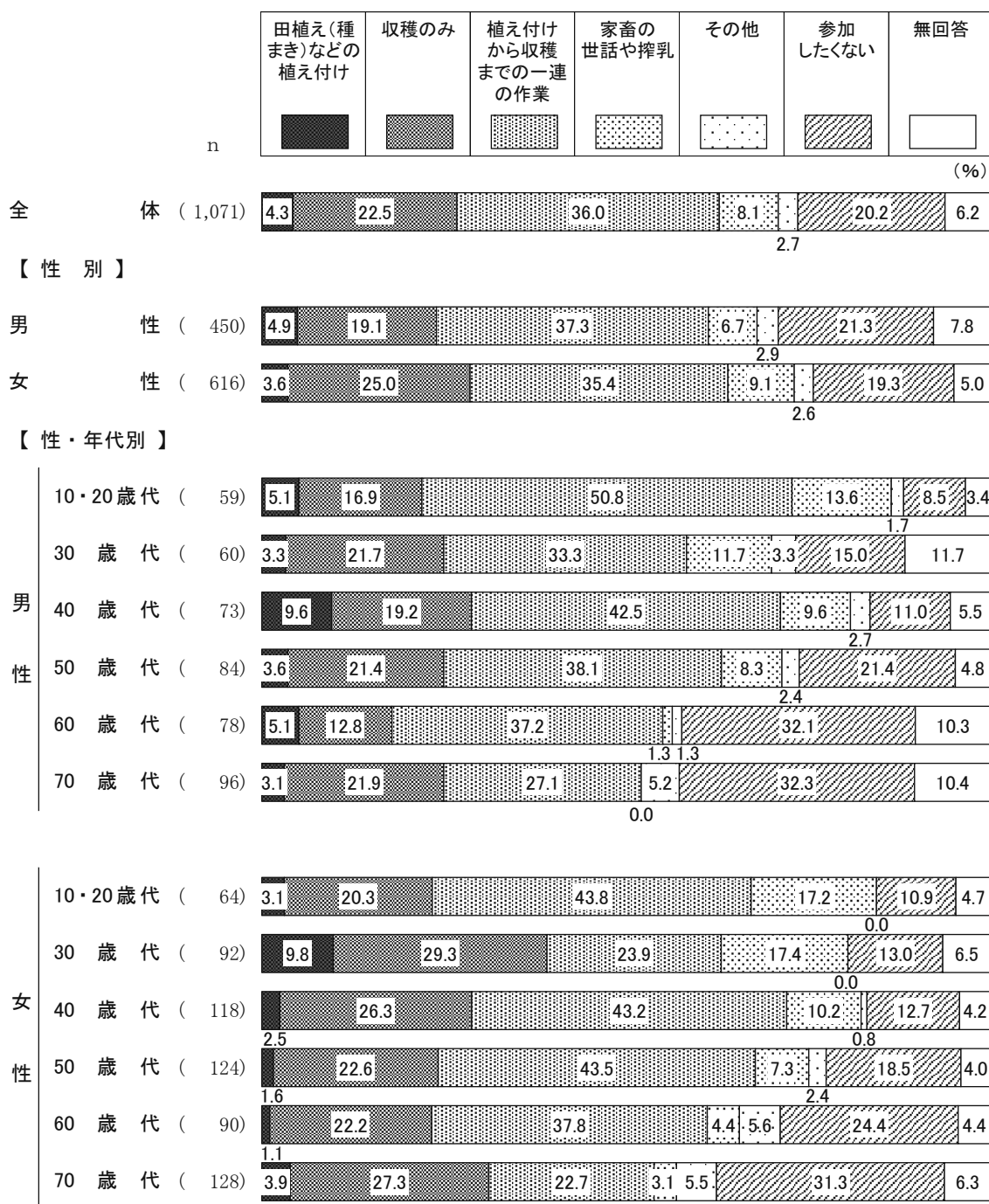
問10 あなたが農業体験を行うとしたら、どのような作業に参加したいですか。
最も参加したいものを１つだけお選びください。（○は１つ）

図４－２－１ 最も参加したい農業体験



農業体験を行うとしたらどのような作業に参加したいかをたずねたところ、「植え付けから収穫までの一連の作業」（36.0％）が３割台半ばと最も多く、次いで「収穫のみ」（22.5％）、「家畜の世話や搾乳」（8.1％）などの順となっている。一方、「参加したくない」（20.2％）は約２割となっている。（図４－２－１）

図4-2-2 最も参加したい農業体験－性別／性・年代別



性別にみると、「収穫のみ」は女性のほうが5.9ポイント高くなっている。

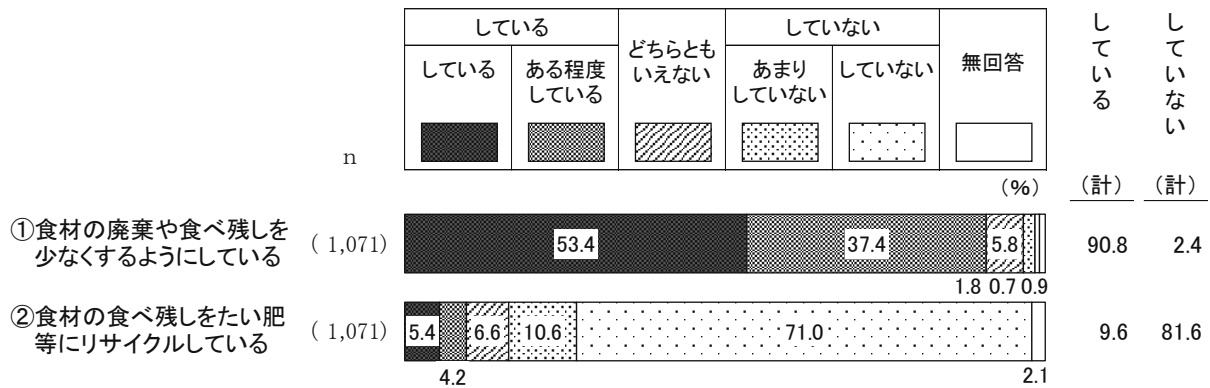
性・年代別にみると、「植え付けから収穫までの一連の作業」は男性10・20歳代で約5割、「収穫のみ」は女性30歳代で約3割と多くなっている。一方、「参加したくない」は男性70歳代、60歳代、女性70歳代で3割を超えて多くなっている。(図4-2-2)

5 環境への配慮について

(1) 環境に配慮して実践していること

問11 あなたは環境に配慮して次のことを実践したり、心がけたりしていますか。
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。（○は1つずつ）

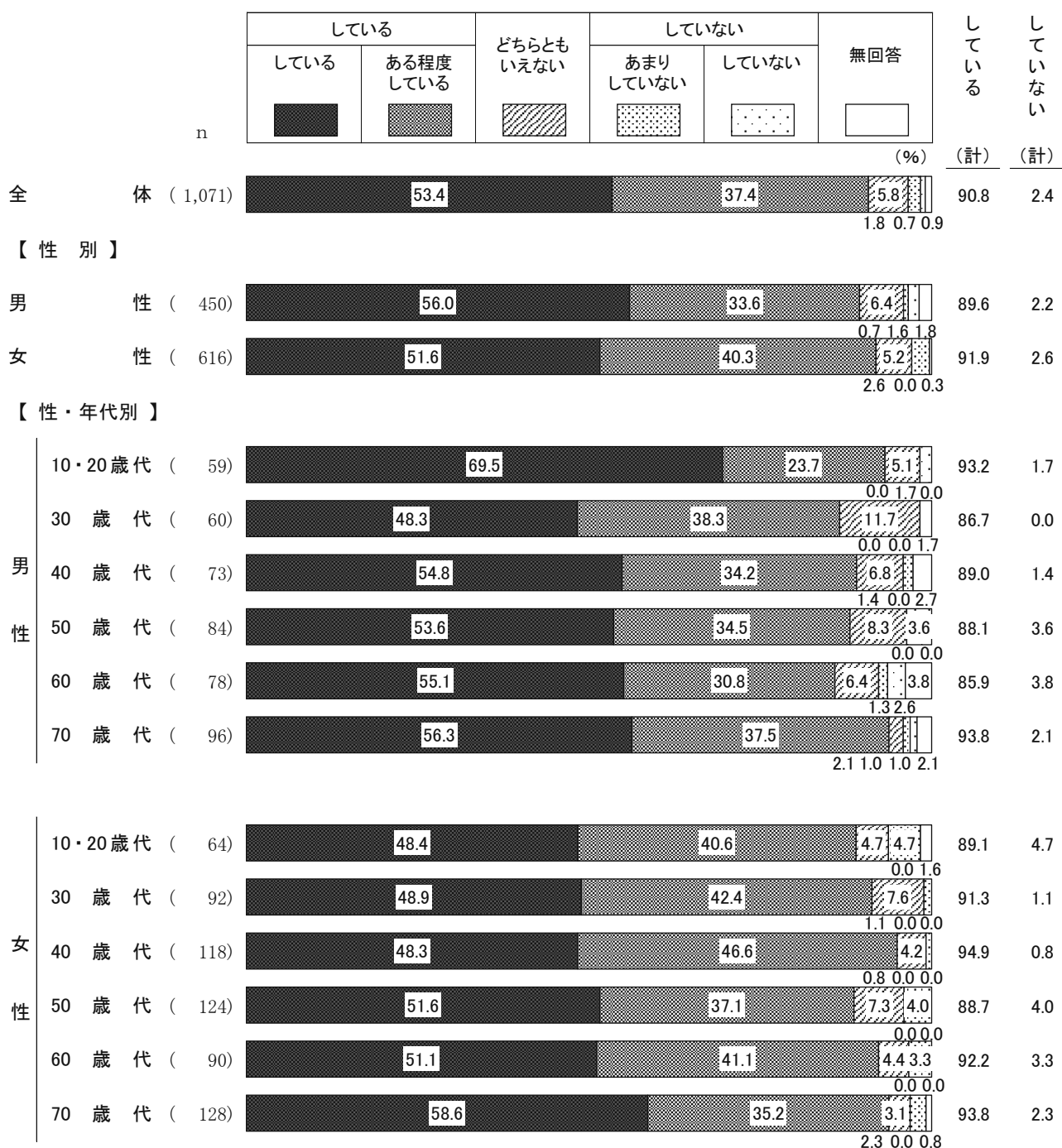
図5-1-1 環境に配慮して実践していること



環境に配慮して実践していることをたずねたところ、①食材の廃棄や食べ残しを少なくするようにしているは「している」（53.4%）、「ある程度している」（37.4%）を合わせた『している（計）』（90.8%）が約9割となっている。一方、②食材の食べ残しをたい肥等にリサイクルしているは「している」（5.4%）、「ある程度している」（4.2%）を合わせた『している（計）』（9.6%）は約1割となっている。（図5-1-1）

図5-1-2 環境に配慮して実践していること－性別／性・年代別

①食材の廃棄や食べ残しを少なくするようにしている

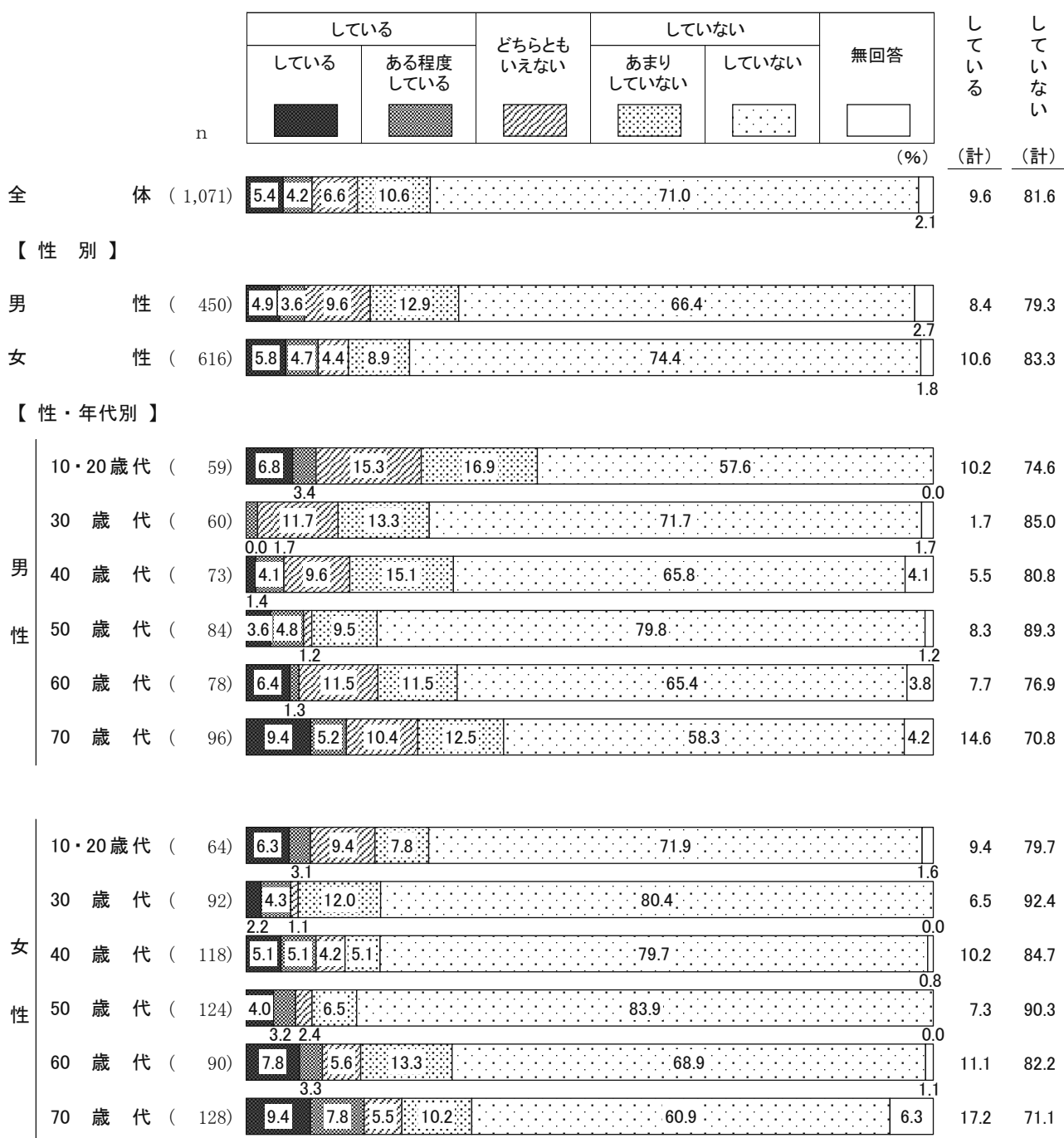


①食材の廃棄や食べ残しを少なくするようにしているについて性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、『している（計）』は女性40歳代で9割台半ばとなっているほか、すべての性・年代で8割台半ばを超えている。（図5-1-2）

図 5-1-3 環境に配慮して実践していること－性別／性・年代別

②食材の食べ残しをたい肥等へリサイクルしている



②食材の食べ残しをたい肥等へリサイクルしているについて性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

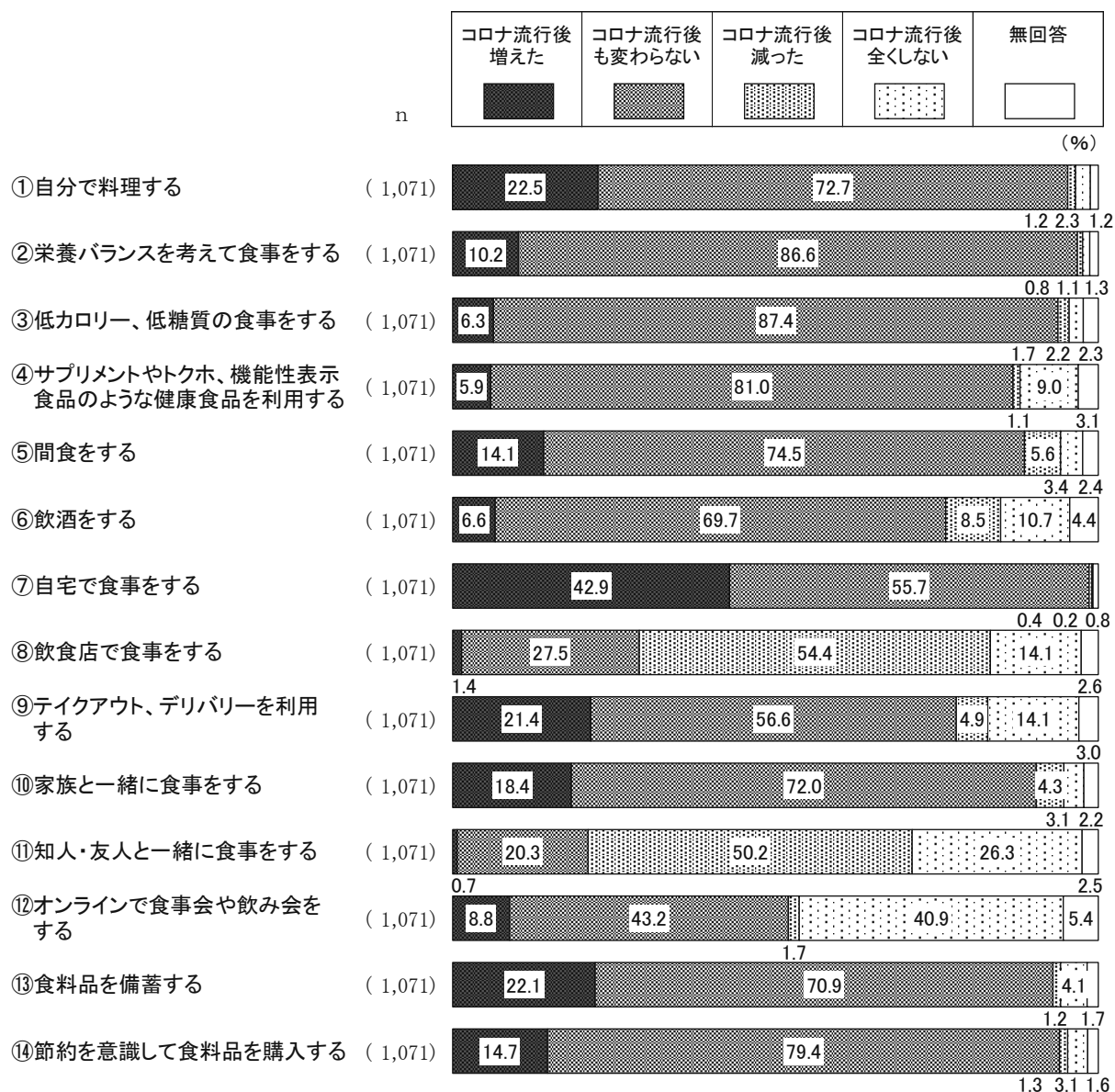
性・年代別にみると、『している（計）』は女性70歳代で2割近く、男性70歳代で1割台半ばとなっている。（図5-1-3）

6 新型コロナウイルス感染症流行による食生活への影響について

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化

問12 新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、次のことは増えましたか、減りましたか。
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。（○は1つずつ）

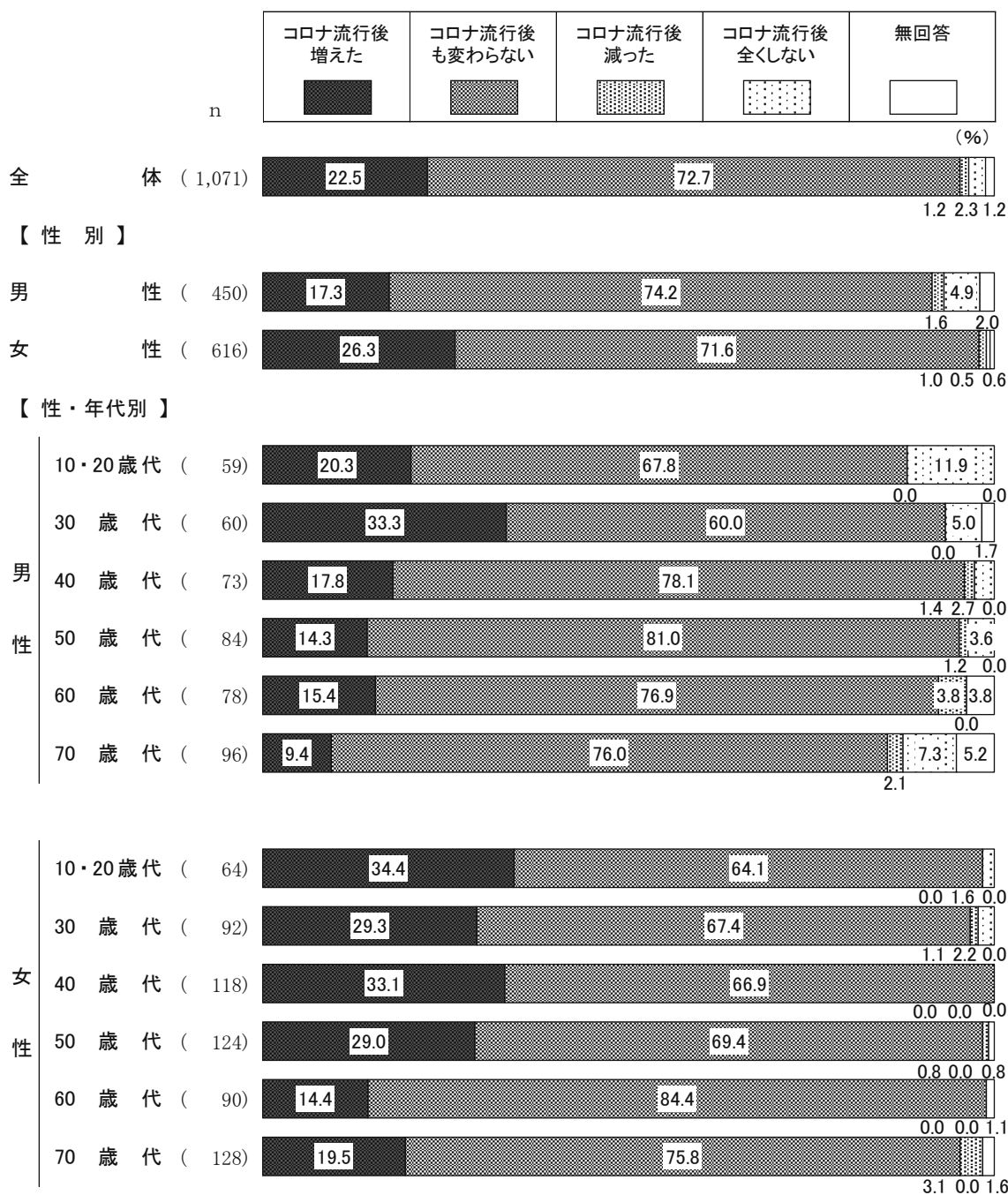
図6-1-1 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化



新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化をたずねたところ、「コロナ流行後増えた」は⑦自宅で食事をする（42.9%）が4割を超え、①自分で料理をする（22.5%）、⑬食料品を備蓄する（22.1%）、⑨テイクアウト、デリバリーを利用する（21.4%）が2割台前半と多くなっている。一方、「コロナ流行後減った」は⑧飲食店で食事をする（54.4%）、⑪知人・友人と一緒に食事をする（50.2%）が5割を超えて多くなっている。（図6-1-1）

図6-1-2 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

①自分で料理する

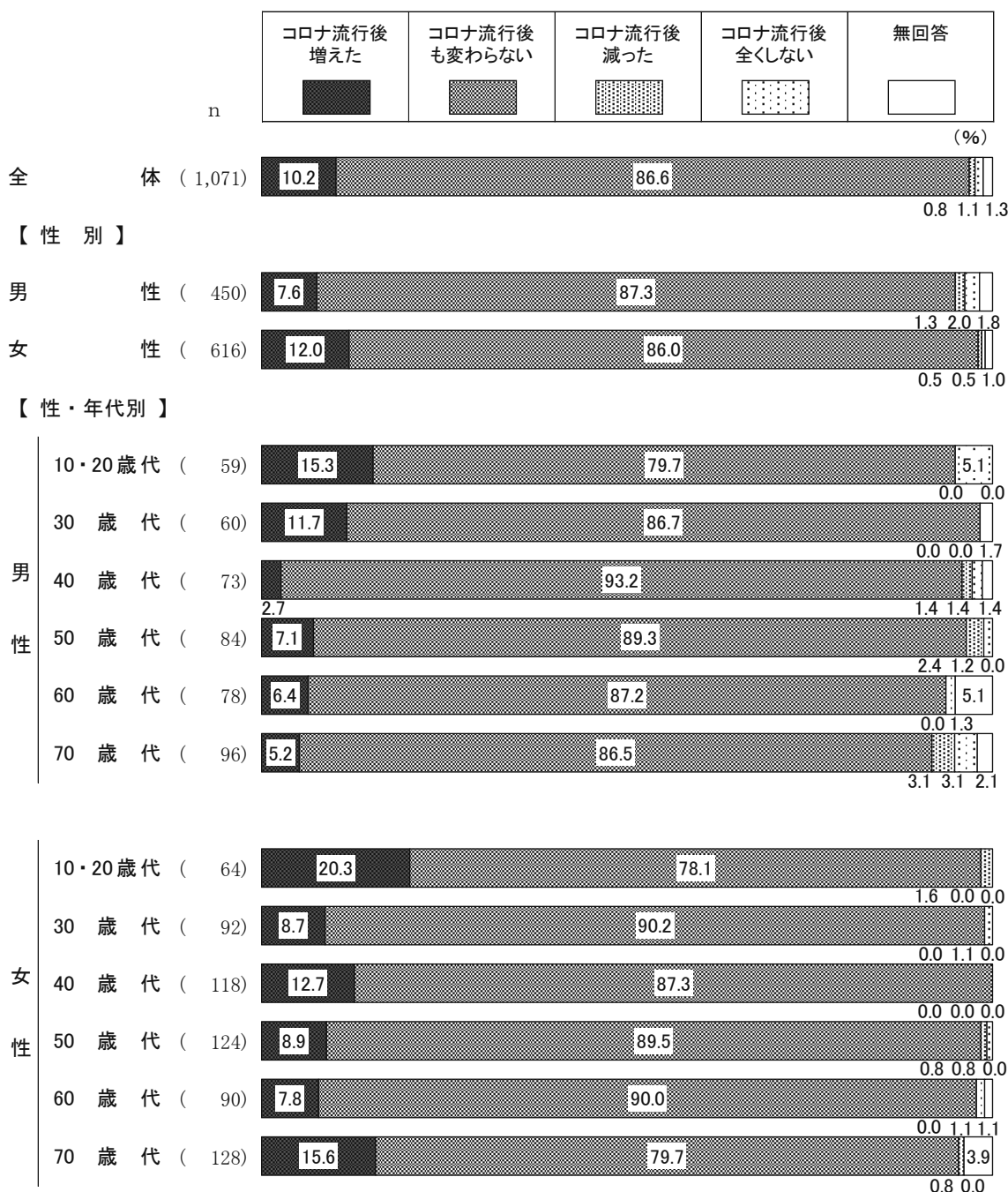


①自分で料理するについて性別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが9.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代で3割台半ば、男性30歳代、女性40歳代で3割代前半と多くなっている。(図6-1-2)

図 6-1-3 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

②栄養バランスを考えて食事をする

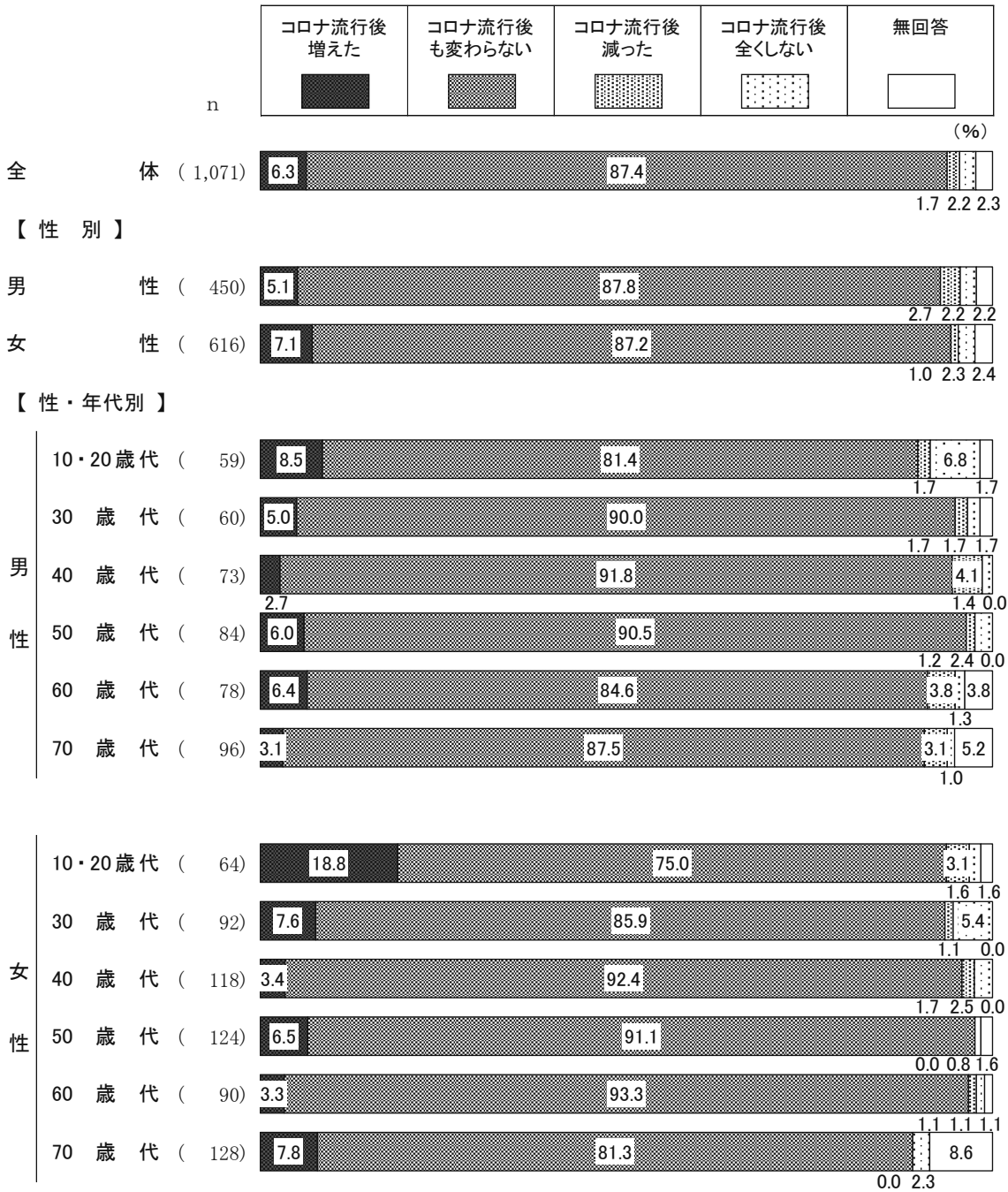


②栄養バランスを考えて食事をするについて性別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが4.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代で約2割と多くなっている。
(図6-1-3)

図6-1-4 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

③低カロリー、低糖質の食事をする

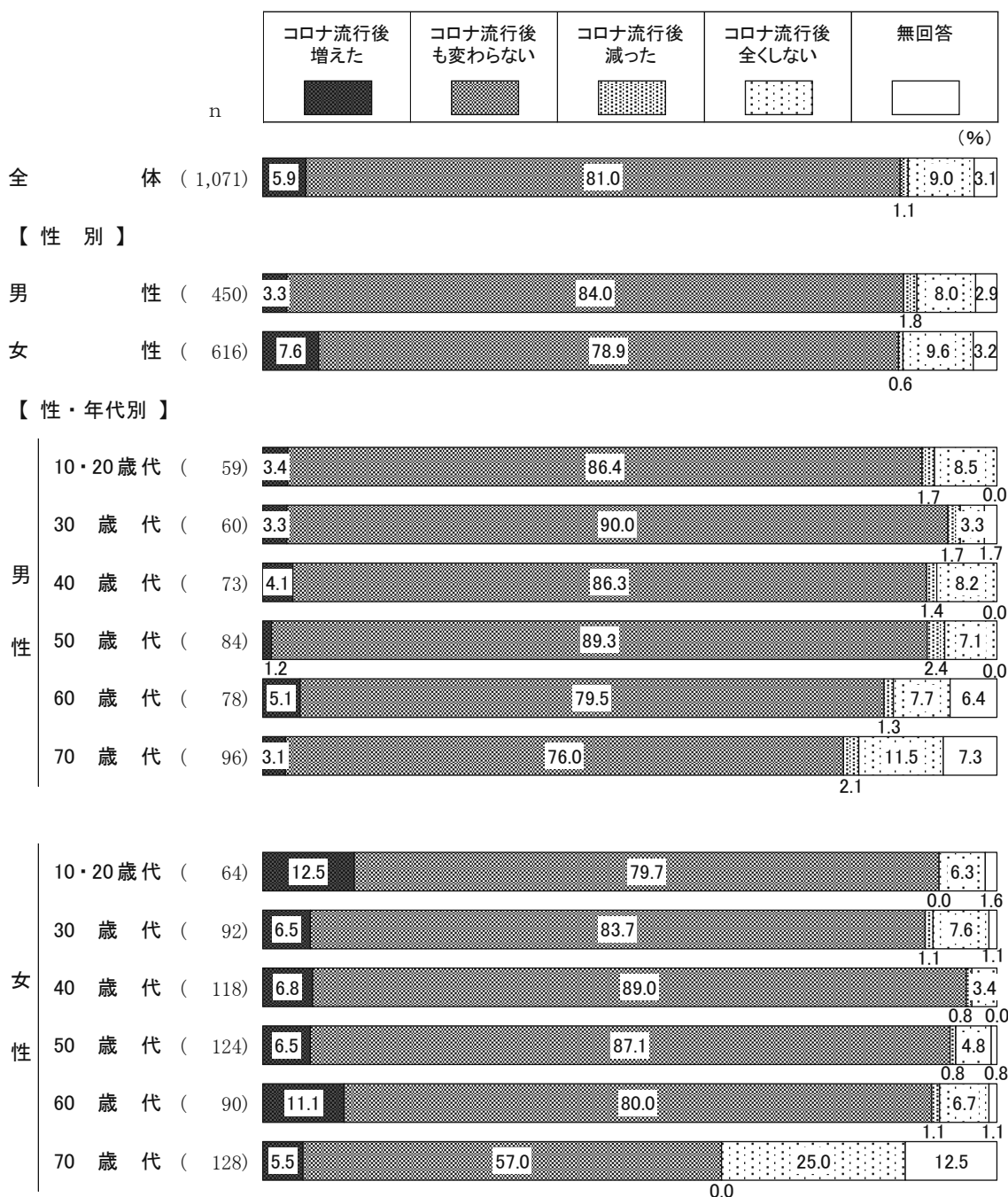


③低カロリー、低糖質の食事をするについて性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代で2割近くと多くなっている。(図6-1-4)

図 6-1-5 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

④サプリメントやトクホ、機能性表示食品のような健康食品を利用する

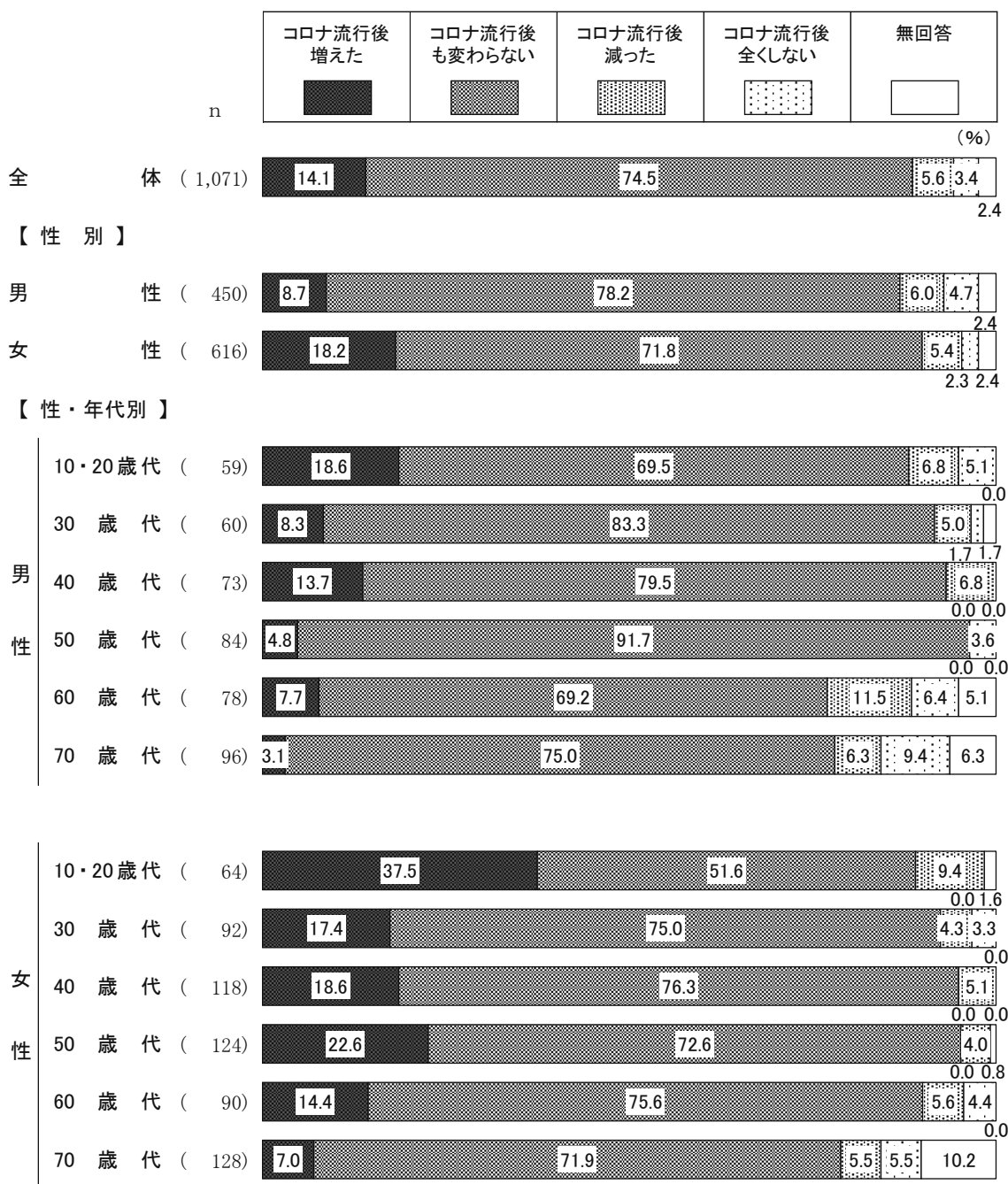


④サプリメントやトクホ、機能性表示食品のような健康食品を利用するについて性別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが5.1ポイント高く、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代、女性60歳代で1割を超えている。(図6-1-5)

図 6-1-6 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑤間食をする

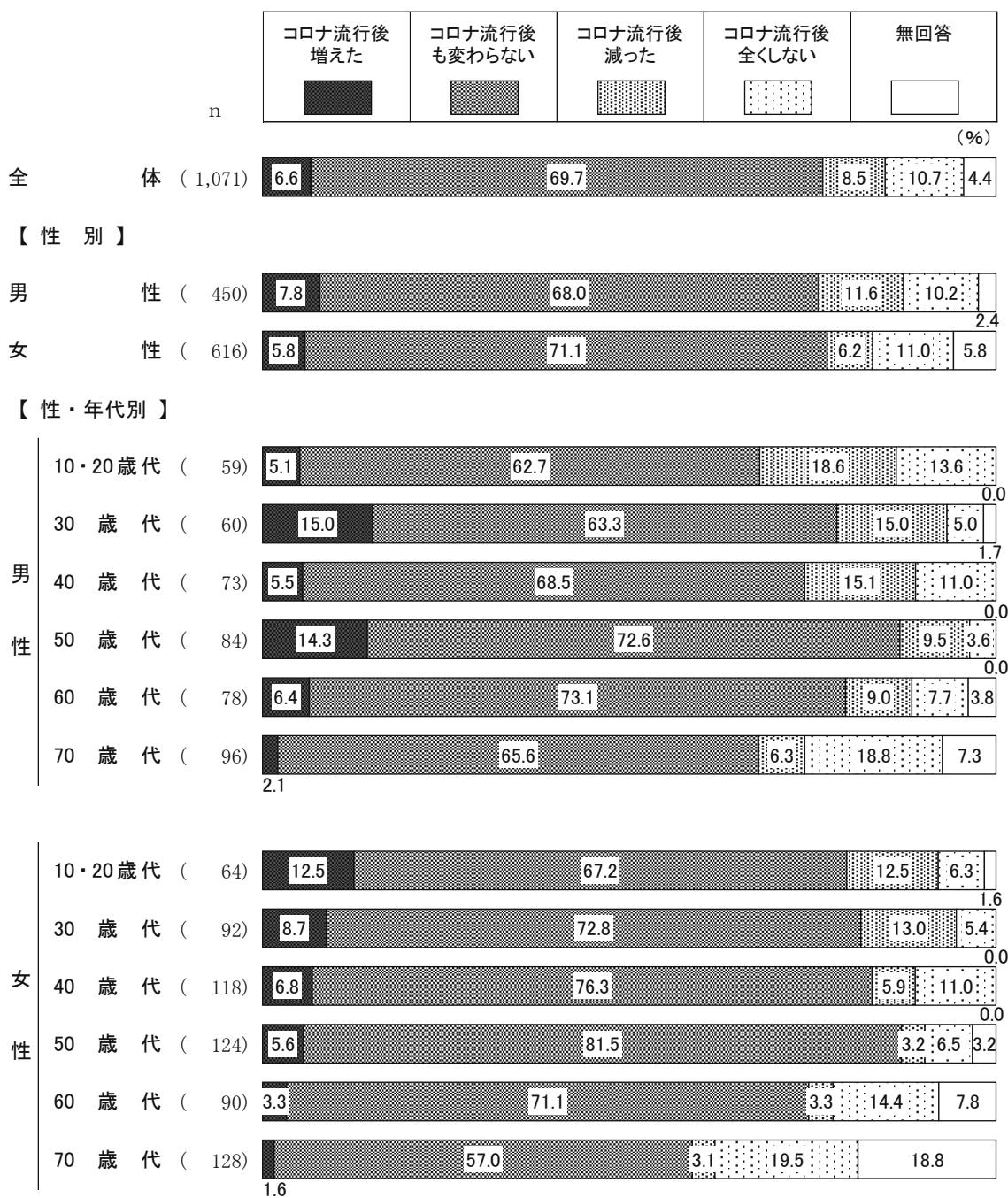


⑤間食をするについて性別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが9.5ポイント高く、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが6.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代で4割近くと多くなっている。(図6-1-6)

図6-1-7 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑥飲酒をする



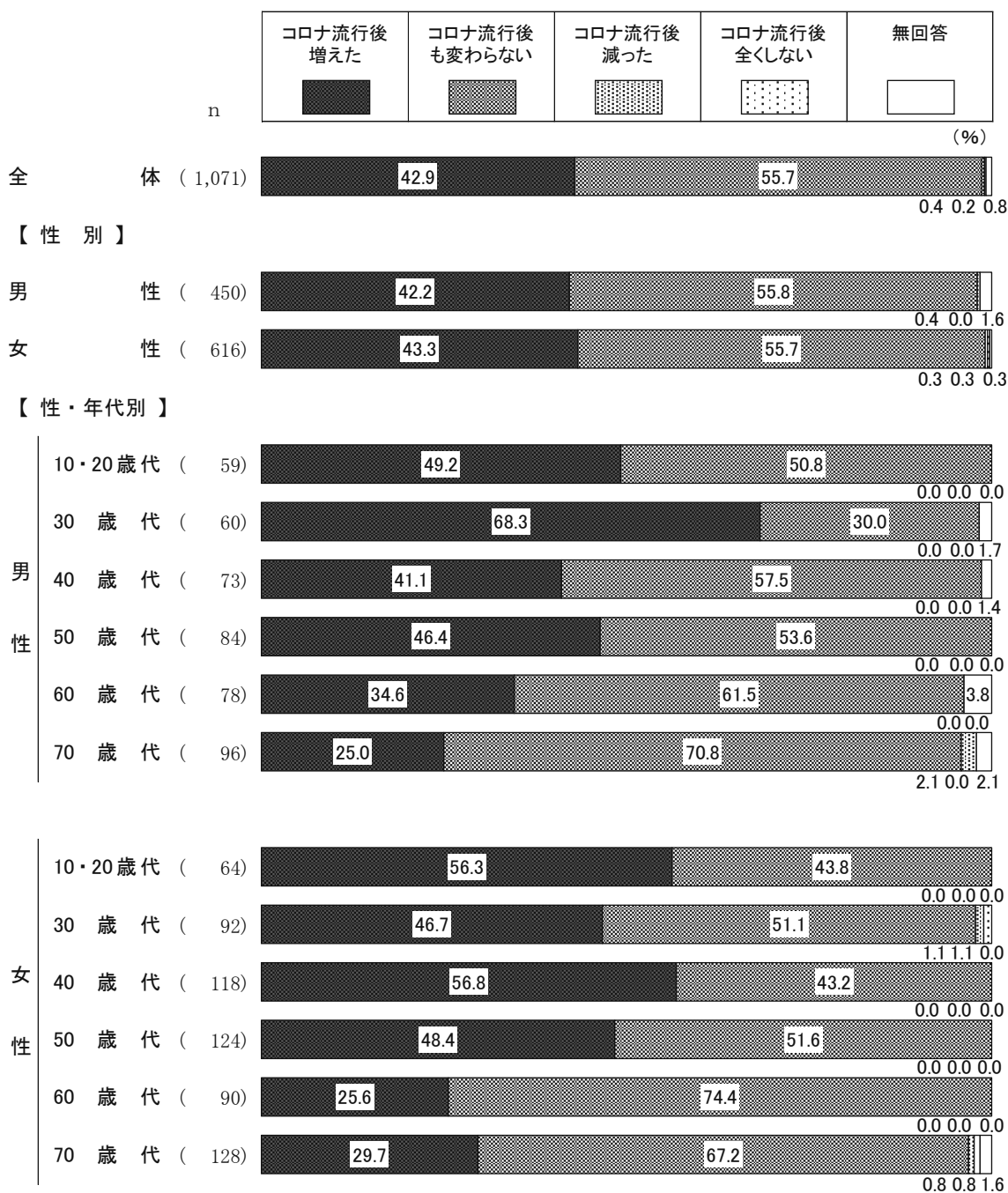
⑥飲酒をするについて性別にみると、「コロナ流行後減った」は男性のほうが5.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後減った」は男性10・20歳代で2割近く、「コロナ流行後全くしない」は女性70歳代で約2割、男性70歳代で2割近くと多くなっている。

(図6-1-7)

図6-1-8 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑦自宅で食事をする

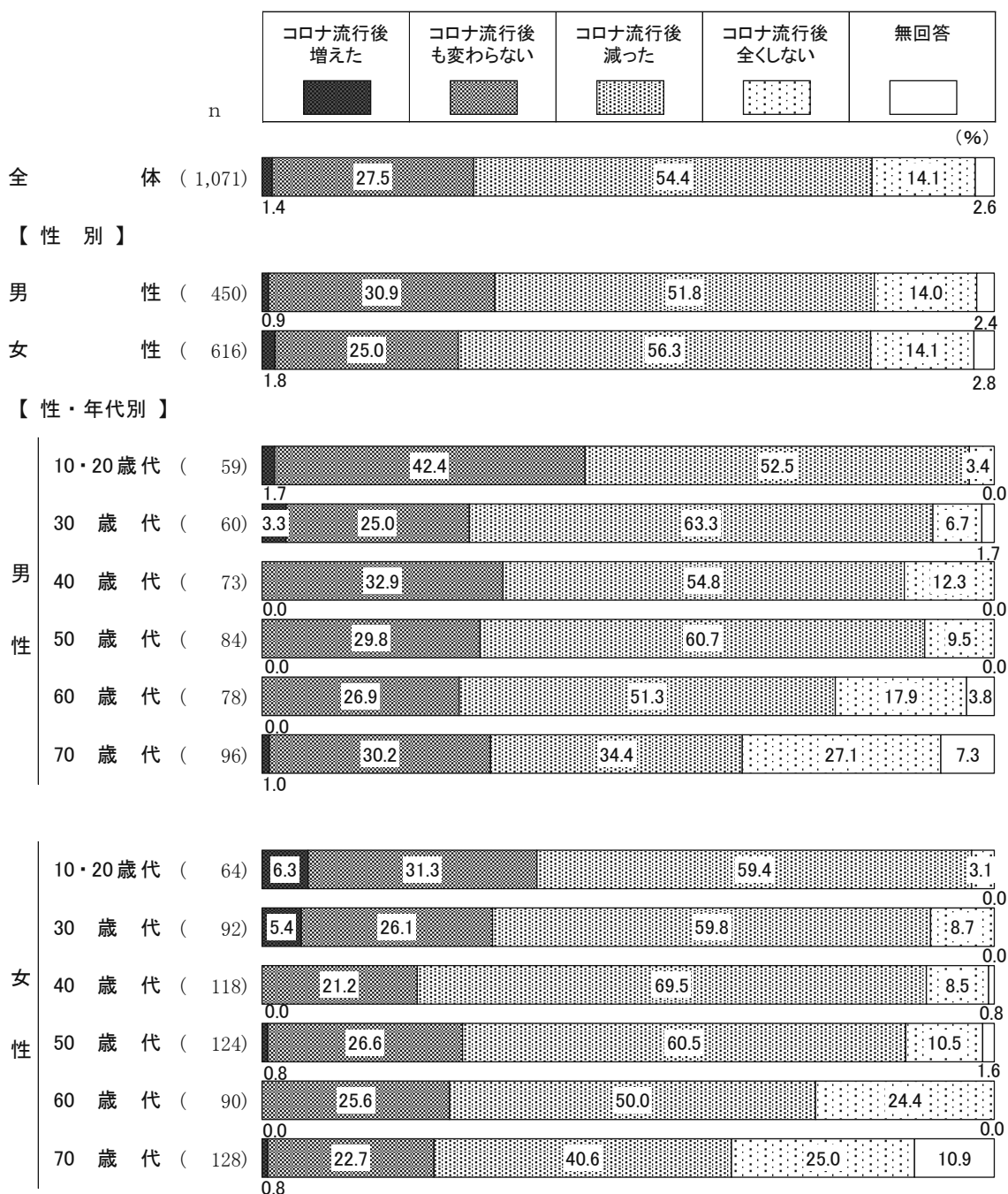


⑦自宅で食事をするについて性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は男性30歳代で7割近く、女性40代、10・20歳代で5割台半ばと多くなっている。(図6-1-8)

図 6-1-9 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑧飲食店で食事をする

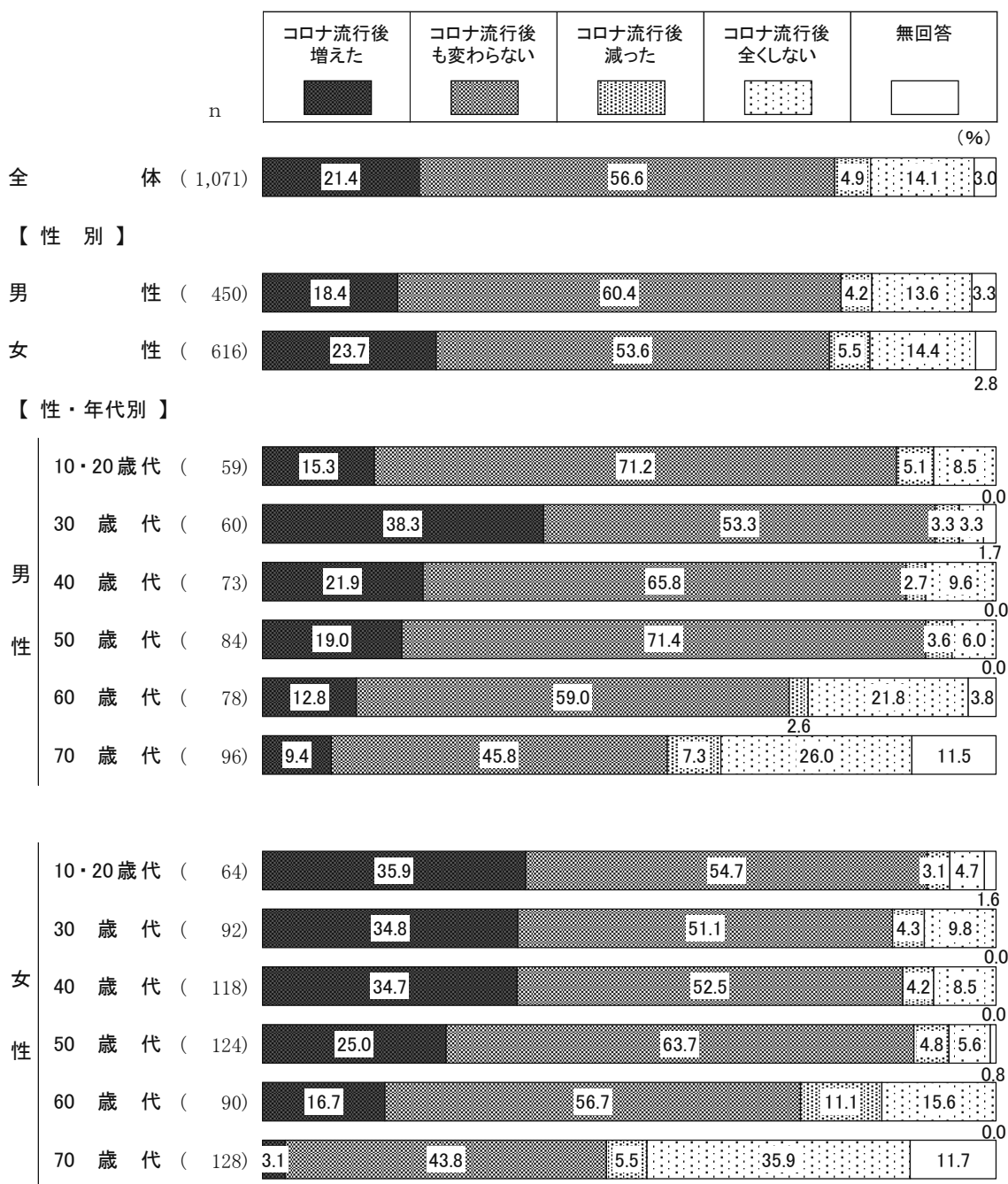


⑧飲食店で食事をするについて性別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが5.9ポイント高く、「コロナ流行後減った」は女性のほうが4.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後減った」は女性40歳代で約7割、男性30歳代で6割台前半と多くなっている。(図6-1-9)

図6-1-10 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑨テイクアウト、デリバリーを利用する

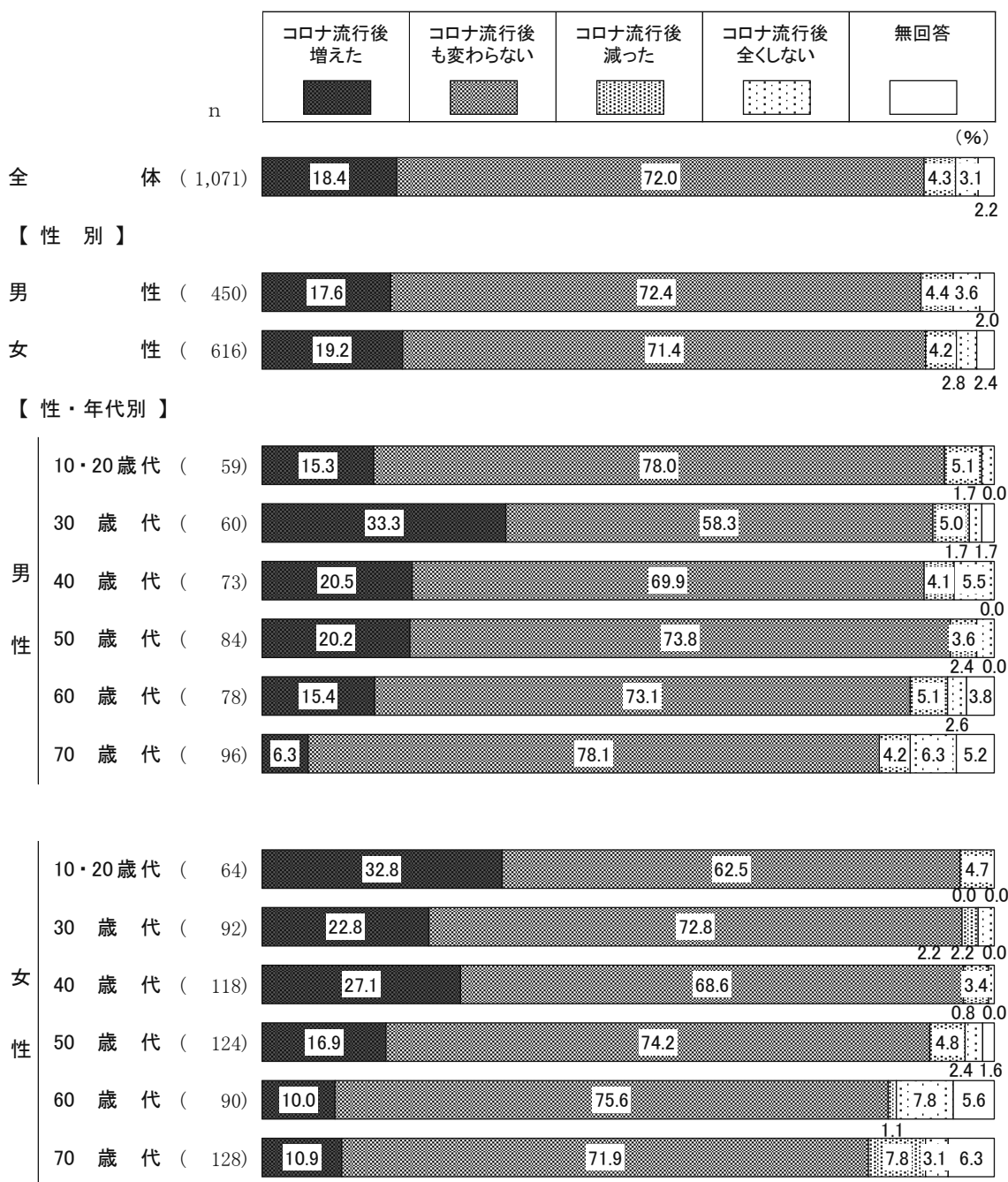


⑨テイクアウト、デリバリーを利用するについて性別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが6.8ポイント高く、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが5.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は男性30歳代で4割近く、女性10・20歳代から40歳代で3割台半ばと多くなっている。(図6-1-10)

図 6-1-11 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑩家族と一緒に食事をする

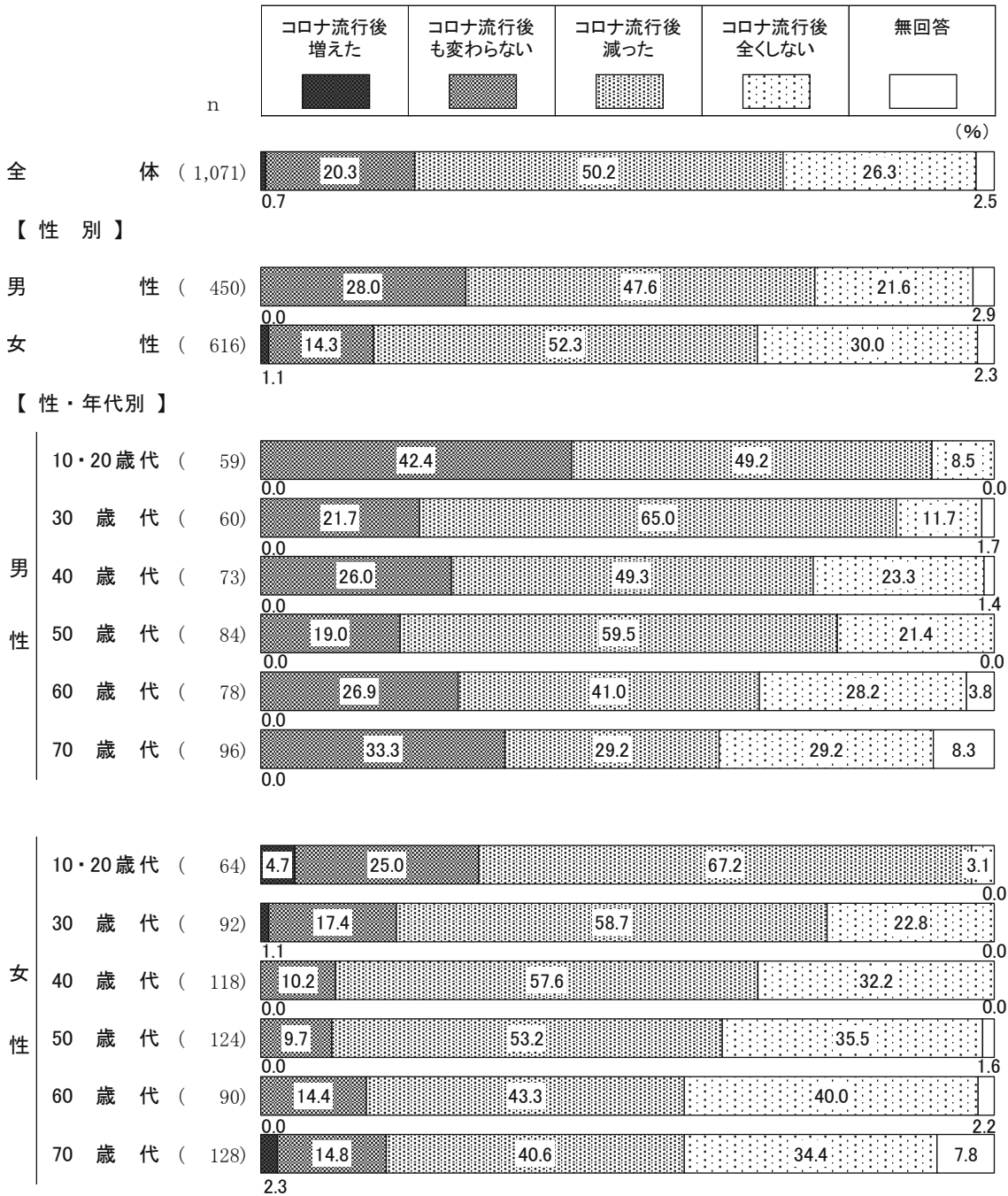


⑩家族と一緒に食事をするについて性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は男性30歳代、女性10・20歳代で3割台前半と多くなっている。(図6-1-11)

図6-1-12 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑪知人・友人と一緒に食事をする

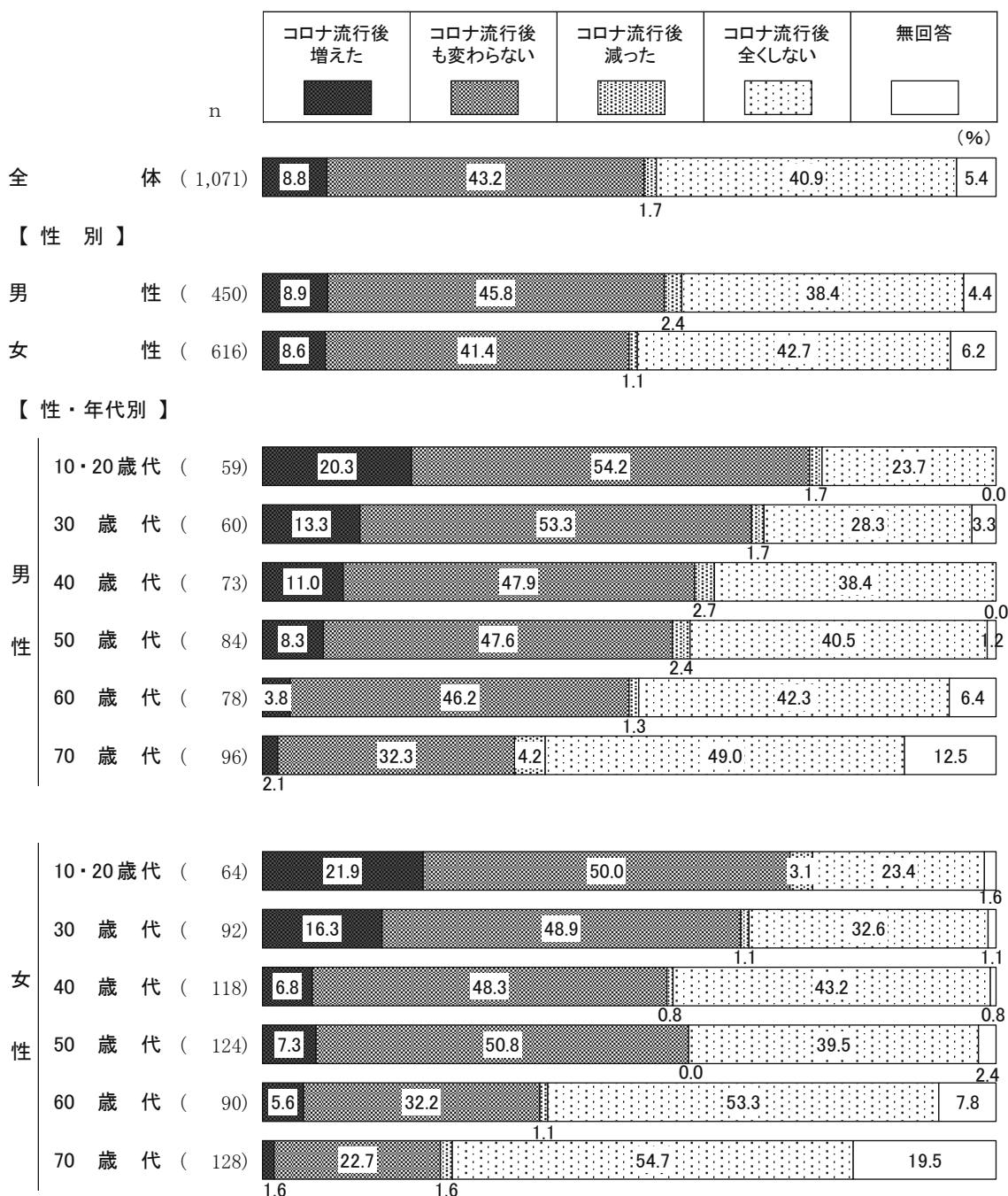


⑪知人・友人と一緒に食事をするについて性別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが13.7ポイント高く、女性のほうが「コロナ流行後全くしない」で8.4ポイント、「コロナ流行後減った」で4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性10・20歳代で4割を超え、「コロナ流行後減った」は女性10・20歳代で7割近くと多くなっている。「コロナ流行後全くしない」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、女性60歳代で4割となっている。(図6-1-12)

図 6-1-13 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑫オンラインで食事会や飲み会をする

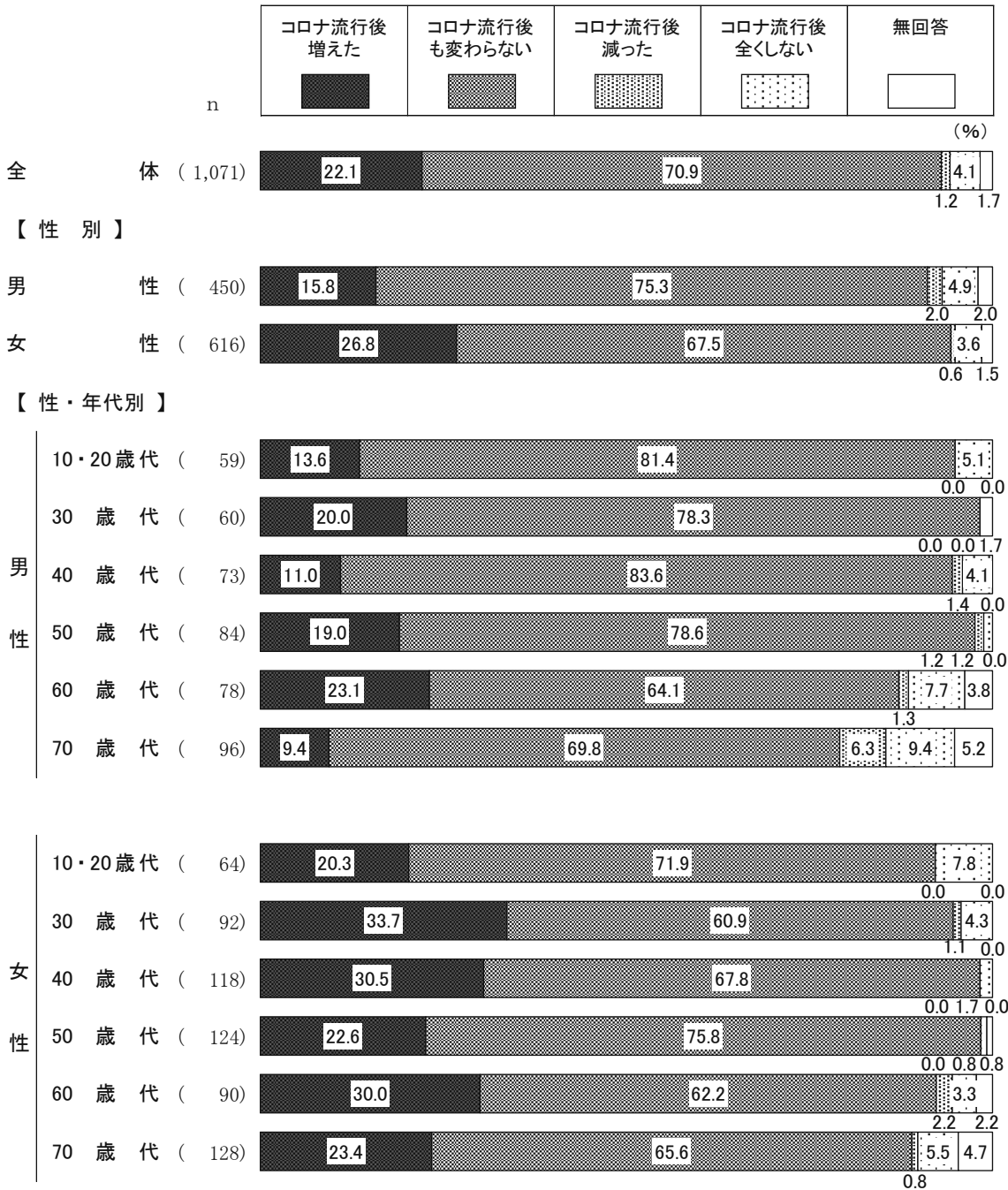


⑫オンラインで食事会や飲み会をするについて性別にみると、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが4.4ポイント高く、「コロナ流行後全くしない」は女性のほうが4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、女性10・20歳代、男性10・20歳代で約2割となっている。一方、「コロナ流行後全くしない」は男女ともにおおむね年代が高いほど多くなっている。(図6-1-13)

図 6-1-14 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑬食料品を備蓄する

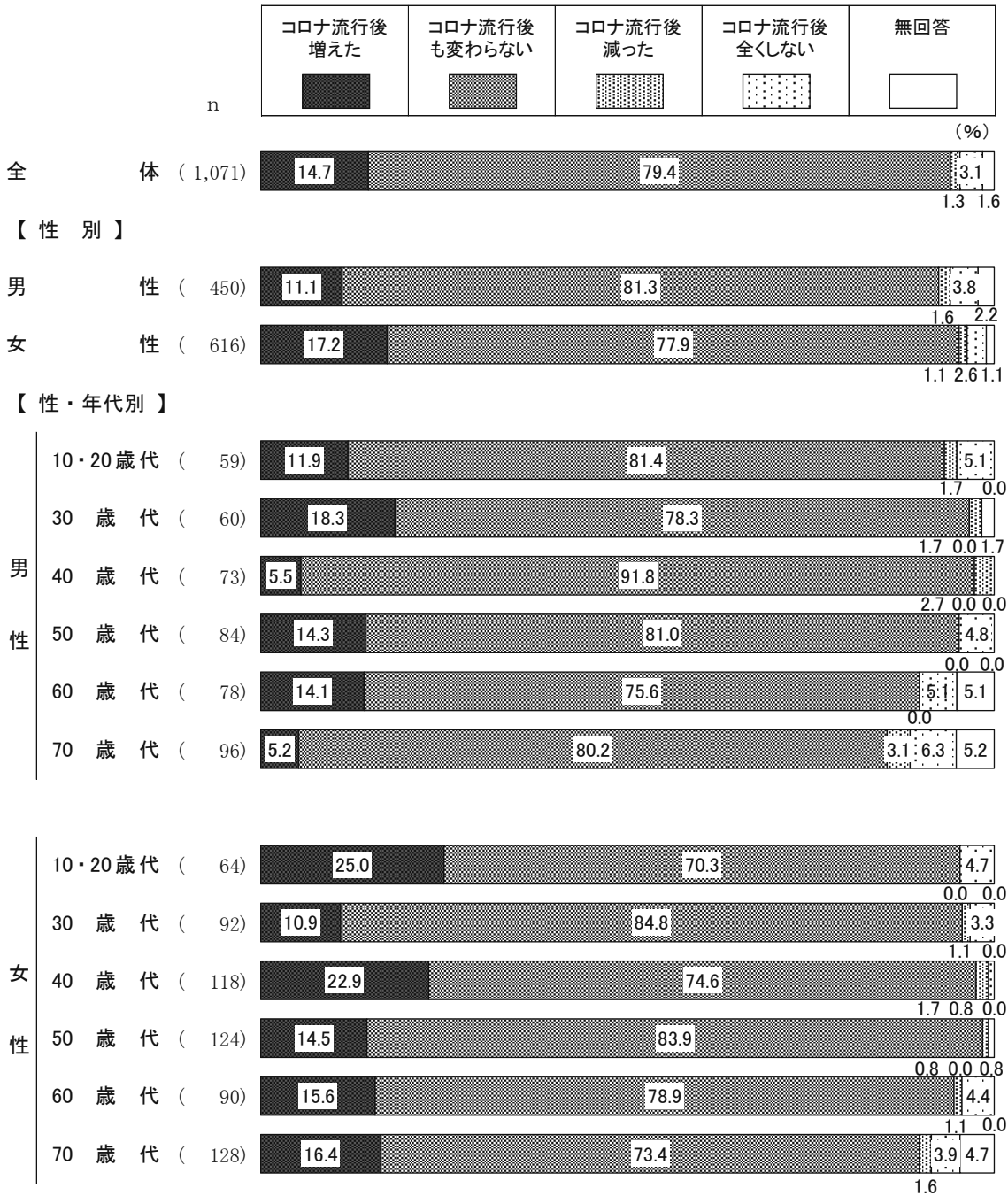


⑬食料品を備蓄するについて性別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが11.0ポイント高く、「コロナ流行後も変わらない」は男性のほうが7.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性30歳代で3割台前半と多くなっている。
(図 6-1-14)

図6-1-15 新型コロナウイルス感染症の流行前後の食生活の変化－性別／性・年代別

⑭節約を意識して食料品を購入する



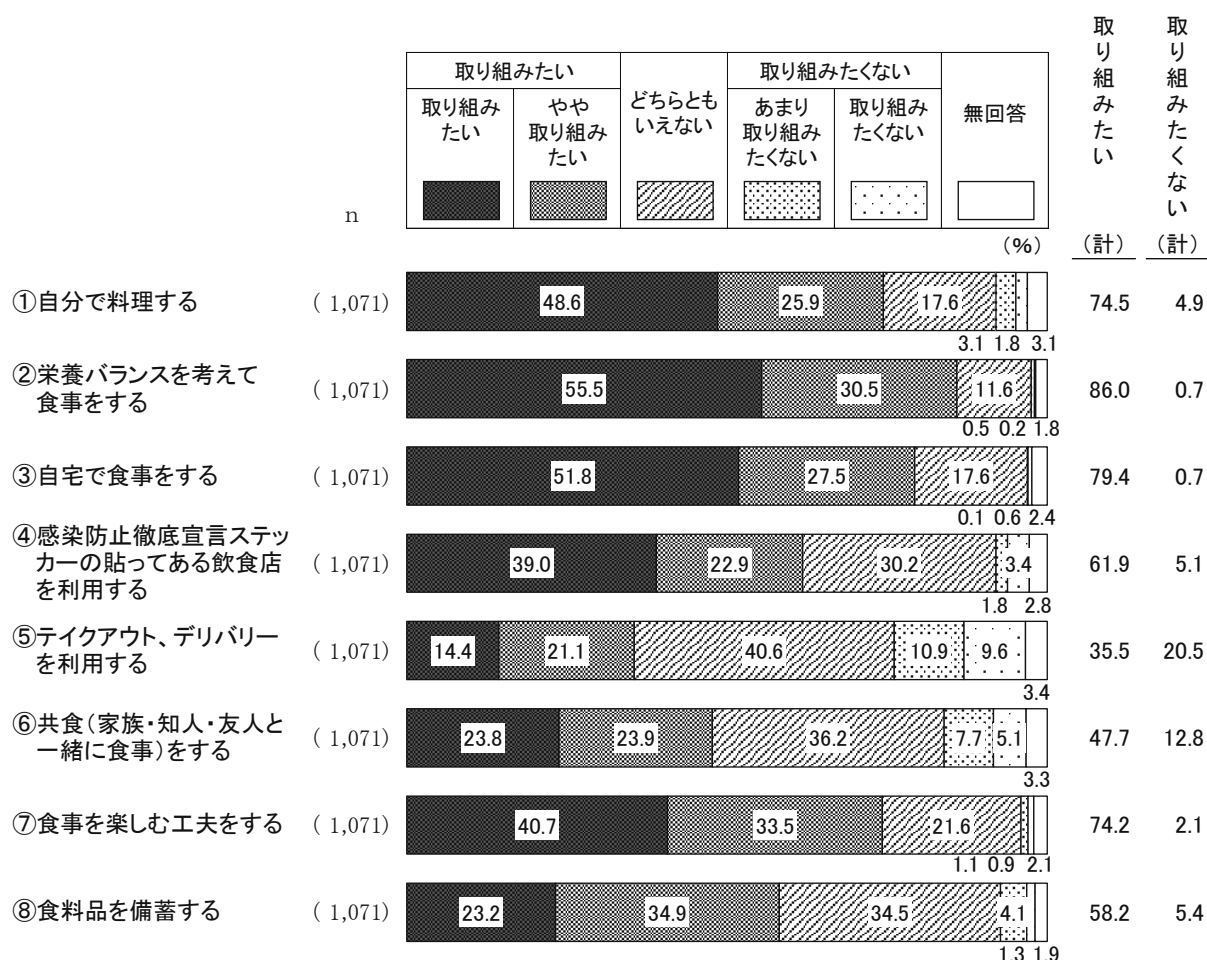
⑭節約を意識して食料品を購入するについて性別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性のほうが6.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「コロナ流行後増えた」は女性10・20歳代で2割台半ばと多くなっている。(図6-1-15)

(2) 食生活における今後の取り組み意向

問13 あなたは今後、次のことをどの程度取り組みたいと思いますか。
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。(○は1つずつ)

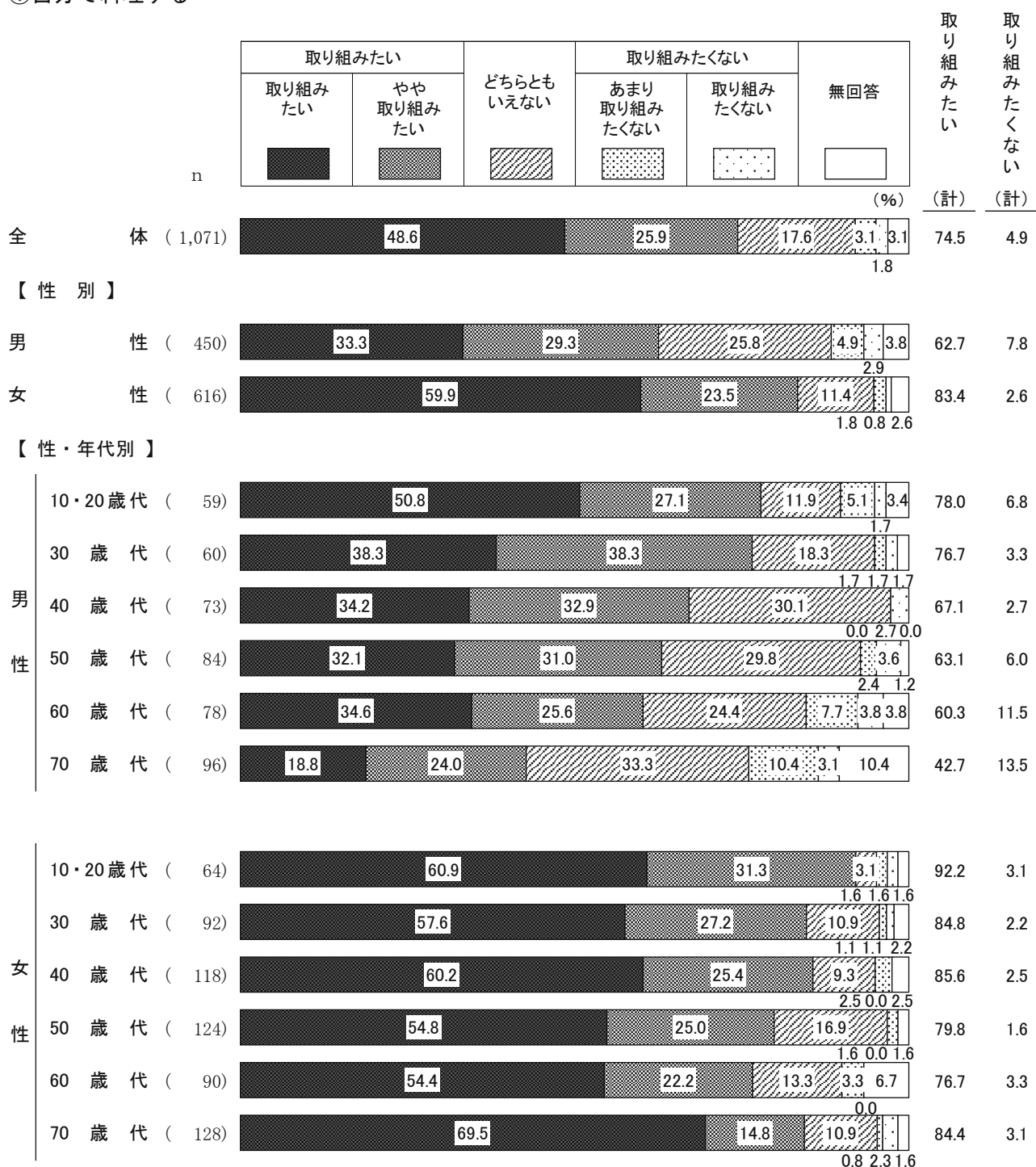
図6-2-1 食生活における今後の取り組み意向



食生活における今後の取り組み意向をたずねたところ、「取り組みたい」、「やや取り組みたい」を合わせた『取り組みたい(計)』は②栄養バランスを考えて食事をする(86.0%)が8割台半ば、③自宅で食事をする(79.4%)が約8割、①自分で料理をする(74.5%)、⑦食事を楽しむ工夫をする(74.2%)が7割台半ばとなっている。(図6-2-1)

図 6-2-2 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

①自分で料理する

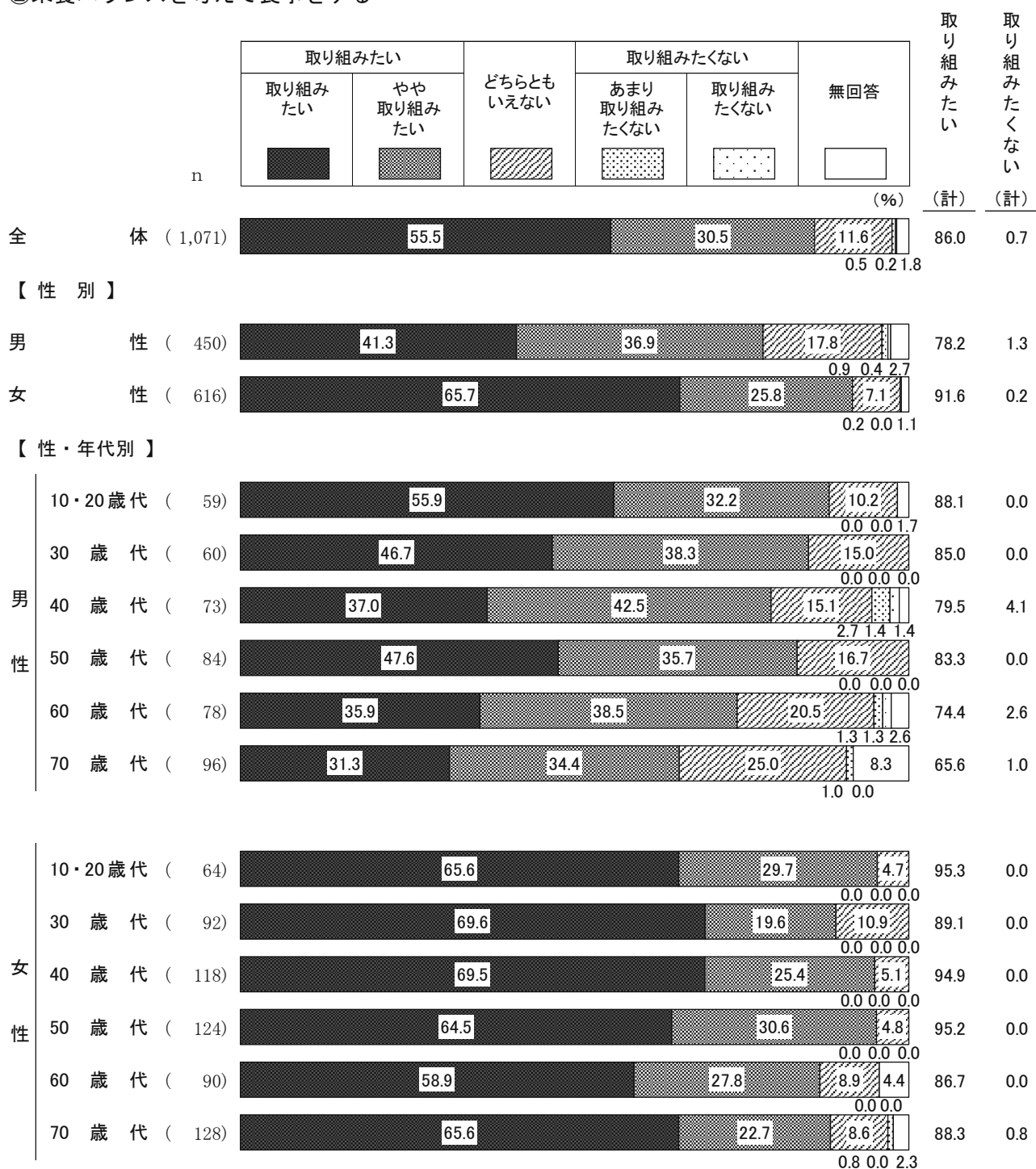


①自分で料理するについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが20.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性10・20歳代で9割を超えて多くなっている。（図6-2-2）

図 6-2-3 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

②栄養バランスを考えて食事をする

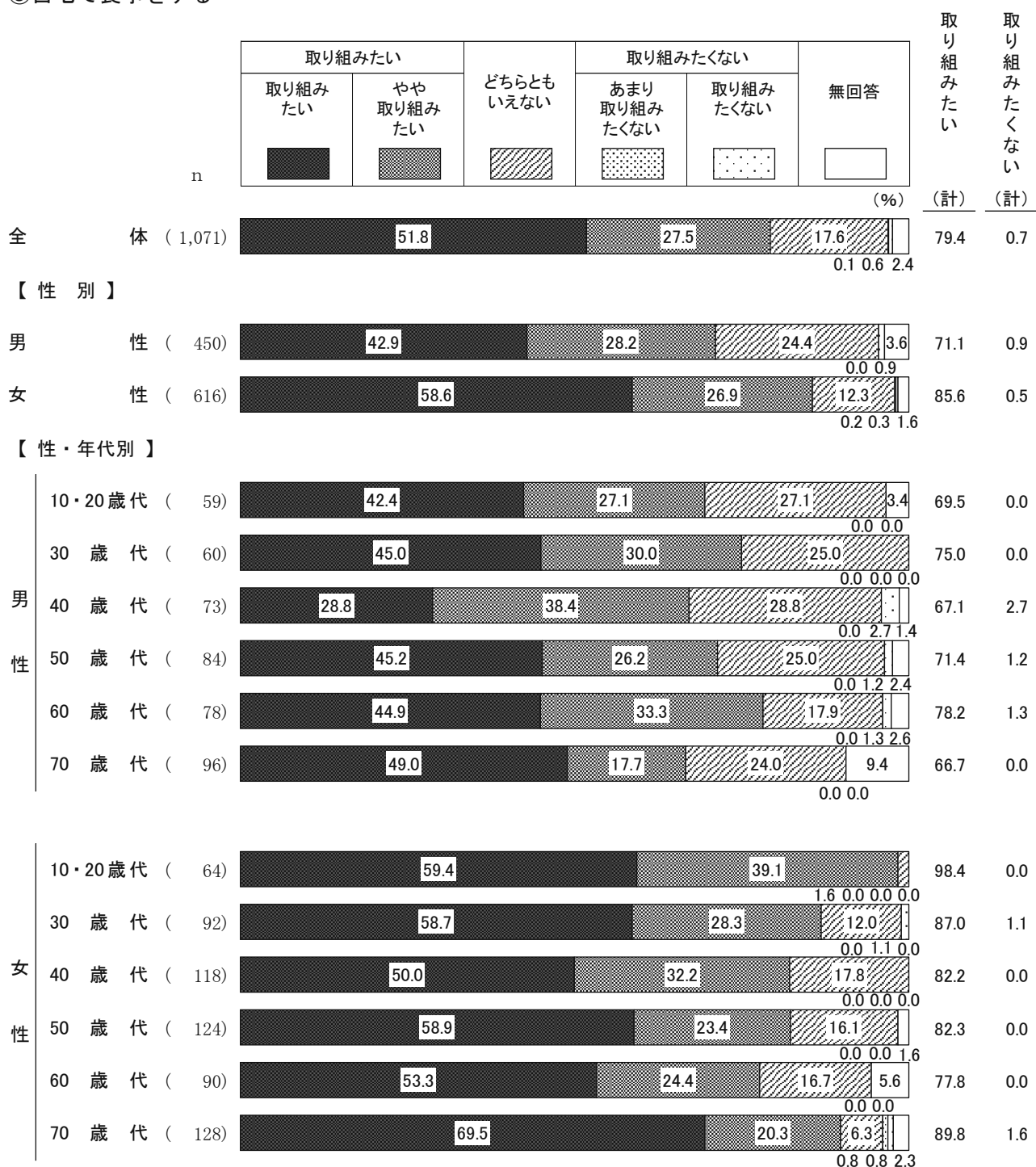


②栄養バランスを考えて食事をするについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが13.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性10・20歳代、50歳代、40歳代で9割台半ばと多くなっている。（図6-2-3）

図 6-2-4 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

③自宅で食事をする

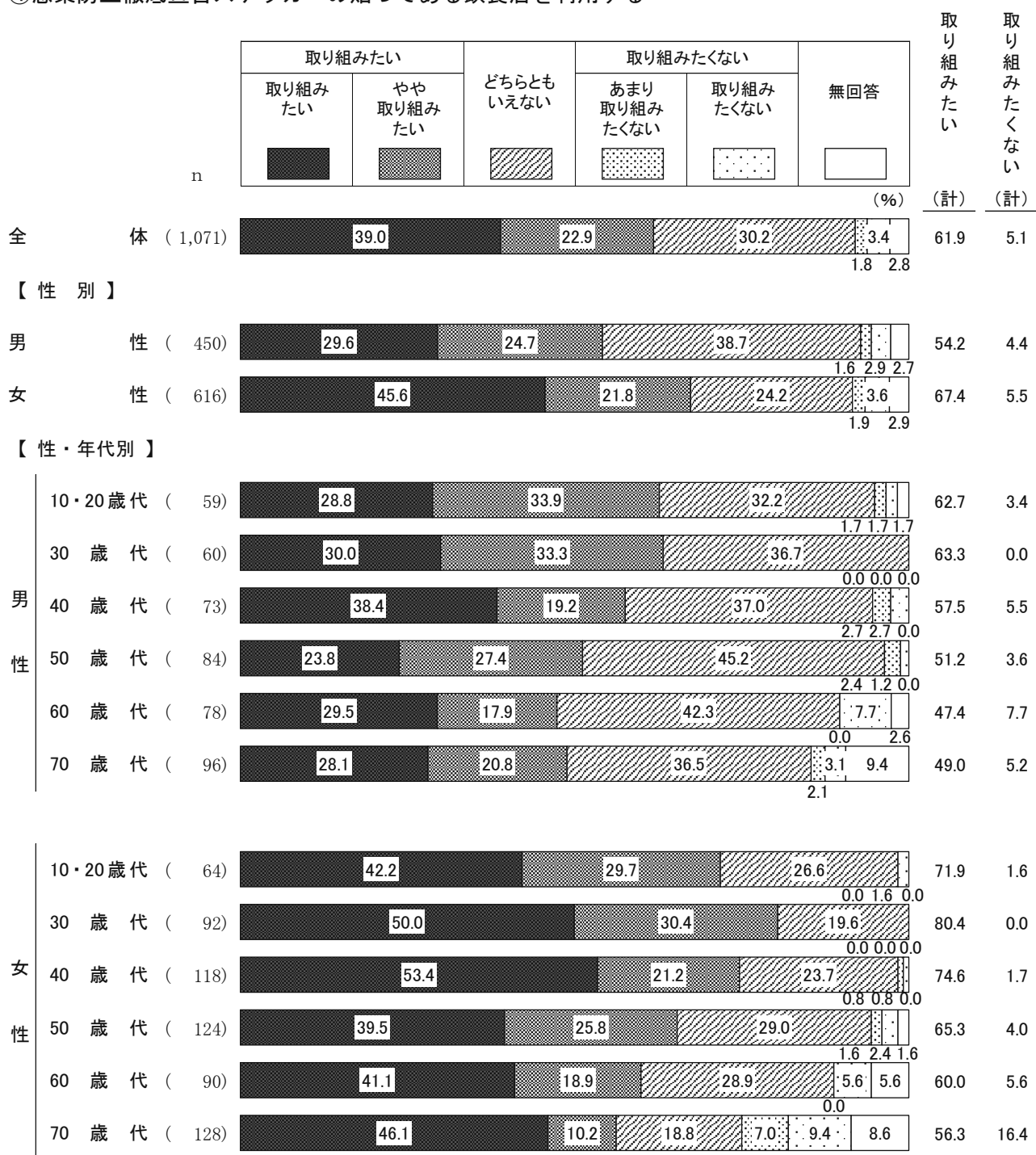


③自宅で食事をするについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが14.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性10・20歳代で10割近くと多くなっている。（図6-2-4）

図 6-2-5 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

④感染防止徹底宣言ステッカーの貼ってある飲食店を利用する

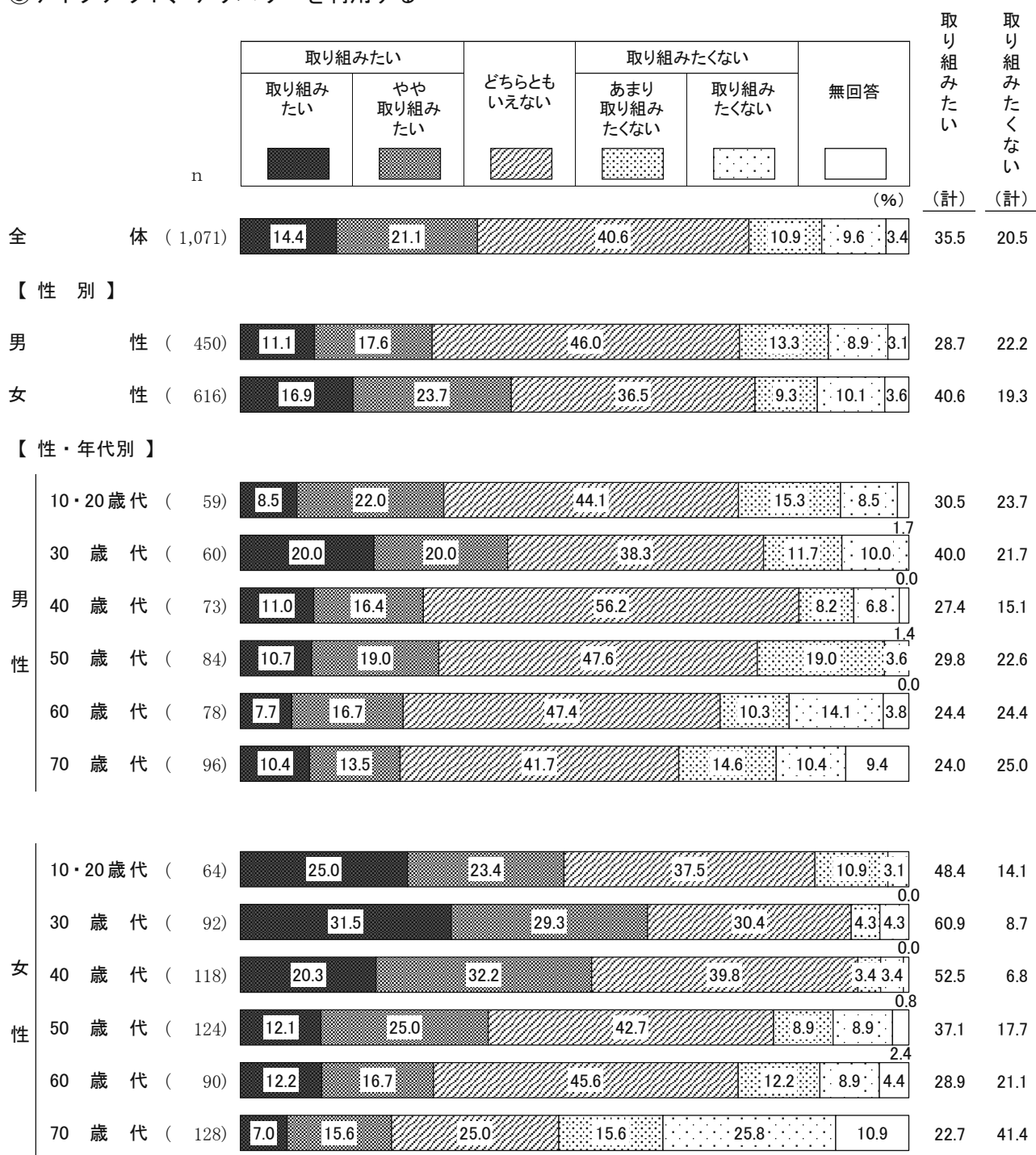


④感染防止徹底宣言ステッカーの貼ってある飲食店を利用するについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが13.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性30歳代で約8割と多くなっている。
(図 6-2-5)

図6-2-6 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

⑤テイクアウト、デリバリーを利用する

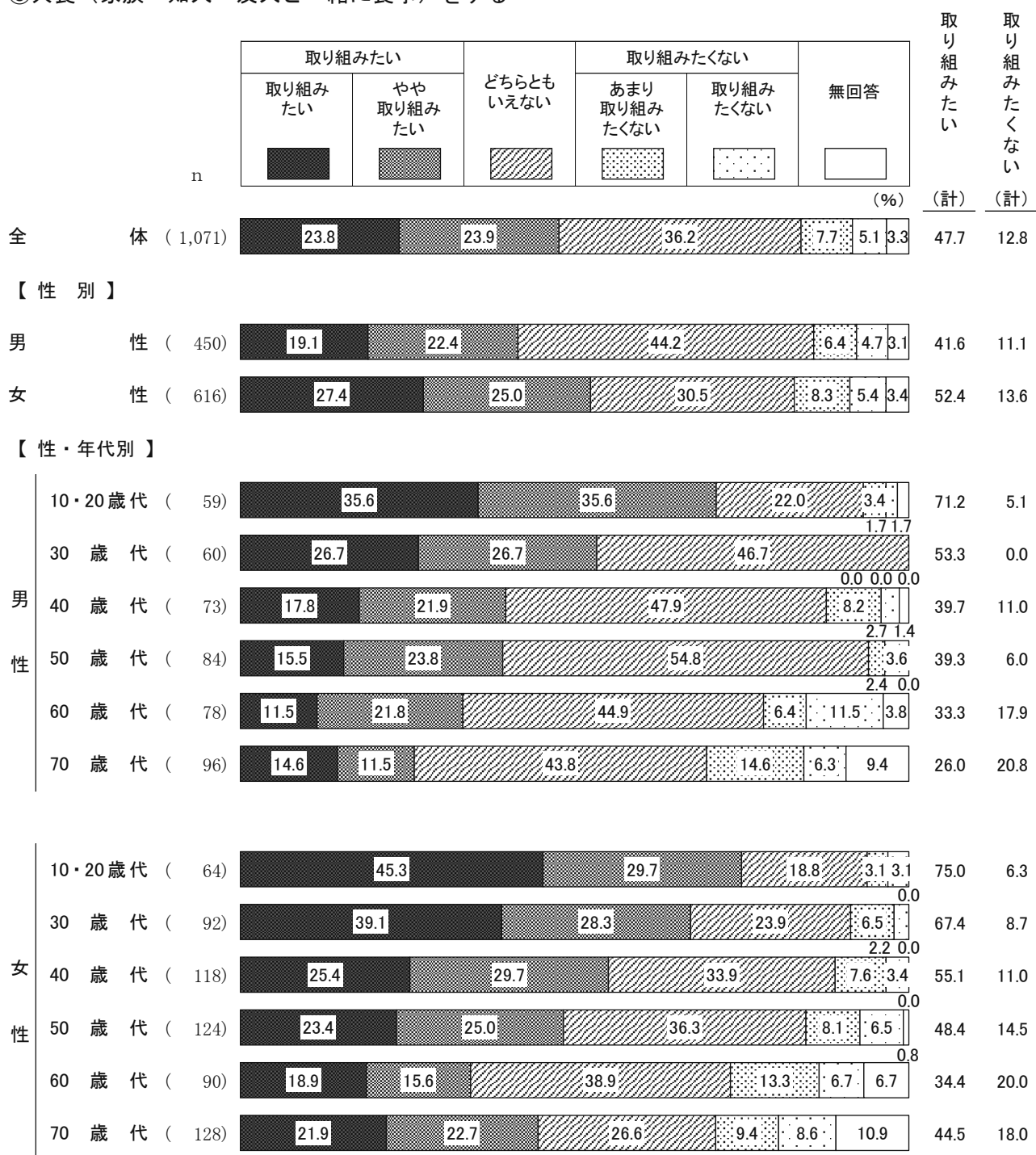


⑤テイクアウト、デリバリーを利用するについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが11.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は男女ともに30歳代以降の年齢でおおむね年齢が低いほど多く、女性30歳代で約6割と多くなっている。（図6-2-6）

図6-2-7 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

⑥共食（家族・知人・友人と一緒に食事）をする

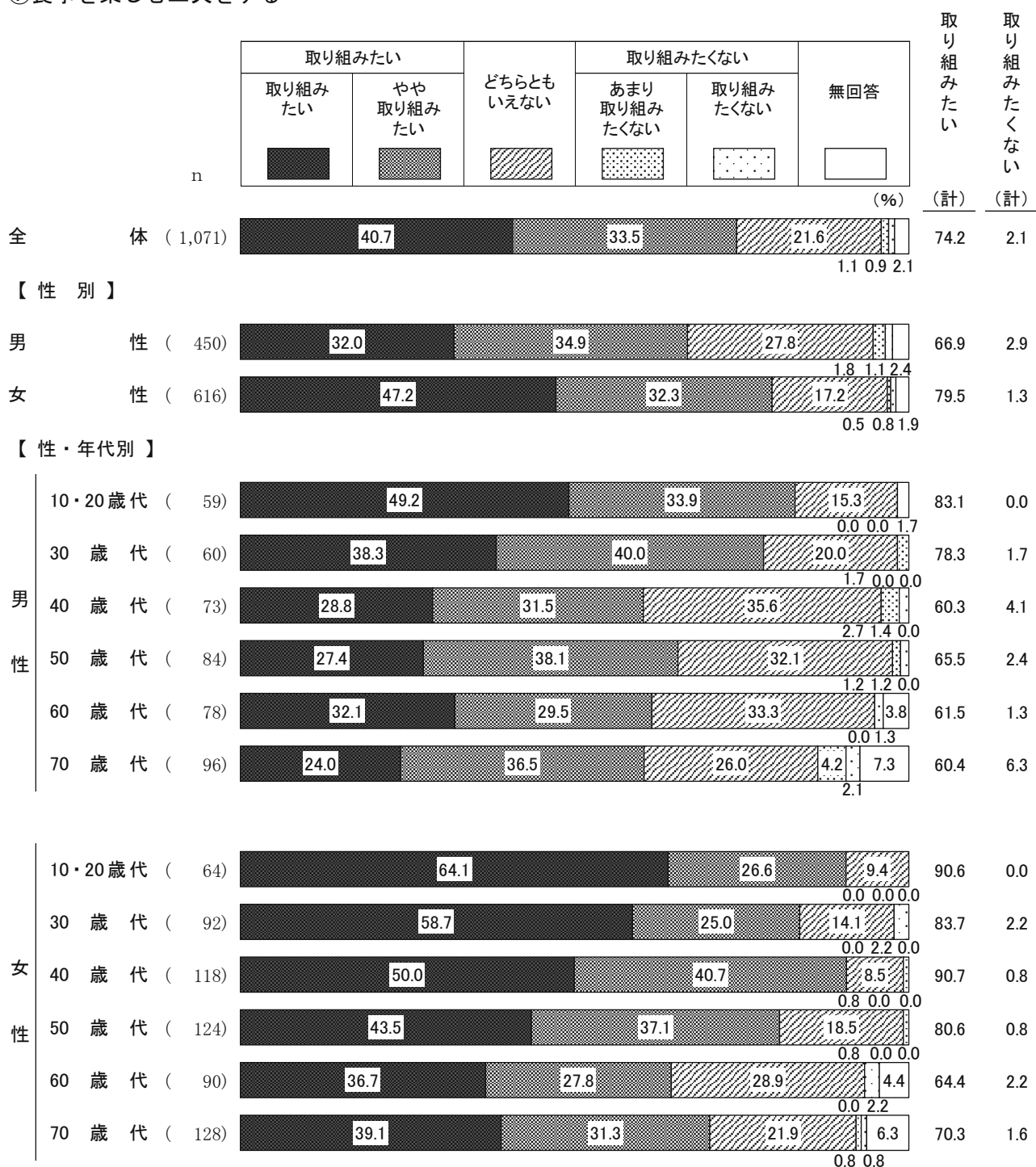


⑥共食（家族・知人・友人と一緒に食事）をするについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが10.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、女性10・20歳代で7割台半ば、男性10・20歳代で7割台前半と多くなっている。（図6-2-7）

図 6-2-8 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

⑦食事を楽しむ工夫をする

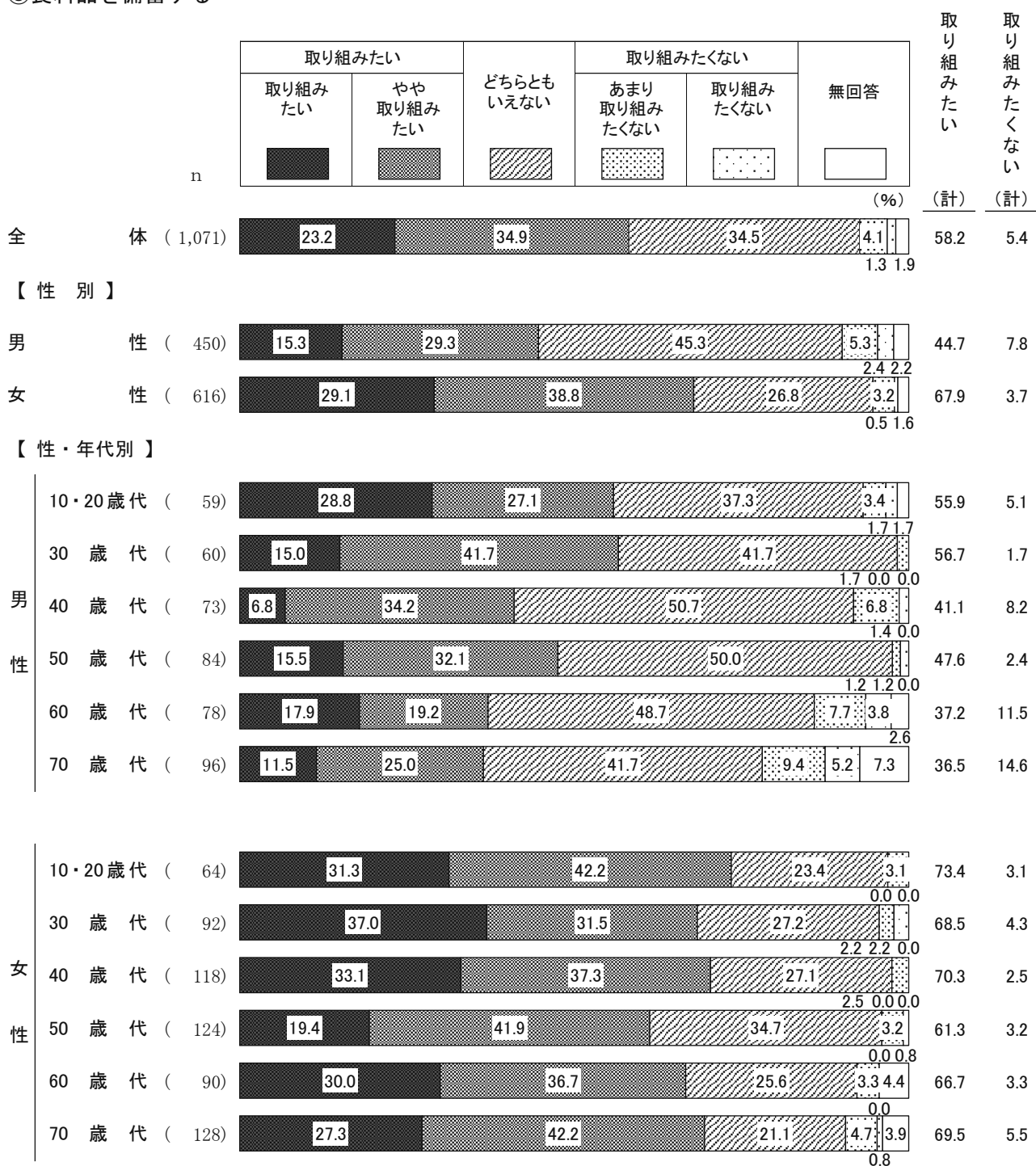


⑦食事を楽しむ工夫をするについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが12.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性40歳代、10・20歳代で約9割と多くなっている。（図6-2-8）

図 6-2-9 食生活における今後の取り組み意向－性別／性・年代別

⑧食料品を備蓄する



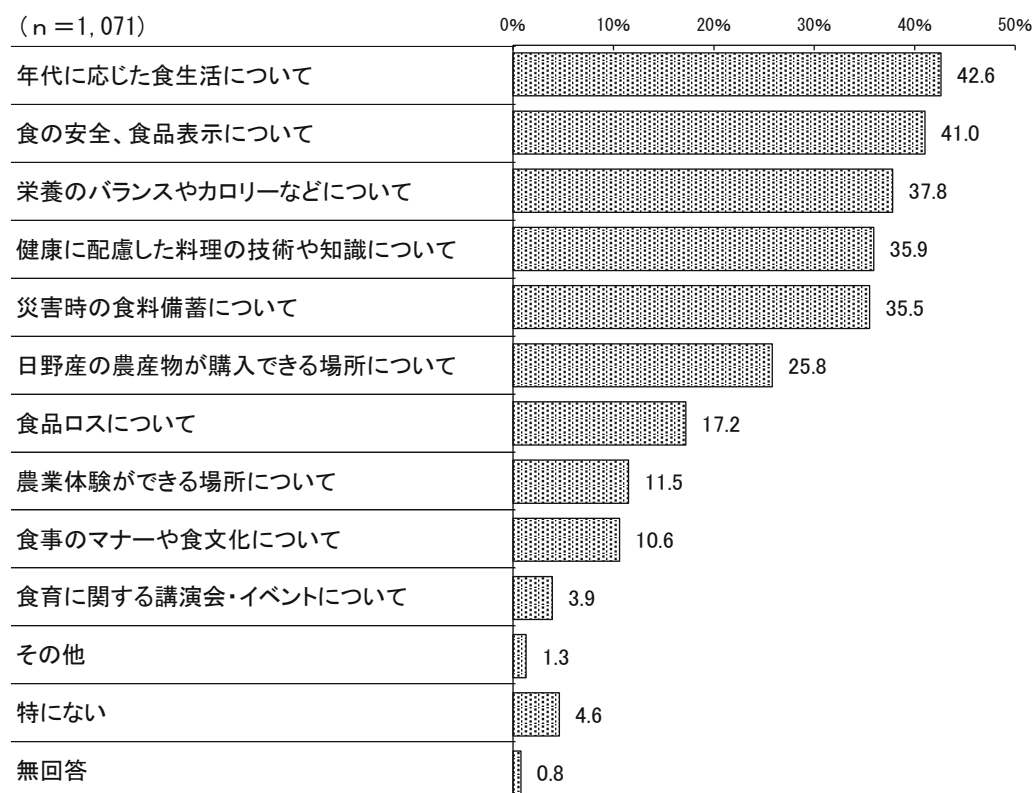
⑧食料品を備蓄するについて性別にみると、『取り組みたい（計）』は女性のほうが23.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『取り組みたい（計）』は女性10・20歳代、40歳代で7割を超えて多くなっている。（図6-2-9）

(3) 食育についてほしい情報

問14 あなたは、食育についてどのような情報がほしいですか。
次の中からあてはまるものを最大3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

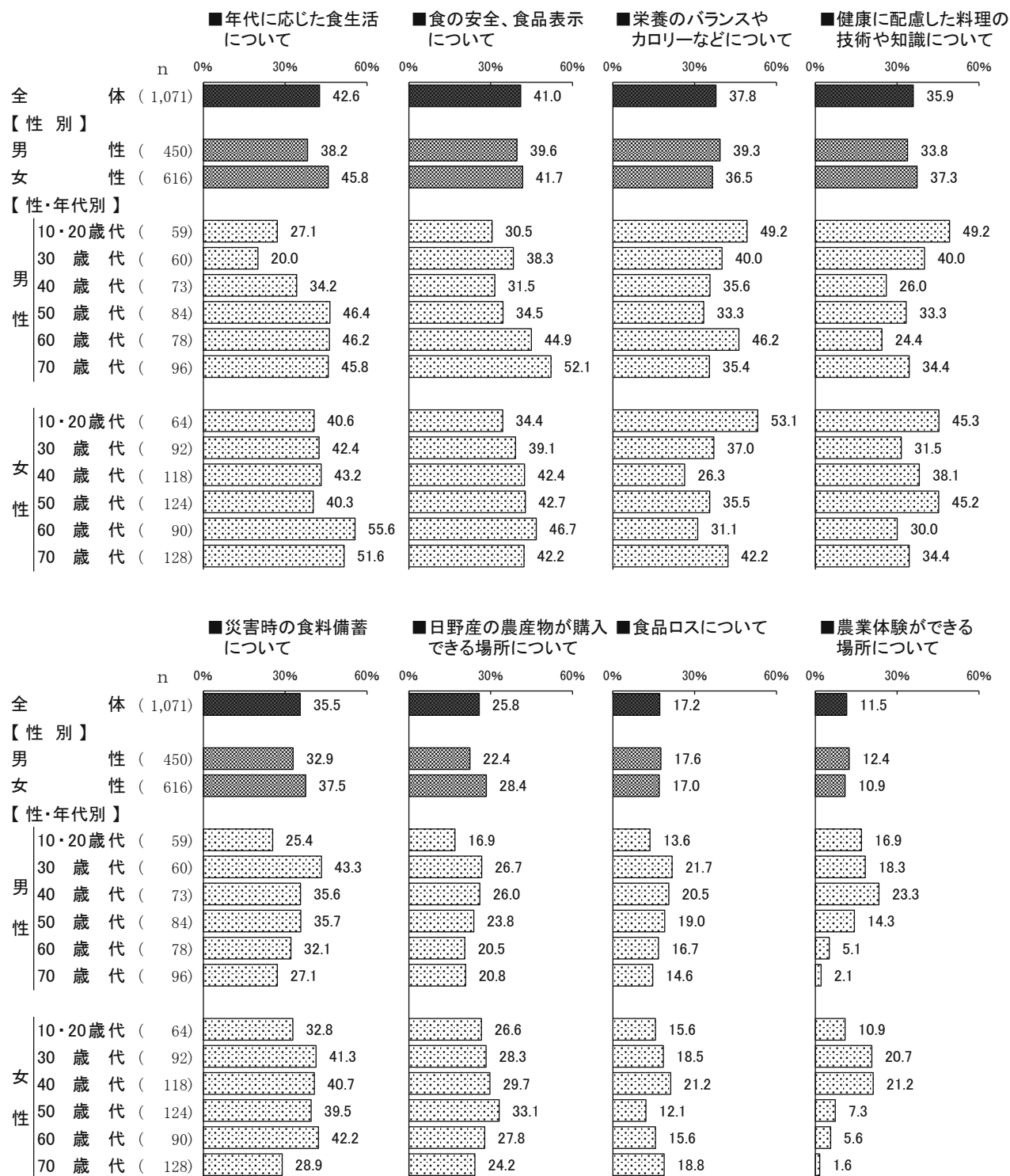
図6-3-1 食育についてほしい情報

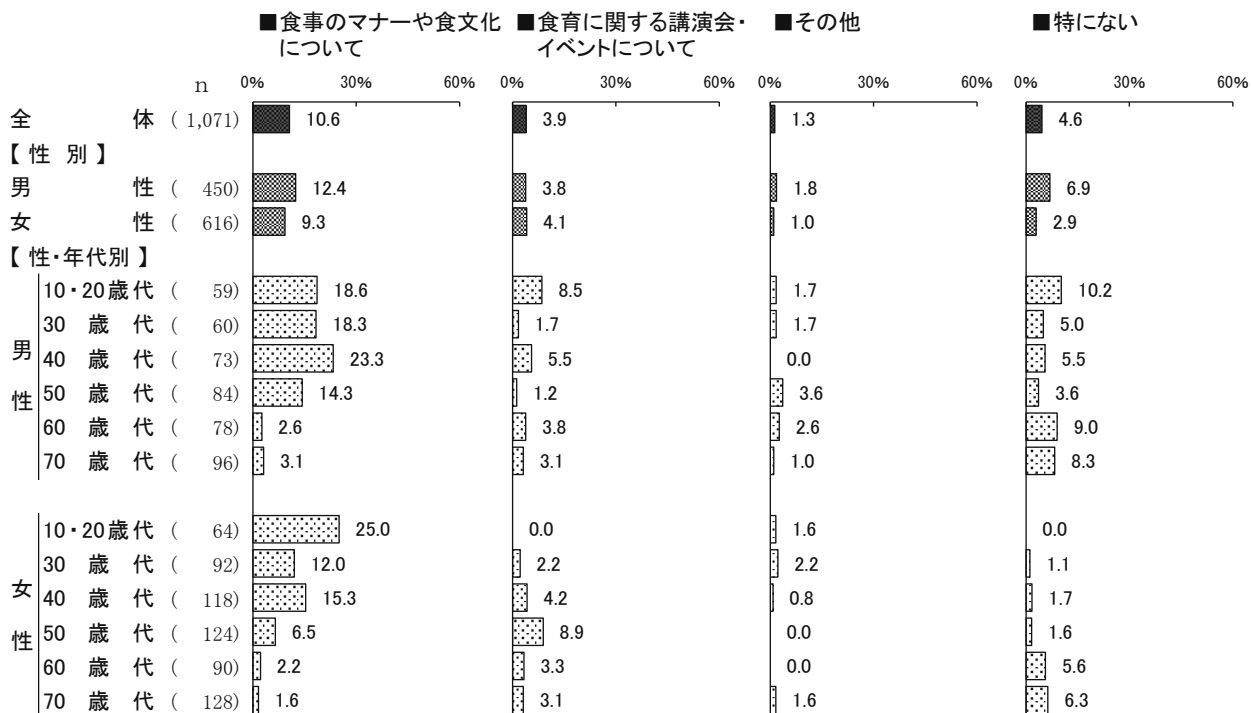


食育についてほしい情報をたずねたところ、「年代に応じた食生活について」(42.6%)が4割を超えて最も多く、次いで「食の安全、食品表示について」(41.0%)、「栄養のバランスやカロリーなどについて」(37.8%)、「健康に配慮した料理の技術や知識について」(35.9%)、「災害時の食料備蓄について」(35.5%)などの順となっている。

(図6-3-1)

図6-3-2 食育についてほしい情報－性別／性・年代別





性別にみると、女性のほうが「年代に応じた食生活について」で7.6ポイント、「日野産の農産物が購入できる場所について」で6.0ポイント、「災害時の食料備蓄について」で4.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「年代に応じた食生活について」は女性60歳代で5割台半ば、70歳代で5割を超え、「食の安全、食品表示について」は男性70歳代で5割を超えて多くなっている。「栄養のバランスやカロリーなどについて」は女性10・20歳代で5割を超え、男性10・20歳代で約5割、「健康に配慮した料理の技術や知識について」は男性10・20歳代で約5割と多くなっている。(図6-3-2)

Ⅱ 使用した調査票

日野市食育推進に関するアンケート調査

～ 調査のご協力をお願い ～

日ごろから、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

日野市では、市民の皆さまが豊かな食生活を楽しむ力を育み、心身ともに健康で充実した生活が送れるよう、市民・団体・行政が一体となって食育を推進するため、「日野市みんなですすめる食育条例」に基づき、令和3年度に「第4期日野市食育推進計画」を策定します。

そこで、市民の皆さまの食習慣などをお伺いするとともに、計画づくりの基礎資料とするため、食育推進に関するアンケートを実施することといたしました。

この調査は、市内にお住まいの方々から無作為に2,000名を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外には使用することはありません。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださるようお願いいたします。

令和2年11月

日野市長 大坪 冬彦

【 ご記入にあたってのお願い 】

調査は無記名です。日ごろお感じになっていることを率直にご回答ください。

1. 封筒のあて名の方がご回答ください。
2. ご本人が回答できない場合は、代筆でも差し支えありません。
3. 回答は選択肢の中から選んで、○印をつけてください。
4. 回答の○の数は、設問ごとに表示してありますので、それにあわせてお選びください。
5. 「その他」を選ばれた場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。

**12月8日（火）までに返信用封筒（切手不要）に入れて
ポストへ投函してください。**

◎この調査票についてご不明な点がございましたら、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

＜この調査票のお問い合わせ＞

日野市健康福祉部健康課

〒191-0011 日野市日野本町1-6-2（生活・保健センター内）

電話 042-581-4111

F A X 042-583-2400

日野市食育推進に関するアンケート調査

◆ あなた自身についておたずねします。

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1 男 性

2 女 性

F 2 あなたの令和2年10月1日時点の年齢を教えてください。(○は1つだけ)

1 10歳代

5 50歳代

2 20歳代

6 60歳代

3 30歳代

7 70歳以上

4 40歳代

F 3 あなたの世帯状況は以下のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1 単身（ひとり暮らし）

2 夫婦のみ

3 二世帯世帯（親と子）

4 三世帯世帯（親と子と孫など）

5 その他の世帯（具体的に：)

F 4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

1 会社員、団体職員

6 学生

2 公務員

7 家事専業

3 自営業（農業を除く）

8 無職

4 農業

9 その他（具体的に：)

5 パート・アルバイト

F 5 あなたが現在お住まいの地区は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

1 栄町

11 新井

21 東豊田

2 新町

12 万願寺

22 豊田（丁目）

3 日野台

13 高幡

23 東平山

4 日野本町

14 三沢

24 西平山

5 日野

15 百草

25 大坂上

6 宮

16 落川

26 多摩平

7 上田

17 南平

27 富士町

8 川辺堀之内

18 程久保

28 旭が丘

9 神明

19 平山

29 上記以外の地区

10 石田

20 豊田（大字）

◆ 食育についておたずねします。

問 1 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。

(○は1つだけ)

※「食育」とは、心身の健康の基本となる、食生活に関するさまざまな教育を行うことです。栄養のバランス、調理法、食べ物の安全性に関する知識などを身につけることや、豊かな食生活を楽しむ力を育むことなどを目指します。

- 1 よく内容を知っている
- 2 だいたい内容を知っている
- 3 内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある
- 4 はじめて聞いた

→ 問 2 へ

【 問 1 で「1 よく内容を知っている」～「3 内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答した方に 】

問 1-2 あなたは日頃から「食育」に関する活動や行動をしていますか。

(○は1つだけ)

- 1 積極的にしている
- 2 するようにしている
- 3 あまりしていない
- 4 したいと思っているが、実際にはしていない
- 5 したいとは思わないし、していない

→ 問 2 へ

【 問 1-2 で「1 積極的にしている」～「3 あまりしていない」と回答された方に 】

問 1-3 あなたがしている「食育」に関する活動や行動の内容は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 栄養バランスのとれた食生活を送るようにしている
- 2 安全な食品を購入している
- 3 農業体験をする
- 4 食に関する伝統行事へ参加する
- 5 食生活の改善に関する勉強会へ参加する
- 6 食に関わるボランティア活動へ参加する
- 7 地産地消を理解し、実践している
- 8 その他（具体的に：

)

【 全員の方にお聞きします 】

問2 食生活において次のことをどの程度意識していますか。

それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。

(○は1つずつ)

		意識 している	やや 意識 している	どちらとも いえない	あまり 意識して いない	意識して いない
(記入例)	⇒	1	2	3	4	5
① 朝食をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
② 栄養バランスのとれた食事をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
③ 野菜を多くとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
④ 牛乳・乳製品をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑤ たんぱく質をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑥ 塩分をとりすぎないようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑦ よく噛んで食べるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑧ できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑨ 食事を楽しむようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑩ 食材の旬を意識している	⇒	1	2	3	4	5

問3 あなたは朝食を食べていますか。

(○は1つだけ)

1	ほとんど毎日食べる	→ 問3-1へ
2	週に4～5日程度食べる	
3	週に2～3日程度食べる	
4	ほとんど食べない	→ 問3-2へ

【 問3で「1 ほとんど毎日食べる」～「3 週に2～3日程度食べる」と回答された方に 】

問3-1 あなたは朝食に何を食べていますか。

(○はいくつでも)

1	ごはん (おにぎり)	8	卵
2	パン類	9	豆腐、納豆など
3	菓子パン類	10	野菜類 (サラダ、煮物、野菜炒めなど)
4	めん類	11	牛乳及び乳製品 (チーズ、ヨーグルトなど)
5	シリアル (コーンフレークなど)	12	果物
6	肉及び食肉加工品 (ハムなど)	13	味噌汁及びスープなどの汁物類
7	魚介類 (魚、貝類、魚卵等)	14	その他 (具体的に:)

【 問3で「4 ほとんど食べない」と回答された方に 】

問3-2 あなたはなぜ朝食を食べないのですか。

(○はいくつでも)

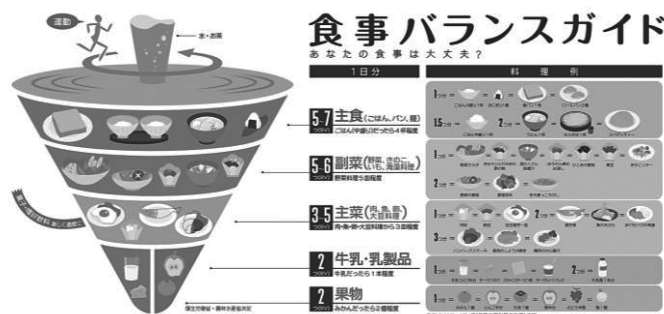
1	時間がない	6	太りたくない
2	朝起きられない	7	以前から食べる習慣がない
3	食欲がない	8	節約したい
4	用意されていない	9	その他 (具体的に:)
5	作るのが面倒だ		

【 全員の方にお聞きします 】

問4 あなたは「食事バランスガイド」を知っていますか。 (○は1つだけ)

※平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が決定した「食事バランスガイド」は、食事の基本を身につけるための望ましい食事のとり方や、おおよその量を分かりやすく示しています。

- 1 知っている
- 2 参考になっている
- 3 知らない



問5 1日にどれくらいの頻度で野菜を食べていますか。 (○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-------|-----------------|
| 1 毎食食べている | → 問6へ | 4 1回も食べない日もある |
| 2 1日2回 | | 5 1回も食べない日がほとんど |
| 3 1日1回 | | |

【 問5で「2 1日2回」～「5 1回も食べない日がほとんど」と回答した方に 】

問5-1 あなたが野菜を毎食食べない理由は何ですか。 (○はいくつでも)

- 1 調理や片付けが面倒だから
- 2 調理や食べる時間がないから
- 3 野菜が苦手だから
- 4 家族が嫌いで食べないから
- 5 料理方法が良くわからない・調理ができないから
- 6 価格が高いから
- 7 毎食食べなくても問題ないと思うから
- 8 その他 (具体的に:)

【 全員の方にお聞きします 】

問6 1日にどれくらいの量の野菜を食べていますか。 (○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 片手半分くらいの量 | 4 両手山盛くらいの量 |
| 2 片手1杯くらいの量 | 5 両手山盛以上の量 |
| 3 両手1杯くらいの量 | 6 まったく食べない |

問7 あなたは、日野市が「ベジ活350～両手山盛りいっぱいを習慣に～」をキャッチフレーズに、1日350gの野菜を食べるための取り組みを進めていることを知っていますか。（○は1つだけ）

- 1 よく内容を知っている
- 2 だいたい内容を知っている
- 3 内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある
- 4 はじめて聞いた



◆ 地産地消についておたずねします。

問8 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがありますか。（○は1つだけ）

1 ある

2 ない

→ 問8-2へ

【問8で「1 ある」と回答した方に】

問8-1 日野産の農産物（野菜・果物）を購入した理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 新鮮だから
- 2 おいしいから
- 3 栄養価が高いと思うから
- 4 色や形がよいから
- 5 一般の農産物に比べて安全・安心と思うから
- 6 一般の農産物に比べて安いと思うから
- 7 生産者の顔が見えるから
- 8 その他（具体的に：

）

【問8で「2 ない」と回答した方に】

問8-2 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 日野産の農産物が見当たらないため
- 2 店頭に並ぶ日野産の農産物が少ないため
- 3 日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため
- 4 日野産の農産物が日野産以外の農産物と比べて高かったため
- 5 品質や形にばらつきがみられるため
- 6 正式な表示がなく、日野産の農産物かどうか分からないため
- 7 関心がないため
- 8 その他（具体的に：

）

◆ 農業体験についておたずねします。

問9 あなたは、農業体験を行ったことがありますか。(○は1つだけ)

※農業体験とは、田植えや稲刈り、野菜の植付け・収穫、果樹の栽培（摘果や剪定）や収穫、乳搾りや家畜の餌やりなどの酪農体験、花やハーブの栽培等々、文字通り農家の方の生業（なりわい）を体験するものです。
※家庭菜園（プランターを含む）等の身近な栽培のほか、フルーツ狩り等も含まれます。

1 ある

2 ない

→ 問9-3へ

【問9で「1 ある」と回答した方に】

問9-1 あなたが行った農業体験は、どのような取り組みでしたか。(○はいくつでも)

- 1 家庭菜園
- 2 民間のツアーなど
- 3 地方自治体や地域の取組
- 4 学校の取組
- 5 実家、親戚、知人の手伝い
- 6 農業に従事している（専業・兼業は問いません）
- 7 その他（具体的に：_____）

問9-2 農業体験を行って、何か変化したことはありますか。(○はいくつでも)

- 1 自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった
- 2 地場産や国産の食材を積極的に選ぶようになった
- 3 苦手な野菜などが食べられるようになった
- 4 生産者との交流が増えた
- 5 その他（具体的に：_____）
- 6 変化はなかった
- 7 わからない

【問9で「2 ない」と回答した方に】

問9-3 農業体験を行ったことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 関心がないから | 4 参加費用がかかるから |
| 2 体験に参加する方法がわからないから | 5 その他（具体的に：_____） |
| 3 体験する自信がないから | 6 わからない |

【全員の方にお聞きします】

問10 あなたが農業体験を行うとしたら、どのような作業に参加したいですか。
最も参加したいものを1つだけお選びください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 田植え（種まき）などの植え付け | 4 家畜の世話や搾乳 |
| 2 収穫のみ | 5 その他（具体的に：_____） |
| 3 植え付けから収穫までの一連の作業 | 6 参加したくない |

◆ 環境への配慮についておたずねします。

問11 あなたは環境に配慮して次のことを実践したり、心がけたりしていますか。
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。(○は1つずつ)

		している	ある程度 している	どちらとも いえない	あまり していない	していない
(記入例)	⇒	1	2	3	4	5
① 食材の廃棄や食べ残しを 少なくするようにしている	⇒	1	2	3	4	5
② 食材の食べ残しをたい肥 等にリサイクルしている	⇒	1	2	3	4	5

◆ 新型コロナウイルス感染症流行による食生活への影響についておたずねします。

問12 新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、次のことは増えましたか、減りましたか。
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。(○は1つずつ)

		コロナ流行後 増えた	コロナ流行後 も変わらない	コロナ流行後 減った	コロナ流行後 全くしない
(記入例)	⇒	1	2	3	4
① 自分で料理する	⇒	1	2	3	4
② 栄養バランスを考えて食事をする	⇒	1	2	3	4
③ 低カロリー、低糖質の食事をする	⇒	1	2	3	4
④ サプリメントやトクホ、機能性表示食 品のような健康食品を利用する	⇒	1	2	3	4
⑤ 間食をする	⇒	1	2	3	4
⑥ 飲酒をする	⇒	1	2	3	4
⑦ 自宅で食事をする	⇒	1	2	3	4
⑧ 飲食店で食事をする	⇒	1	2	3	4
⑨ テイクアウト、デリバリーを利用する	⇒	1	2	3	4
⑩ 家族と一緒に食事をする	⇒	1	2	3	4
⑪ 知人・友人と一緒に食事をする	⇒	1	2	3	4
⑫ オンラインで食事会や飲み会をする	⇒	1	2	3	4
⑬ 食料品を備蓄する	⇒	1	2	3	4
⑭ 節約を意識して食料品を購入する	⇒	1	2	3	4

(○は1つずつ)

		取り組み たい	やや 取り組み たい	どちらとも いえない	あまり 取り組み たくない	取り組み たくない
(記入例)	⇒	1	2	3	4	5
① 自分で料理する	⇒	1	2	3	4	5
② 栄養バランスを考えて食事をする	⇒	1	2	3	4	5
③ 自宅で食事をする	⇒	1	2	3	4	5
④ 感染防止徹底宣言ステッカーの貼ってある 飲食店を利用する	⇒	1	2	3	4	5
⑤ テイクアウト、デリバリーを利用する	⇒	1	2	3	4	5
⑥ 共食（家族・知人・友人と一緒に食事）を する	⇒	1	2	3	4	5
⑦ 食事を楽しむ工夫をする	⇒	1	2	3	4	5
⑧ 食料品を備蓄する	⇒	1	2	3	4	5

問14 あなたは、食育についてどのような情報がほしいですか。
次の中からあてはまるものを最大3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

↓ 番号を記入	
1 栄養のバランスやカロリーなどについて	1 つめ
2 食の安全、食品表示について	
3 年代に応じた食生活について	
4 健康に配慮した料理の技術や知識について	2 つめ
5 食育に関する講演会・イベントについて	
6 農業体験ができる場所について	
7 日野産の農産物が購入できる場所について	3 つめ
8 食事のマナーや食文化について	
9 食品ロスについて	
10 災害時の食料備蓄について	
11 その他（具体的に： _____）	
12 特にない	

★ 最後に、今後の市の食育の推進についてのご意見・ご提案などございましたら、お書きください。

--

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は、同封した返信用封筒に入れて、12月8日（火）までに
お近くのポストに投函してください（切手を貼る必要はありません）。

日野市食育推進に関するアンケート調査 調査書

令和3年3月

[発 行] 日野市健康福祉部健康課
〒191-0011 日野市日野本町1丁目6番2号
 日野市生活・保健センター内
電話：042（581）4111（ダイヤルイン）

この調査書の白色の用紙は、再生紙を使用しています。

